

令和 5 年 度 科 目 案 内

「北 稜 シ ラ バ ス」



3 年 生

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	現代文 B	3	3年総合探究	本岡・青柳
教科書	『精選現代文B』(東京書籍)	副教材	『クリアカラー国語便覧』数研出版 『三訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳 こののは』 いいずな書店 『改訂版 読み・書き・覚える 日本文学史必携』第一学習社	

1. 学習の目標

・2年次で学習した「現代文B」を踏まえ、基礎的な学力がさらに高まり、より質の高い文章が読解できるようになる。
・文章を読解により語彙力が高まり、適切な言葉の使い方が身につく、文章表現力が身につく。
・文章の内容理解を深める中で多角的な視点でものごとを考えられるようになる。
・辞書、図書館の書籍・資料を利用・活用したりインターネット検索を通じたりして自発的に疑問点や興味のある事柄を進んで調べる力が身につく。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

・新しい単元に入る際に漢字・語句を調べて覚える。
・授業では板書を書き写すだけではなく、他の人の考えにも耳を傾ける。
・小テストなどで取り組んだ内容を定着させる。
・考査前にはノートに基づいて本文を精読する。さらに繰り返し本文を読んで、本文が頭の中にある状態にする。
・学んだ事柄を総合的に関連付けられるようにする。
・入試対策として市販の問題集などに進んで取り組む。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	出席、態度、課題・レポート・ノートなどの提出状況 ・漢字・語彙・文章に興味を持ち、進んで読書・リサーチしているか ・真摯に意欲的な態度で授業に臨んでいるか ・辞書等が準備できているか、予習・復習に取り組んでいるか
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	授業での発問、意見発表、他者の質問・意見に対する論理的な対応 ・自分の考えを筋道を立てて話しているか ・他者の発問・意見を的確に捉え理解できるか ・優れた文章に接して自分の表現に役立てているか
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	ノート・課題・レポート・考査などの的確な記述や表現 ・表記、語彙の使用など正確で適切な記述表現ができるか ・目的、相手に応じた論理的・効果的な記述や表現ができているか ・書くことを通して自らの考えが深まっているか
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	教科書、資料、考査問題、演習問題などの正確な読解 ・進んで読書に心がけ幅広い分野の文章に接しているか ・主題の読み取りや工夫された文章表現の読み取りができるか ・要約したり自分の意見を持ったりして発展させているか
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	語彙・文法を理解し目的や場に応じた話し方、記述などの表現 ・語彙・文法を正確に理解し使用しているか ・文章構造のパターンについて理解しているか ・言語の役割・特性と人との関わりを理解しているか

4. 担当者からのメッセージ

「現代文」の教科書の中にあるのは、今を生きるみなさんに必要となる知力の源そのものです。端的に言えば、他者を知り自分を伝え、より良い社会を構築するために必要不可欠な知恵と力を手に入れるための勉強です。基礎・基本をしっかり身につけることを大切に、私たちが「現代」を生きるために先人が残してくれたメッセージに出会い、考え、発展させていきましょう。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	自己評価	教材
1	評論	・教材への興味・関心を持つ。【関心・意欲・態度】	・「文学」や「文学研究」というものにどのようなイメージを持つか、好きな「文学作品」とその理由などについて、各自の意見を発表する。		教科書 「文学の未来」 表現
		・本文の内容を理解する。【読む能力】	・全文を通読し、取り上げられている具体例を各自の体験に照らして簡単なメモにまとめる。		
		・本文を読んで、考えたことをまとめる。【書く能力／話す・聞く能力】	・筆者の考えを理解する。 ・各自の考え方を具体的な例を挙げながらまとめ、発表する。		
	小説	・本文を通読して、内容を理解する。【読む能力】	・本文を通読して、構成をつかむ。 ・表現に即して、主人公の心情の変化を考える。 ・モチーフの役割の変化を考える。		教科書 「檸檬」 表現
		・本文を読んだ感想を話し合う。【関心・意欲・態度】【話す・聞く能力】	・当時の「私」をひきつけ慰めたものと、抑えつけ憂鬱にさせたものとは、それぞれ「私」にとってどのようなものとして描かれているか、話し合う。		
	評論	・取り上げられたテーマについて、関心を持つ。【関心・意欲・態度】	・現代の環境問題について考えたことを、具体的に挙げる。		教科書 「環境問題と孤立した個人」 環境
		・本文の内容を把握する。【読む能力】	・意味段落ごとの筆者の考えを押さえ本文を通読する。 ・取り上げられている問題の意味内容を理解して、筆者の考えを読み取る。		
		・本文に登場する漢字や語句、歴史的事象について知る。【知識・理解】	・現代社会における環境問題について知る。		
2	評論	・本文に登場する漢字や語句、歴史的事象について知る。【知識・理解】	・難解な語句について調べ、意味を知る。		教科書 「社会の壊れるとき―知性的であるとはどういうことか」
		・本文の概略を把握する。【読む能力】	・抽象的な言葉や指示語の意味内容を理解して、筆者の考えを読み取る。 ・「近代」というテーマで筆者の主張を理解する。		
		・本文に述べられた事柄について、考えを深める。【関心・意欲・態度】	・「知性的」であることが求められる、現代の社会問題について話し合う。		
	小説	・本文に描かれた内容について、自分の身に引きつけて考える。【関心・意欲・態度】	・主人公の考え方や行動について、どのように考えるか、時代背景なども踏まえて話し合う。		教科書 「舞姫」 表現
		・ストーリーと主人公の心情を理解する【読む能力】	・意味段落ごとの主な出来事を大まかにつかむ。 ・出来事が主人公の心情にどのような影響を与えたのかを考える。 ・時代背景をふまえながら、小説の主題を理解する。		
		・作者や時代についての理解を深める。【知識・理解】	・作者について学び、作品理解の助けとする。		
	評論	・取り上げられている話題に関心を持っている。【関心・意欲・態度】	・三つの例とそれらを通じて述べられた筆者の考えとを確かめながら、全文を通読する。		教科書 「原始社会像の真実」 表現
		・意味段落ごとに内容を理解する【読む能力】	・原始社会の実像の捉え方と社会の変遷についての筆者の考えを理解する。		
		・筆者の考えを把握し、自分の意見を発表する。【関心・意欲・態度】【話す・聞く能力】	・これまでの生徒自らの見聞と照らし合わせるなどして、本文を読んだ感想を話し合う。		
3	評論	・書かれた内容について自分で考えている。【関心・意欲・態度】	・「暴力」がなぜ起きてしまうのか、自分なりに考える。		教科書 「抗争する人間」
		・各段落を理解する【読む能力】	・本文のキーワードである、「倫理的態度」「対他関係」「虚栄心」が指している内容について理解する。		
		・本文に登場した難解な語句や漢字を理解している。【知識・理解】	・難解な語句について調べ、意味を知る。		

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	現代文 B	2	3年環境理数	河村・青柳
教科書	『精選現代文B』(東京書籍)	副教材	『クリアカラー国語便覧』数研出版 『三訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳 こののは』 いっずな書店 『改訂版 読み・書き・覚える 日本文学史必携』第一学習社	

1. 学習の目標

- ・2年次で学習した「現代文B」を踏まえ、基礎的な学力がさらに高まり、より質の高い文章が読解できるようになる。
- ・文章を読解により語彙力が高まり、適切な言葉の使い方が身につく、文章表現力が身につく。
- ・文章の内容理解を深める中で多角的な視点でものごとを考えられるようになる。
- ・辞書、図書館の書籍・資料を利用・活用したりインターネット検索を通じたりして自発的に疑問点や興味のある事柄を進んで調べる力が身につく。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・新しい単元に入る際に漢字・語句を調べて覚える。
- ・授業では板書を書き写すだけではなく、他の人の考えにも耳を傾ける。
- ・小テストなどで取り組んだ内容を定着させる。
- ・考査前にはノートに基づいて本文を精読する。さらに繰り返し本文を読んで、本文が頭の中にある状態にする。
- ・学んだ事柄を総合的に関連付けられるようにする。
- ・入試対策として市販の問題集などに進んで取り組む。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	出席、態度、課題・レポート・ノートなどの提出状況 ・漢字・語彙・文章に興味を持ち、進んで読書・リサーチしているか ・真摯に意欲的な態度で授業に臨んでいるか ・辞書等が準備できているか、予習・復習に取り組んでいるか
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	授業での発問、意見発表、他者の質問・意見に対する論理的な対応 ・自分の考えを筋道を立てて話しているか ・他者の発問・意見を的確に捉え理解できるか ・優れた文章に接して自分の表現に役立てているか
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	ノート・課題・レポート・考査などの的確な記述や表現 ・表記、語彙の使用など正確で適切な記述表現ができるか ・目的、相手に応じた論理的・効果的な記述や表現ができているか ・書くことを通して自らの考えが深まっているか
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	教科書、資料、考査問題、演習問題などの正確な読解 ・進んで読書に心がけ幅広い分野の文章に接しているか ・主題の読み取りや工夫された文章表現の読み取りができるか ・要約したり自分の意見を持ったりして発展させているか
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	語彙・文法を理解し目的や場に応じた話し方、記述などの表現 ・語彙・文法を正確に理解し使用しているか ・文章構造のパターンについて理解しているか ・言語の役割・特性と人との関わりを理解しているか

4. 担当者からのメッセージ

「現代文」の教科書の中にあるのは、今を生きるみなさんに必要となる知力の源そのものです。端的に言えば、他者を知り自分を伝え、より良い社会を構築するために必要不可欠な知恵と力を手に入れるための勉強です。基礎・基本をしっかり身につけることを大切に、私たちが「現代」を生きるために先人が残してくれたメッセージに出会い、考え、発展させていきましょう。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	自己評価	教材
1	評論	・教材への興味・関心を持つ。【関心・意欲・態度】	・「文学」や「文学研究」というものにどのようなイメージを持つか、好きな「文学作品」とその理由などについて、各自の意見を発表する。		教科書 「文学の未来」
		・本文の内容を理解する。【読む能力】	・全文を通読し、取り上げられている具体例を各自の体験に照らして簡単なメモにまとめる。		
		・本文を読んで、考えたことをまとめる。【書く能力／話す・聞く能力】	・各自の考え方を具体的な例を挙げながらまとめ、発表する。		
	小説	・本文を通読して、内容を理解する。【読む能力】 ・本文を読んだ感想を話し合う。【関心・意欲・態度】 ・話す・聞く能力】	・本文を通読して、構成をつかむ。 ・表現に即して、主人公の心情の変化を考える。 ・モチーフの役割の変化を考える。 ・当時の「私」をひきつけ慰めたものと、抑えつけ憂鬱にさせたものとは、それぞれ「私」にとってどのようなものとして描かれているか、話し合う。		教科書 「檸檬」 表現
2	小説	・本文に描かれた内容について、自分の身に引きつけて考える。【関心・意欲・態度】 ・ストーリーと主人公の心情を理解する【読む能力】 ・作者や時代についての理解を深める。【知識・理解】	・主人公の考え方や行動について、どのように考えるか、時代背景なども踏まえて話し合う。 ・意味段落ごとの主な出来事を大まかにつかむ。 ・出来事が主人公の心情にどのような影響を与えたのかを考える。 ・時代背景をふまえながら、小説の主題を理解する ・作者について学び、作品理解の助けとする。		教科書 「舞姫」 表現
		・取り上げられている話題に関心を持っている。【関心・意欲・態度】 ・意味段落ごとに内容を理解する【読む能力】 ・筆者の考えを把握し、自分の意見を発表する。【関心・意欲・態度】【話す・聞く能力】	・三つの例とそれらを通じて述べられた筆者の考えとを確かめながら、全文を通読する。 ・原始社会の実像の捉え方と社会の変遷についての筆者の考えを理解する。 ・これまでの生徒自らの見聞と照らし合わせるなどして、本文を読んだ感想を話し合う。		
	評論	・書かれた内容について自分で考えている。【関心・意欲・態度】 ・各段落を理解する【読む能力】 ・本文に登場した難解な語句や漢字を理解している。【知識・理解】	・「暴力」がなぜ起きてしまうのか、自分なりに考える。 ・本文のキーワードである、「倫理的態度」「対他関係」「虚栄心」が指している内容について理解 ・難解な語句について調べ、意味を知る。		
	3 評論				教科書 「抗争する人間」

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	現代文 B	3	3年英語人文	河村
教科書	『精選現代文B』(東京書籍)	副教材	『クリアカラー国語便覧』数研出版 『三訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳 こののは』 いっずな書店 『改訂版 読み・書き・覚える 日本文学史必携』第一学習社	

1. 学習の目標

- ・2年次で学習した「現代文B」を踏まえ、基礎的な学力がさらに高まり、より質の高い文章が読解できるようになる。
- ・文章を読解により語彙力が高まり、適切な言葉の使い方が身につく、文章表現力が身につく。
- ・文章の内容理解を深める中で多角的な視点でものごとを考えられるようになる。
- ・辞書、図書館の書籍・資料を利用・活用したりインターネット検索を通じたりして自発的に疑問点や興味のある事柄を進んで調べる力が身につく。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・新しい単元に入る際に漢字・語句を調べて覚える。
- ・授業では板書を書き写すだけではなく、他の人の考えにも耳を傾ける。
- ・小テストなどで取り組んだ内容を定着させる。
- ・考査前にはノートに基づいて本文を精読する。さらに繰り返し本文を読んで、本文が頭の中にある状態にする。
- ・学んだ事柄を総合的に関連付けられるようにする。
- ・入試対策として市販の問題集などに進んで取り組む。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	出席、態度、課題・レポート・ノートなどの提出状況 ・漢字・語彙・文章に興味を持ち、進んで読書・リサーチしているか ・真摯に意欲的な態度で授業に臨んでいるか ・辞書等が準備できているか、予習・復習に取り組んでいるか
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	授業での発問、意見発表、他者の質問・意見に対する論理的な対応 ・自分の考えを筋道を立てて話しているか ・他者の発問・意見を的確に捉え理解できるか ・優れた文章に接して自分の表現に役立てているか
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	ノート・課題・レポート・考査などの的確な記述や表現 ・表記、語彙の使用など正確で適切な記述表現ができるか ・目的、相手に応じた論理的・効果的な記述や表現ができているか ・書くことを通して自らの考えが深まっているか
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	教科書、資料、考査問題、演習問題などの正確な読解 ・進んで読書に心がけ幅広い分野の文章に接しているか ・主題の読み取りや工夫された文章表現の読み取りができるか ・要約したり自分の意見を持ったりして発展させているか
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	語彙・文法を理解し目的や場に応じた話し方、記述などの表現 ・語彙・文法を正確に理解し使用しているか ・文章構造のパターンについて理解しているか ・言語の役割・特性と人との関わりを理解しているか

4. 担当者からのメッセージ

「現代文」の教科書の中にあるのは、今を生きるみなさんに必要となる知力の源そのものです。端的に言えば、他者を知り自分を伝え、より良い社会を構築するために必要不可欠な知恵と力を手に入れるための勉強です。基礎・基本をしっかり身につけることを大切に、私たちが「現代」を生きるために先人が残してくれたメッセージに出会い、考え、発展させていきましょう。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	自己評価	教材
1	評論	・教材への興味・関心を持つ。【関心・意欲・態度】	・「文学」や「文学研究」というものにどのようなイメージを持つか、好きな「文学作品」とその理由などについて、各自の意見を発表する。		教科書 「文学の未来」
		・本文の内容を理解する。【読む能力】	・全文を通読し、取り上げられている具体例を各自の体験に照らして簡単なメモにまとめる。 ・筆者の考えを理解する。		表現
		・本文を読んで、考えたことをまとめる。【書く能力／話す・聞く能力】	・各自の考え方を具体的な例を挙げながらまとめ、発表する。		
	小説	・本文を通読して、内容を理解する。【読む能力】	・本文を通読して、構成をつかむ。 ・表現に即して、主人公の心情の変化を考える。 ・モチーフの役割の変化を考える。		教科書 「檸檬」
		・本文を読んだ感想を話し合う。【関心・意欲・態度】【話す・聞く能力】	・当時の「私」をひきつけ慰めたものと、抑えつけ憂鬱にさせたものとは、それぞれ「私」にとってどのようなものとして描かれているか、話し合う。		表現
	評論	・取り上げられたテーマについて、関心を持つ。【関心・意欲・態度】	・現代の環境問題について考えたことを、具体的に挙げる。		教科書 「環境問題と孤立した個人」
		・本文の内容を把握する。【読む能力】	・意味段落ごとの筆者の考えを押さえ、本文を通読する。 ・取り上げられている問題の意味内容を理解して、筆者の考えを読み取る。		環境
		・本文に登場する漢字や語句、歴史的事象について知る。【知識・理解】	・現代社会における環境問題について知る。		
2	評論	・本文に登場する漢字や語句、歴史的事象について知る。【知識・理解】	・難解な語句について調べ、意味を知る。		教科書 「社会の壊れるとき―知性的であるとはどういうことか」
		・本文の概略を把握する。【読む能力】	・抽象的な言葉や指示語の意味内容を理解して、筆者の考えを読み取る。 ・「近代」というテーマで筆者の主張を理解する。		
		・本文に述べられた事柄について、考えを深める。【関心・意欲・態度】	・「知性的」であることが求められる、現代の社会問題について話し合う。		
	小説	・本文に描かれた内容について、自分の身に引きつけて考える。【関心・意欲・態度】	・主人公の考え方や行動について、どのように考えるか、時代背景なども踏まえて話し合う。		教科書 「舞姫」
		・ストーリーと主人公の心情を理解する【読む能力】	・意味段落ごとの主な出来事を大まかにつかむ。 ・出来事が主人公の心情にどのような影響を与えたのかを考える。		表現
		・作者や時代についての理解を深める。【知識・理解】	・時代背景をふまえながら、小説の主題を理解する。 ・作者について学び、作品理解の助けとする。		
	評論	・取り上げられている話題に関心を持っている。【関心・意欲・態度】	・三つの例とそれらを通じて述べられた筆者の考えとを確かめながら、全文を通読する。		教科書 「原始社会像の真実」
		・意味段落ごとに内容を理解する【読む能力】	・原始社会の実像の捉え方と社会の変遷についての筆者の考えを理解する。		表現
		・筆者の考えを把握し、自分の意見を発表する。【関心・意欲・態度】【話す・聞く能力】	・これまでの生徒自らの見聞と照らし合わせるなどして、本文を読んだ感想を話し合う。		
3	評論	・書かれた内容について自分で考えている。【関心・意欲・態度】	・「暴力」がなぜ起きてしまうのか、自分なりに考える。		教科書 「抗争する人間」
		・各段落を理解する【読む能力】	・本文のキーワードである、「倫理的態度」「対他関係」「虚栄心」が指している内容について理解する。		
		・本文に登場した難解な語句や漢字を理解している。【知識・理解】	・難解な語句について調べ、意味を知る。		

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典B	2	3年総合探究	本岡・青柳
教科書	『精選古典B 改訂版』(大修館)	副教材	『クリアカラー 国語便覧』(数研出版) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版) 『四訂版 体系古典文法準拠ノート』(数研出版) 『読み・書き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社) 『三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330』(いいずな書店)	

1. 学習の目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、2年次の古典Bの学習をふまえてものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

新しい単元、学習内容に入る際はその本文をノートに写して授業ノートの準備をする。前時までの復習をして次時の学習内容の理解ができるようにしておく。次時の授業範囲の語彙や文法事項については辞書や文法書等を利用して予習をしておくこと。考査対策はこのノートを中心に試験範囲を見直ししながら、何も書き込まれていない本文を読んでも同様の読解や品詞分解等ができるようになっていれば十分である。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	授業の出席状況、授業に臨む態度(グループワーク含む)、課題・レポート・ノートなどの提出状況 ・古語や文章に興味を持ち、進んで読書したり、予習・復習ができているか。 ・真摯に意欲的な態度で授業に臨んでいるか。 ・グループワークで他者理解を深め、相互評価ができているか。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	授業での発表やグループワーク、他者の質問・意見に対する応答 ・場面や相手に応じて、話し方や聞き方ができているか。 ・自分の意見を整理し、相手を意識してわかりやすく伝えることができているか。 ・古典の優れた文章に接することで、自分の表現に役立っているか。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	ノート・課題・感想・考査 ・表記、語彙の使用など正確で適切な記述表現ができるか。 ・目的、相手に応じた論理的な構成で効果的な記述や表現ができているか。 ・優れた文章に接して自分の表現に役立っているか。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	教科書、資料、考査問題、演習問題などの基本的な読解 ・進んで読書に心がけ幅広い分野の文章に接しているか。 ・正確な理解のために傍線や記号を記入するなどしているか。 ・正確な読解に基づき要約したり自分の意見を持ったりして発展させているか。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	古語・古典文法・古典世界の理解 ・古語・文法を正確に理解しているか。 ・文語・訓読、古典世界の背景を理解しているか。 ・言語の役割・特性と人との関わりを理解しているか。

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や、言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてほしいと思います。また、同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典B	2	3年環境理数	河村・本岡
教科書	『精選古典B 改訂版』(大修館)	副教材	『クリアカラー 国語便覧』(数研出版) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版) 『四訂版 体系古典文法準拠ノート』(数研出版) 『読み・書き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社) 『三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330』(いいずな書店) 『基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート 五訂版 基本編』(桐原書店)	

1. 学習の目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、2年次の古典Bの学習をふまえてものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

新しい単元、学習内容に入る際はその本文をノートに写して授業ノートの準備をする。前時までの復習をして次時の学習内容の理解ができるようにしておく。次時の授業範囲の語彙や文法事項については辞書や文法書等を利用して予習をしておくこと。考査対策はこのノートを中心に試験範囲を見直ししながら、何も書き込まれていない本文を読んでも同様の読解や品詞分解等ができるようになっていれば十分である。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	授業の出席状況、授業に臨む態度(グループワーク含む)、課題・レポート・ノートなどの提出状況 ・古語や文章に興味を持ち、進んで読書したり、予習・復習ができているか。 ・真摯に意欲的な態度で授業に臨んでいるか。 ・グループワークで他者理解を深め、相互評価ができているか。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	授業での発表やグループワーク、他者の質問・意見に対する応答 ・場面や相手に応じて、話し方や聞き方ができているか。 ・自分の意見を整理し、相手を意識してわかりやすく伝えることができているか。 ・古典の優れた文章に接することで、自分の表現に役立っているか。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	ノート・課題・感想・考査 ・表記、語彙の使用など正確で適切な記述表現ができるか。 ・目的、相手に応じた論理的な構成で効果的な記述や表現ができているか。 ・優れた文章に接して自分の表現に役立っているか。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	教科書、資料、考査問題、演習問題などの基本的な読解 ・進んで読書に心がけ幅広い分野の文章に接しているか。 ・正確な理解のために傍線や記号を記入するなどしているか。 ・正確な読解に基づき要約したり自分の意見を持ったりして発展させているか。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	古語・古典文法・古典世界の理解 ・古語・文法を正確に理解しているか。 ・文語・訓読、古典世界の背景を理解しているか。 ・言語の役割・特性と人との関わりを理解しているか。

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や、言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてほしいと思います。また、同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	随筆	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。【関心・意欲・態度】	・登場人物の行動に注目しながら場面展開を理解し、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。	記述の分析		教科書「説話」 表現
		・文章を通して、登場人物の行動の意味を読み取る。【読む能力】	・繰り返し音読して古人の読みに慣れ親しむ。	記述の点検		
		・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【話す・聞く能力】	・古文に用いられている語句や助動詞などの意味用法及び文の構造を理解する。	行動の観察		
	思想（一）	・古代中国思想の成り立ちや展開、現代日本での役割にを理解し、発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。	発表の分析		教科書「逸話と寓話」 国際 表現
		・1年次に学習した漢文訓読のルールを復習する。【知識・理解】	思想を示した文を原文で読む力を培う。	記述の点検		
	物語	・筆者の人生観や人間観を読み取る。【読む能力】	・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検		教科書『枕草子』 表現
		・特徴的な表現箇所とその効果に気付き、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・対句的表現や比喩などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。	行動の観察		
		・作者の思想の基調を理解し発表を前提に文章化する。【書く能力】	・当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。	記述の分析		
	中間考査					
	物語（一）	・歴史物語としての特色を理解し、人物像や心情を読み取り、当時の価値観に触れる。【読む能力】【意欲・関心・態度】	・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・複数の物語を読み、他作品と比較することで、作品の多様性を知る	行動の観察 記述の分析		教科書「大鏡」 表現
		・文章や和歌を通して、登場人物の行動と心情を読み取り発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・登場人物の関係について、歴史的な理解を深める。	発表の点検		
		思想（二）	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【読む能力】	・古代中国の代表的な思想の対抗・継承の関係を把握し、その意義を理解する。	記述の分析	
	・表現の深みや巧みな比喩を理解し、内容を的確に読み取る。【読む能力】		・簡潔な表現や巧みな比喩について注目しながら、内容を的確に読み取る。	記述の点検		
	・思想の違いを理解し、日本に及ぼした影響について考え、発表する。【話す・聞く能力】		・世界史の知識も合わせて、人類の英知としての思想の様々について基礎的な知識と現代的意義を学ぶ。	行動の観察		
	期末考査					
	2	日記	・内容を踏まえて筆者の考え方、当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。【関心・意欲・態度】	・作品に表れた人間・社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析	
・敬語表現を正しく理解し、それを用いて登場人物の関係を正しく指摘できる。【読む能力】			・敬語の意味と用法について整理し、理解することで古典作品をよりの確に読む力を養う。	記述の分析		

	史伝 (一)	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		教科書「史記」風 肅々として 国際 表現
		・句法についてペアやグループワークで確認できる。【関心・意欲・態度】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		
						中間考查
	史伝 (二)	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		教科書「史記」図窮 まりて 国際 表現
		・句法の意味用法をしっかりと把握する。【知識・理解】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		
	物語 (二)	・登場人物の特徴と心情を、それぞれの場面に応じて読み取る。【読む能力】	・文章に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の分析		教科書「源氏物語」 表現
		・その時代の人々の価値観・美意識にふれ、人間の生き方についての考えを深める。【意欲・関心・態度】	・作品の内容を優れた文章表現や作品全体の構成・展開に留意して的確にとらえる。	記述の分析		
		・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・敬語の意味と用法について整理し理解する。	記述の点検		
						期末考查
	3 近世 の小説	・作者の立場を理解し、その心情を読み取り、意見として発表・交換できる。【話す・聞く能力】	・作品の内容を構成や展開、時代背景・古典常識などに即して的確にとらえる。	記述の分析		教科書「雨月物語」 表現
		・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【意欲・関心・態度】	・作品に表れた人間、社会、自然などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検		
		・形のうえで紛らわしい語を文法的に識別する。【知識・理解】	・敬語をはじめ読解の前提となる文法知識を身につける。	記述の点検		
						学年末考查

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典B	3	3年英語人文	河村
教科書	『精選古典B 改訂版』(大修館)	副教材	『クリアカラー 国語便覧』(数研出版) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版) 『四訂版 体系古典文法準拠ノート』(数研出版) 『読み・書き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社) 『三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330』(いっずな書店) 『基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート 五訂版 基本編』(桐原書店)	

1. 学習の目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、2年次の古典Bの学習をふまえてものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

新しい単元、学習内容に入る際はその本文をノートに写して授業ノートの準備をする。前時までの復習をして次時の学習内容の理解ができるようにしておく。次時の授業範囲の語彙や文法事項については辞書や文法書等を利用して予習をしておくこと。考査対策はこのノートを中心に試験範囲を見直ししながら、何も書き込まれていない本文を読んでも同様の読解や品詞分解等ができるようになっていればほぼ十分である。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	授業の出席状況、授業に臨む態度(グループワーク含む)、課題・レポート・ノートなどの提出状況 ・古語や文章に興味を持ち、進んで読書したり、予習・復習ができているか。 ・真摯に意欲的な態度で授業に臨んでいるか。 ・グループワークで他者理解を深め、相互評価ができているか。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	授業での発表やグループワーク、他者の質問・意見に対する応答 ・場面や相手に応じて、話し方や聞き方ができているか。 ・自分の意見を整理し、相手を意識してわかりやすく伝えることができているか。 ・古典の優れた文章に接することで、自分の表現に役立てているか。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	ノート・課題・感想・考査 ・表記、語彙の使用など正確で適切な記述表現ができるか。 ・目的、相手に応じた論理的な構成で効果的な記述や表現ができているか。 ・優れた文章に接して自分の表現に役立てているか。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	教科書、資料、考査問題、演習問題などの基本的な読解 ・進んで読書に心がけ幅広い分野の文章に接しているか。 ・正確な理解のために傍線や記号を記入するなどしているか。 ・正確な読解に基づき要約したり自分の意見を持ったりして発展させているか。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	古語・古典文法・古典世界の理解 ・古語・文法を正確に理解しているか。 ・文語・訓読、古典世界の背景を理解しているか。 ・言語の役割・特性と人との関わりを理解しているか。

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や、言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてほしいと思います。また、同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	随筆	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。【関心・意欲・態度】	・登場人物の行動に注目しながら場面展開を理解し、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。	記述の分析		教科書「説話」
		・文章を通して、登場人物の行動の意味を読み取る。【読む能力】	・繰り返し音読して古人の読みに慣れ親しむ。	記述の点検		
		・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【話す・聞く能力】	・古文に用いられている語句や助動詞などの意味用法及び文の構造を理解する。	行動の観察		
	思想（一）	・古代中国思想の成り立ちや展開、現代日本での役割にを理解し、発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。	発表の分析		教科書「逸話と寓話」 表現 国際
		・1年次に学習した漢文訓読のルールを復習する。【知識・理解】	思想を示した文を原文で読む力を培う。	記述の点検		
	物語	・筆者の人生観や人間観を読み取る。【読む能力】	・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検		教科書「枕草子」 表現
		・特徴的な表現箇所とその効果に気付き、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・対句的表現や比喻などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。	行動の観察		
		・作者の思想の基調を理解し発表を前提に文章化する。【書く能力】	・当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。	記述の分析		
						中間考査
	物語（一）	・歴史物語としての特色を理解し、人物像や心情を読み取り、当時の価値観に触れる。【読む能力】【意欲・関心・態度】	・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	行動の観察		教科書「大鏡」 表現
		・文章や和歌を通して、登場人物の行動と心情を読み取り発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・複数の物語を読み、他作品と比較することで、作品の多様性を知る。	記述の分析		
			・登場人物の関係について、歴史的な理解を深める。	発表の点検		
	思想（二）	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【読む能力】	・古代中国の代表的な思想の対抗・継承の関係を把握し、その意義を理解する。	記述の分析		教科書「諸子百家」 国際
		・表現の深みや巧みな比喻を理解し、内容を的確に読み取る。【読む能力】	・簡潔な表現や巧みな比喻について注目しながら、内容を的確に読み取る。	記述の点検		
		・思想の違いを理解し、日本に及ぼした影響について考え、発表する。【話す・聞く能力】	・世界史の知識も合わせて、人類の英知としての思想の様々について基礎的な知識と現代的意義を学ぶ。	行動の観察		
						期末考査
2	日記	・内容を踏まえて筆者の考え方や、当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。【関心・意欲・態度】	・作品に表れた人間・社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		教科書「蜻蛉日記」 「紫式部日記」
		・敬語表現を正しく理解し、それを用いて登場人物の関係を正しく指摘できる。【読む能力】	・敬語の意味と用法について整理し、理解することで古典作品をよりの確に読む力を養う。	記述の分析		

史伝 (一)	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析	教科書「史記」風 肅々として	国際	
	・句法についてペアやグループワークで確認できる。【関心・意欲・態度】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		表現	
中間考查						
史伝 (二)	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析	教科書「史記」図窮まりて	国際	
	・句法の意味用法をしっかりと把握する。【知識・理解】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析			
物語 (二)	・登場人物の特徴と心情を、それぞれの場面に応じて読み取る。【読む能力】	・文章に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の分析	教科書「源氏物語」	表現	
	・その時代の人々の価値観・美意識にふれ、人間の生き方についての考えを深める。【意欲・関心・態度】	・作品の内容を優れた文章表現や作品全体の構成・展開に留意して的確にとらえる。	記述の分析			
	・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・敬語の意味と用法について整理し理解する。	記述の点検			
期末考查						
3 小説	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】・人間の生き方について考察したことを文章にまとめる。【書く能力】 ・句法の意味用法について他の文章の中でも理解できる。【知識・理解】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	行動の観察 記述の分析 記述の分析	教科書「人虎伝」	国際	
近世の小説	・作者の立場を理解し、その心情を読み取り、意見として発表・交換できる。【話す・聞く能力】	・作品の内容を構成や展開、時代背景・古典常識などに即して的確にとらえる。	記述の分析	教科書「雨月物語」	表現	
	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【意欲・関心・態度】	・作品に表れた人間、社会、自然などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検			
	・形のうえで紛らわしい語を文法的に識別する。【知識・理解】	・敬語をはじめ読解の前提となる文法知識を身につける。	記述の点検			
学年末考查						

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	国語特講	2	3年総合探究コース選択	河村・小林・佐野
教科書		副教材	『高校生のための現代文ガイダンス ちくま 評論文の読み方』筑摩書房 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』啓隆社	

1. 学習の目標

共通テストの特徴を理解し自己採点ができるようになる。

- ①基本的な現代文の問題の読み方・解き方を知る。
- ②複数要素を意識して解ける力を養う。
- ③時間を意識して問題を解く力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

- ・テキストの文章について、漢字の読み、語句の意味等は予習として各自が調べておくこと。
- ・授業内で扱った文章や問題を解き直して復習すること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	・真面目な態度で課題に取り組み作成しているか。 ・意欲的な姿勢で授業に臨んでいるか。 ・漢字・語彙・表現・文章に興味を持っているか。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	・自分の考えを筋道立てて話しているか。 ・他者の発問・意見を的確にとらえ理解できているか。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	・表記・語彙などを正確で適切に記述表現できているか。 ・目的に応じた記述表現ができているか。 ・優れた文章に接して自分の表現に役立てているか。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	・幅広い分野の文章に接し、様々な文体の文章の読解ができているか。 ・読解の技術を身につけ、正確な文章理解ができているか。 ・自分の意見を持ち、発展させられているか。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	・漢字・語彙・文法を正確に理解し、使用できているか。 ・文脈に応じた語句の意味・用法を理解できているか。 ・文章展開の型を理解し、様々な表現技法を身につけられているか。

4. 担当者からのメッセージ

国語特講は問題演習中心の授業です。さまざまな現代文の問題を解き、答えがなぜそうなるのかしっかり認識することで、多様な問題に対応する力を養います。多くの問題に取り組むことで、現代文の読解力、解答文を作る表現力の向上を図ります。集中力が試されるので、意欲的に授業に臨んでください。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	導入	・大学入学共通テストに向けた1年間の見通しを立てる。 【関心・意欲・態度】	・授業の進め方・内容・評価の方法、定期考査の実施等について説明を聞く。	行動の観察		オリエンテーション資料 『高校生のための現代文ガイダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章(1)	・論理的な文章に頻出する基本語彙の意味を学び、用法を理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		
	論理的な文章の読解法	・形式段落・主題文・接続詞の働きを学ぶ。【読む能力】	・積極的に学び、知識を習得しようとする。	記述の点検		
	要約の方法	・論理的な文章を読解し、要約する力をつける。【書く能力】	・論理的な文章を正しく読解し、要約する力をつける。	記述の分析		
	文学的な文章(1)	・文学的な文章を読み味わうことで、自己の心情を豊かにしようとする。【関心・意欲・態度】	・文学的文章を正しく読解し、要約する力をつける。	記述の点検		
	文学的な文章の読解法			記述の分析		
	要約の方法	・表現の特徴から、筆者の主張・テーマを正しく読み取る。【読む能力】	・作者のものの見方や感じ方、表現の仕方を読み取り、要旨をまとめる。	発表の分析		
						中間考査
	論理的な文章(2)	・大学入学共通テストに向けた実践的な問題に取り組む。【関心・意欲・態度】	・話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりする。	行動の観察 記述の分析		『高校生のための現代文ガイダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章の読解法	・契約書や公的文書などの〈実用的な文章〉を読み、〈実用的な文章〉にふさわしい文章の組立てや語句の意味・用法・表記などを理解する。【読む能力】	・1つの問題文の特定の部分から目的に応じて情報を取り出す力をつける。	行動の観察 記述の分析		
		・グラフ、図表なども含む複合型テキストに対応できるように、〈自己採点〉の基準を理解し、問ごとに段階的な正答を導き出せるようにする。【知識・理解】	・情報が非連続的に並べられた〈問題文〉、リスト、表、グラフ、広告、予定表、カタログ、索引や、写真、図などの視覚的情報から、正しく情報を収集・分析して読解する力をつける。	行動の観察 記述の分析		
	文学的な文章(2)	・問題文の本文に関連する資料などが提示されるなど、多様な出題形式を想定することができる。【関心・意欲・態度】	・主題をとらえ、人間の心理について考えを深める。【読む能力】	行動の観察 記述の分析		
	文学的な文章の読解法	・文学的な文章の複数要素を意識して解くことができる。【知識・理解】	・虚構の仕組みについて考え、細部の表現まで深く理解し、味わうことのできる力を養う。	記述の分析		
						期末考査
2	論理的な文章(3)	・契約書や公的文書などの〈実用的な文章〉を読み、〈実用的な文章〉にふさわしい文章の組立てや語句の意味・用法・表記などを理解する。【読む能力】	・1つの問題文の本文の全体、ないし複数の本文同士の関連を踏まえて、情報の統合・構造化・解釈を行う力をつける。	行動の観察 記述の分析		『高校生のための現代文ガイダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章の読解法	・グラフ、図表なども含む複合型テキストに対応できるように、〈自己採点〉の基準を理解し、問ごとに段階的な正答を導き出せるようにする。【知識・理解】	・問題文の情報について、自らの思考力や経験・知識などを生かして本文外からとらえ直していく力をつける。	行動の観察 記述の分析		

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
2	文学的な文章 (3)	・問題文の本文に関連する資料などが提示されるなど、多様な出題形式を想定することができる。【関心・意欲・態度】	・記述問題やさまざまな出題形式の問題を解く時間を意識して、問題文を解く力をつける。	行動の観察 記述の分析		『高校生のための現代文ガイダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	文学的な文章の読解法	・文学的な文章の複数要素を意識して解くことができる。【知識・理解】	・問題文の心情語について、自らの思考力や経験・知識などを生かして本文外からとらえ直していく力をつける。	記述の分析		
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		
						中間考査
	論理的な文章 (4)	・契約書や公的文書などの〈実用的な文章〉を読み、〈実用的な文章〉にふさわしい文章の組立てや語句の意味・用法・表記などを理解する。【読む能力】	・1つの問題文の本文の全体、ないし複数の本文同士の関連を踏まえて、情報の統合・構造化・解釈を行う力をつける。	行動の観察 記述の分析		『高校生のための現代文ガイダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章の読解法	・グラフ、図表なども含む複合型テキストに対応できるように、〈自己採点〉の基準を理解し、問ごとに段階的な正答を導き出せるようにする。【知識・理解】	・問題文の情報について、自らの思考力や経験・知識などを生かして本文外からとらえ直していく力をつける。	行動の観察 記述の分析		
	文学的な文章 (4)	・問題文の本文に関連する資料などが提示されるなど、多様な出題形式を想定することができる。【関心・意欲・態度】	・記述問題やさまざまな出題形式の問題を解く時間を意識して、問題文を解く力をつける。	行動の観察 記述の分析		
	文学的な文章の読解法	・文学的な文章の複数要素を意識して解くことができる。【知識・理解】	・問題文の心情語について、自らの思考力や経験・知識などを生かして本文外からとらえ直していく力をつける。	記述の分析		
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		
						期末考査
3	論理的な文章 (5)	・契約書や公的文書などの〈実用的な文章〉を読み、〈実用的な文章〉にふさわしい文章の組立てや語句の意味・用法・表記などを理解する。【読む能力】	・記述問題やさまざまな出題形式の問題を解く時間を意識して、問題文を解く力をつける。	記述の分析		『高校生のための現代文ガイダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章の読解法	・グラフ、図表なども含む複合型テキストに対応できるように、〈自己採点〉の基準を理解し、問ごとに段階的な正答を導き出せるようにする。【知識・理解】		記述の分析		

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	国語特講	2	3年英語人文コース選択	西尾
教科書		副教材	『高校生のための現代文ガイダンス ちくま評論文の読み方』筑摩書房 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』啓隆社	

1. 学習の目標

共通テストの特徴を理解し自己採点ができるようになる。

- ①基本的な現代文の問題の読み方・解き方を知る。
- ②複数要素を意識して解ける力を養う。
- ③時間を意識して問題を解く力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

- ・テキストの文章について、漢字の読み、語句の意味等は予習として各自が調べておくこと。
- ・授業内で扱った文章や問題を解き直して復習すること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	・真面目な態度で課題に取り組み作成しているか。 ・意欲的な姿勢で授業に臨んでいるか。 ・漢字・語彙・表現・文章に興味を持っているか。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	・自分の考えを筋道立てて話しているか。 ・他者の発問・意見を的確にとらえ理解できているか。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	・表記・語彙などを正確で適切に記述表現できているか。 ・目的に応じた記述表現ができているか。 ・優れた文章に接して自分の表現に役立てているか。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	・幅広い分野の文章に接し、様々な文体の文章の読解ができているか。 ・読解の技術を身につけ、正確な文章理解ができているか。 ・自分の意見を持ち、発展させられているか。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	・漢字・語彙・文法を正確に理解し、使用できているか。 ・文脈に応じた語句の意味・用法を理解できているか。 ・文章展開の型を理解し、様々な表現技法を身につけられているか。

4. 担当者からのメッセージ

国語特講は問題演習中心の授業です。さまざまな現代文の問題を解き、答えがなぜそうなるのかしっかり認識することで、多様な問題に対応する力を養います。多くの問題に取り組むことで、現代文の読解力、解答文を作る表現力の向上を図ります。集中力が試されるので、意欲的に授業に臨んでください。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	導入	・大学入学共通テストに向けた1年間の見通しを立てる。 【関心・意欲・態度】	・授業の進め方・内容・評価の方法、定期考査の実施等について説明を聞く。	行動の観察		オリエンテーション資料
	論理的な文章(1)	・論理的な文章に頻出する基本語彙の意味を学び、用法を理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		『高校生のための現代文ガイドダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章の読解法	・形式段落・主題文・接続詞の働きを学ぶ。【読む能力】	・積極的に学び、知識を習得しようとする。	記述の点検		
	要約の方法	・論理的な文章を読解し、要約する力をつける。【書く能力】	・論理的な文章を正しく読解し、要約する力をつける。	記述の分析		
	文学的な文章(1)	・文学的な文章を読み味わうことで、自己の心情を豊かにしようとする。【関心・意欲・態度】	・文学的文章を正しく読解し、要約する力をつける。	記述の点検		
	文学的な文章の読解法			記述の分析		
	要約の方法	・表現の特徴から、筆者の主張・テーマを正しく読み取る。 【読む能力】	・作者のものの見方や感じ方、表現の仕方を読み取り、要旨をまとめる。	発表の分析		
						中間考査
	論理的な文章(2)	・大学入学共通テストに向けた実践的な問題に取り組む。 【関心・意欲・態度】	・話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりする。	行動の観察 記述の分析		『高校生のための現代文ガイドダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章の読解法	・契約書や公的文書などの〈実用的な文章〉を読み、〈実用的な文章〉にふさわしい文章の組立てや語句の意味・用法・表記などを理解する。 【読む能力】	・1つの問題文の特定の部分から目的に応じて情報を取り出す力をつける。	行動の観察 記述の分析		
		・グラフ、図表なども含む複合型テキストに対応できるように、〈自己採点〉の基準を理解し、問ごとに段階的な正答を導き出せるようにする。【知識・理解】	・情報が非連続的に並べられた〈問題文〉、リスト、表、グラフ、広告、予定表、カタログ、索引や、写真、図などの視覚的情報から、正しく情報を収集・分析して読解する力をつける。	行動の観察 記述の分析		
	文学的な文章(2)	・問題文の本文に関連する資料などが提示されるなど、多様な出題形式を想定することができる。【関心・意欲・態度】	・主題をとらえ、人間の心理について考えを深める。【読む能力】	行動の観察 記述の分析		
	文学的な文章の読解法	・文学的な文章の複数要素を意識して解くことができる。【知識・理解】	・虚構の仕組みについて考え、細部の表現まで深く理解し、味わうことのできる力を養う。	記述の分析		
						期末考査
2	論理的な文章(3)	・契約書や公的文書などの〈実用的な文章〉を読み、〈実用的な文章〉にふさわしい文章の組立てや語句の意味・用法・表記などを理解する。【読む能力】	・1つの問題文の本文の全体、ないし複数の本文同士の関連を踏まえて、情報の統合・構造化・解釈を行う力をつける。	行動の観察 記述の分析		『高校生のための現代文ガイドダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章の読解法	・グラフ、図表なども含む複合型テキストに対応できるように、〈自己採点〉の基準を理解し、問ごとに段階的な正答を導き出せるようにする。【知識・理解】	・問題文の情報について、自らの思考力や経験・知識などを生かして本文外からとらえ直していく力をつける。	行動の観察 記述の分析		

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
2	文学的な文章 (3)	・問題文の本文に関連する資料などが提示されるなど、多様な出題形式を想定することができる。【関心・意欲・態度】	・記述問題やさまざまな出題形式の問題を解く時間を意識して、問題文を解く力をつける。	行動の観察 記述の分析		『高校生のための現代文ガイダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	文学的な文章の読解法	・文学的な文章の複数要素を意識して解くことができる。【知識・理解】	・問題文の心情語について、自らの思考力や経験・知識などを生かして本文外からとらえ直していく力をつける。	記述の分析		
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		
						中間考査
	論理的な文章 (4)	・契約書や公的文書などの〈実用的な文章〉を読み、〈実用的な文章〉にふさわしい文章の組立てや語句の意味・用法・表記などを理解する。【読む能力】	・1つの問題文の本文の全体、ないし複数の本文同士の関連を踏まえて、情報の統合・構造化・解釈を行う力をつける。	行動の観察 記述の分析		『高校生のための現代文ガイダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章の読解法	・グラフ、図表なども含む複合型テキストに対応できるように、〈自己採点〉の基準を理解し、問ごとに段階的な正答を導き出せるようにする。【知識・理解】	・問題文の情報について、自らの思考力や経験・知識などを生かして本文外からとらえ直していく力をつける。	行動の観察 記述の分析		
	文学的な文章 (4)	・問題文の本文に関連する資料などが提示されるなど、多様な出題形式を想定することができる。【関心・意欲・態度】	・記述問題やさまざまな出題形式の問題を解く時間を意識して、問題文を解く力をつける。	行動の観察 記述の分析		
	文学的な文章の読解法	・文学的な文章の複数要素を意識して解くことができる。【知識・理解】	・問題文の心情語について、自らの思考力や経験・知識などを生かして本文外からとらえ直していく力をつける。	記述の分析		
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		
						期末考査
3	論理的な文章 (5)	・契約書や公的文書などの〈実用的な文章〉を読み、〈実用的な文章〉にふさわしい文章の組立てや語句の意味・用法・表記などを理解する。【読む能力】	・記述問題やさまざまな出題形式の問題を解く時間を意識して、問題文を解く力をつける。	記述の分析		『高校生のための現代文ガイダンス』 『段階演習 共通テスト・センター試験 過去問題集 現代文編 2023年度版』
	論理的な文章の読解法	・グラフ、図表なども含む複合型テキストに対応できるように、〈自己採点〉の基準を理解し、問ごとに段階的な正答を導き出せるようにする。【知識・理解】		記述の分析		

令和5年度 北稜探究Ⅲ シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探求の時間	北稜探究Ⅲ	1	3年総合探究選択者	河村
教科書		副教材		

1. 学習の目標

教科・科目・特別活動で身につけた知識や技術等を相互に関連づけ、学習や生活に生かし総合的にはたらくようにする。

個々の進路目標に沿った専門分野の文章を読み、知識を学び、読解力や判断力・表現力を身につける。また、演習やレポート作成、小論文模試を通して論理的思考力や論述力を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「北稜エッセイⅠ・Ⅱ」で身につけた技能を用い、共生社会を構成する一員として、また自分の進路目標に合った課題を設定し、自ら考え意見を持てるようになってほしい。そのために、普段から社会や自分の進路に関係の深い分野について意見を言えるように、新聞やニュースを注意深く読んだり見たりして情報を集める必要がある。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出状況 * 課題レポートや授業のワークシートに真面目に取り組み提出する。 * さまざまな話題を自分の身近に引き寄せ、深く考える習慣をつける。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	入社入試面接練習、相互評価シートの記述 * 相手に伝わりやすい話し方・相手が話しやすい聞き方を日頃から工夫する。 * 話題の順序をわかりやすく整理する。 * 必要なことを簡潔に話したり、聞き取ったりできるようにする。 * 相手の意見をしっかり受け止めると同時に、自分の考えを的確に主張できるよ
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	小論文・志望理由書・レポート等の記述 * 相手に伝わりやすい文章表現を日頃から工夫する。 * 論理的な文章を作成する。 * 文の順序・段落をわかりやすく整理する。 * 簡潔な文章を心がける。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	ワークシートの読解・発表内容など * 様々な文章に日頃から親しむ。 * 重要な語句や文章に傍線などのチェックを入れる。 * 文章の要約を書く。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	ワークシートの記述など * 積極的に辞書を引き、語彙力を増やす。 * 文法的に正しい文章表現を行う。 * 説得力のある文章展開をできるようにする。

4. 担当者からのメッセージ

共生社会への貢献度の高い一員となるための力は、同時にあなたたちの未来・進路を切り開く力ともなります。社会的他者とのコミュニケーション能力の獲得を目指して、毎回の授業に積極的に参加して下さい。また、授業で課される課題や宿題は必ず毎回きちんと提出して下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	オリエンテーション					
	面接練習①	・質問課題を理解し、的確に記述できる。【書く能力】 ・面接試験に対する基礎知識を習得する。【知識・理解】 ・相手の意図を理解し、自らの意見を的確に述べるができる。【関心・意欲・態度】【話す・聞く】	・面接質問ワークシートに回答 ・模擬面接 ・面接相互評価ワークシート 表現	記述の点検 行動の観察 記述の点検		
	小論文トレーニング①	・論理的な文章のポイントを理解できる。【知識・理解】 ・表記上のルールを習得する。【知識・理解】 ・進んで課題に取り組み、課題の意図に添って、自らの意見を的確に記述することができる。【関心・意欲・態度】【書く能力】【読む能力】	・小論文に取り組む 表現	行動の観察 記述の点検 記述の分析		志望理由書・ 自己PR文完成 ノートを使って復習する
	小論文頻出テーマ①	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。【関心・意欲・態度】【知識・理解】 ・現代社会が抱える諸問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べるができる。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に頻出するテーマをチェックする 表現	記述の点検 行動の観察		
	NIE活動①	・新聞を通じて社会の動向に関心を持つ。【関心・意欲・態度】 ・興味をもったことについて分かりやすく伝えることができる。【話す能力・聞く能力】 ・新聞を通じて、語彙を豊かにすることができる。【知識・理解】	・新聞記事のリサーチ、発表 表現	記述の点検 行動の観察 記述の点検		
2	面接練習②	・質問課題を理解し、的確に記述できる。【書く能力】 ・面接試験に対する基礎知識を習得する。【知識・理解】 ・相手の意図を理解し、自らの意見を的確に述べることができる。【関心・意欲・態度】【話す・聞く】	・模擬面接 ・面接相互評価 表現	記述の点検 記述の分析 行動の観察		
	小論文頻出テーマ②	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。【関心・意欲・態度】【知識・理解】 ・現代社会が抱える諸問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べることができる。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に頻出するテーマについて理解を深める 表現	記述の点検 記述の分析		
	小論文トレーニング②	・進んで課題に取り組み、段落を意識した文章が書ける。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に取り組む 表現	記述の分析		

	小論文トレーニング③	・進んで課題に取り組み、課題の原因から解決策を考えた文章が書ける。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に取り組む 表現	記述の分析		
	NIE活動②	・新聞を通じて社会の動向に関心を持つ。【関心・意欲・態度】 ・興味をもったことについて分かりやすく伝えることができる。【話す能力・聞く能力】 ・新聞を通じて、語彙を豊かにすることができる。【知識・理解】	・新聞記事のリサーチ、発表 表現	記述の点検 行動の観察 記述の点検		
3	小論文頻出テーマ③	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。【関心・意欲・態度】【知識・理解】 ・現代社会が抱える諸問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べることができる。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に頻出するテーマについて分析する 表現	記述の点検 記述の分析		

令和5年度 北稜探究Ⅲ シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探求の時間	北稜探究Ⅲ	1	3年英語人文選択者	河村
教科書		副教材		

1. 学習の目標

教科・科目・特別活動で身につけた知識や技術等を相互に関連づけ、学習や生活に生かし総合的にはたらくようにする。

個々の進路目標に沿った専門分野の文章を読み、知識を学び、読解力や判断力・表現力を身につける。また、演習やレポート作成、小論文模試を通して論理的思考力や論述力を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「北稜エッセイⅠ・Ⅱ」で身につけた技能を用い、共生社会を構成する一員として、また自分の進路目標に合った課題を設定し、自ら考え意見を持てるようになってほしい。そのために、普段から社会や自分の進路に関係の深い分野について意見を言えるように、新聞やニュースを注意深く読んだり見たりして情報を集める必要がある。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出状況 * 課題レポートや授業のワークシートに真面目に取り組み提出する。 * ささまざまな話題を自分の身近に引き寄せ、深く考える習慣をつける。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	入社入試面接練習、相互評価シートの記述 * 相手に伝わりやすい話し方・相手が話しやすい聞き方を日頃から工夫する。 * 話題の順序をわかりやすく整理する。 * 必要なことを簡潔に話したり、聞き取ったりできるようにする。 * 相手の意見をしっかり受け止めると同時に、自分の考えを的確に主張できるよ
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	小論文・志望理由書・レポート等の記述 * 相手に伝わりやすい文章表現を日頃から工夫する。 * 論理的な文章を作成する。 * 文の順序・段落をわかりやすく整理する。 * 簡潔な文章を心がける。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	ワークシートの読解・発表内容など * 様々な文章に日頃から親しむ。 * 重要な語句や文章に傍線などのチェックを入れる。 * 文章の要約を書く。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	ワークシートの記述など * 積極的に辞書を引き、語彙力を増やす。 * 文法的に正しい文章表現を行う。 * 説得力のある文章展開をできるようにする。

4. 担当者からのメッセージ

共生社会への貢献度の高い一員となるための力は、同時にあなたたちの未来・進路を切り開く力ともなります。社会的他者とのコミュニケーション能力の獲得を目指して、毎回の授業に積極的に参加して下さい。また、授業で課される課題や宿題は必ず毎回きちんと提出して下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	オリエンテーション					
	面接練習①	・質問課題を理解し、的確に記述できる。【書く能力】 ・面接試験に対する基礎知識を習得する。【知識・理解】 ・相手の意図を理解し、自らの意見を的確に述べるができる。【関心・意欲・態度】【話す・聞く】	・面接質問ワークシートに回答 ・模擬面接 ・面接相互評価ワークシート	記述の点検 行動の観察 記述の点検		
	小論文トレーニング①	・論理的な文章のポイントを理解できる。【知識・理解】 ・表記上のルールを習得する。【知識・理解】 ・進んで課題に取り組み、課題の意図に添って、自らの意見を的確に記述することができる。【関心・意欲・態度】【書く能力】【読む能力】	・小論文に取り組む	行動の観察 記述の点検 記述の分析		小論文 チャレンジ ノートを使って復習する
	小論文頻出テーマ①	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。【関心・意欲・態度】【知識・理解】 ・現代社会が抱える諸問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べるができる。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に頻出するテーマをチェックする	記述の点検 行動の観察		
	NIE活動①	・新聞を通じて社会の動向に関心を持つ。【関心・意欲・態度】 ・興味をもったことについて分かりやすく伝えることができる。【話す能力・聞く能力】 ・新聞を通じて、語彙を豊かにすることができる。【知識・理解】	・新聞記事のリサーチ、発表	記述の点検 行動の観察 記述の点検		
2	面接練習②	・質問課題を理解し、的確に記述できる。【書く能力】 ・面接試験に対する基礎知識を習得する。【知識・理解】 ・相手の意図を理解し、自らの意見を的確に述べることができる。【関心・意欲・態度】【話す・聞く】	・模擬面接 ・面接相互評価	記述の点検 記述の分析 行動の観察		
	小論文頻出テーマ②	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。【関心・意欲・態度】【知識・理解】 ・現代社会が抱える諸問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べることができる。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に頻出するテーマについて理解を深める	記述の点検 記述の分析		
	小論文トレーニング②	・進んで課題に取り組み、段落を意識した文章が書ける。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に取り組む	記述の分析		

	小論文トレーニング③	・進んで課題に取り組み、課題の原因から解決策を考えた文章が書ける。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に取り組む 表現	記述の分析		
	NIE活動②	・新聞を通じて社会の動向に関心を持つ。【関心・意欲・態度】 ・興味をもったことについて分かりやすく伝えることができる。【話す能力・聞く能力】 ・新聞を通じて、語彙を豊かにすることができる。【知識・理解】	・新聞記事のリサーチ、発表 表現	記述の点検 行動の観察 記述の点検		
3	小論文頻出テーマ③	・進んで課題に取り組み、テーマに関する基本的事項について理解する。【関心・意欲・態度】【知識・理解】 ・現代社会が抱える諸問題を自らに引き寄せて考え、意見を的確に述べることができる。【関心・意欲・態度】【書く能力】	・小論文に頻出するテーマについて分析する 表現	記述の点検 記述の分析		

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴 公民科	世界史特講	2	3年総合探求コース選択	田中宗
教科書	新詳世界史B（帝国書院）	副教材	明解世界史図説エスカリエ（帝国書院）	

1. 学習の目標

具体的な歴史事象を様々な観点から論理的に学ぶことにより、歴史的洞察力・認識力を培います。2年生の世界史Bでは近現代史を中心に学習したので、3年生では人類の誕生に始まり、文明が形成されていく過程、各文明圏が発展・交流していく過程を学びます。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

予習より復習を中心に行ってください。暗記することはもちろん大切です。授業中に基本事項を暗記してください。一方で、1つ1つの出来事について、なぜそのような出来事が起こったのか、その結果どうなったのか、ということについても理解するようにしてください。全体を関連づけて考え、流れを理解することも重要です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度（私語、居眠り、内職をしない） ノートや課題プリントなどの提出状況
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、提出課題の内容など
③技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	資料活用の技能・表現」（史料の講読など） 関連教科、周辺科目の知識の活用
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、提出課題の内容など

4. 担当者からのメッセージ

「歴史なんて、覚えなアカンことばかりで、いやや」という声をよく耳にします。確かに、基本的な事項は暗記しなければなりません。本来歴史を学ぶということは、過去の人々の生き方、国々の興亡について学び、考えるということです。歴史を学ぶことで、自分自身を省み、自分の、日本の、世界の過去・現在・未来について、多角的な視野で考えられる人になってください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント）	学習活動
1	1部 諸地域世界の形成と交流  	□人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に、人類と言語の分化を理解する。	プリント提出 中間考査
	序章 人類の出現		
	1章 オリент世界と地中海世界の形成  	□西アジア世界の地理的特質を把握し、オリент文明の盛衰を理解する。	
	1 オリент世界の形成	□地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。	
	2 地中海世界の形成とオリентとの融合	□都市国家から大帝国内に発展したローマ文明の特質を理解する。	
2	3章 サハラ砂漠以南のアフリカ  	□南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。	プリント提出 ノート提出 期末考査
	4章 南アジア世界の形成  	□東南アジアの地理的特質を把握し、東南アジア世界における国家形成の過程を理解する。	
	5章 東アジア世界のあけぼの  	□東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。	
	1 中華文明の形成		
	2 秦漢帝国と東アジア		
3	6章 中央ユーラシア世界の形成と展開  	□内陸アジア・東アジアの遊牧民の動向と、三国時代から魏晉南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。	プリント提出 中間考査
	1 中央ユーラシアの風土と遊牧帝国の出現		
	2 古代遊牧帝国の興亡とユーラシアの変動	□隋唐帝国の国家制度や文化、東アジア諸国国家体制の整備やその動向を理解する。	
	7章 東アジア世界の変動と再編  	□内陸アジア・東アジア世界における勢力交替や宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。	
	1 ユーラシアの変動と東アジア世界	□イスラーム世界成立の背景、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。	
4	2 東アジア諸地域の成長と自立	□トルコ系民族が内陸アジアから進出し、ムスリムとの連携を維持しながらイスラーム世界を拡大させていった過程を理解する。	プリント提出 ノート提出 期末考査
	8章 イスラーム世界の形成と拡大  	□インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化などイスラーム世界の拡大の過程を理解する。	
	1 イスラーム文明の誕生	□イスラーム文明の特質とその影響、学問と文化活動の内容を理解する。	
	2 イスラーム世界の拡大		
	9章 ヨーロッパ世界の形成 	□地中海世界解体後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解する。	
5	1 地中海北方へ広がるキリスト教	□ビザンツ帝国の繁栄をその社会や文化、スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程を理解する。	プリント提出 ノート提出 期末考査
	2 西ヨーロッパの成長と拡大	□十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。	
	3 封建社会の解体と王権の伸張	□教会と修道院、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。	
	10章 ユーラシア大帝国の出現 	□モンゴル帝国の興亡と、その活動が周辺地域に与えた影響の大きさを理解する。	
	2部	□中華帝国を再現した明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。	
6	11章 アジア諸地域の栄華と成熟 	□清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。	プリント提出 ノート提出 学年末考査
	1 明の国際秩序と東・東南アジア	□トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向と、その社会や文化の特質を理解する。	
	2 世界帝国清とアジア諸国の成熟	□南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解する。	
	3 イスラーム世界の成熟		

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴 公民科	世界史特講	3	3年 英語人文コース選択	田中宗
教科書	新詳世界史B（帝国書院）	副教材	明解世界史図説エスカリエ（帝国書院）	

1. 学習の目標

具体的な歴史事象を様々な観点から論理的に学ぶことにより、歴史的洞察力・認識力を培います。
2年生の世界史Bでは近現代史を中心に学習したので、3年生では人類の誕生に始まり、文明が形成されていく過程、各文明圏が発展・交流していく過程を学びます。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

予習より復習を中心に行ってください。暗記することはもちろん大切です。授業中に基本事項を暗記してください。一方で、1つ1つの出来事について、なぜそのような出来事が起こったのか、その結果どうなったのか、ということについても理解するようにしてください。全体を関連づけて考え、流れを理解することも重要です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度（私語、居眠り、内職をしない） ノートや課題プリントなどの提出状況
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、提出課題の内容など
③技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	資料活用の技能・表現（史料の講読など） 関連教科、周辺科目の知識の活用
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、提出課題の内容など

4. 担当者からのメッセージ

「歴史なんて、覚えなアカンことばかりで、いやや」という声をよく耳にします。確かに、基本的な事項は暗記しなければなりません。本来歴史を学ぶということは、過去の人々の生き方、国々の興亡について学び、考えるということです。歴史を学ぶことで、自分自身を省み、自分の、日本の、世界の過去・現在・未来について、多角的な視野で考えられる人になってください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント）	学習活動
1	1部 諸地域世界の形成と交流   序章 人類の出現 1章 オリент世界と地中海世界の形成   1 オリент世界の形成 2 地中海世界の形成とオリентとの融合 3 ローマと地中海世界の成長 4 ローマ帝国周辺の西アジア 2章 サハラ砂漠以南のアフリカ   3章 南アジア世界の形成   4章 東南アジア世界の形成   5章 東アジア世界のあけぼの   1 中華文明の形成 2 秦漢帝国と東アジア	□人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に、人類と言語の分化を理解する。 □西アジア世界の地理的特質を把握し、オリент文明の盛衰を理解する。 □地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。 □都市国家から大帝国内に発展したローマ文明の特質を理解する。 □南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。 □東南アジアの地理的特質を把握し、東南アジア世界における国家形成の過程を理解する。 □東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。	プリント提出 中間考査 プリント提出 ノート提出 期末考査
2	6章 中央ユーラシア世界の形成と展開   1 中央ユーラシアの風土と遊牧帝国の出現 2 古代遊牧帝国の興亡とユーラシアの変動 7章 東アジア世界の変動と再編   1 ユーラシアの変動と東アジア世界 2 東アジア諸地域の成長と自立 8章 イスラーム世界の形成と拡大   1 イスラーム文明の誕生 2 イスラーム世界の拡大 9章 ヨーロッパ世界の形成  1 地中海北方へ広がるキリスト教 2 西ヨーロッパの成長と拡大 3 封建社会の解体と王権の伸張	□内陸アジア・東アジアの遊牧民の動向と、三国時代から魏晉南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。 □隋唐帝国の国家制度や文化、東アジア諸国国家体制の整備やその動向を理解する。 □内陸アジア・東アジア世界における勢力交替や宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。 □イスラーム世界成立の背景、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。 □トルコ系民族が内陸アジアから進出し、ムスリムとの連携を維持しながらイスラーム世界を拡大させていった過程を理解する。 □インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化などイスラーム世界の拡大の過程を理解する。 □イスラーム文明の特質とその影響、学問と文化活動の内容を理解する。 □地中海世界解体後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解する。 □ビザンツ帝国の繁栄をその社会や文化、スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程を理解する。 □十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。 □教会と修道院、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。	プリント提出 中間考査 プリント提出 ノート提出 期末考査
3	10章 ユーラシア大帝国の出現  2部  11章 アジア諸地域の栄華と成熟  1 明の国際秩序と東・東南アジア 2 世界帝国清とアジア諸国の成熟 3 イスラーム世界の成熟	□モンゴル帝国の興亡と、その活動が周辺地域に与えた影響の大きさを理解する。 □中華帝国を再現した明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。 □清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。 □トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向と、その社会や文化の特質を理解する。 □南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解する。	プリント提出 ノート提出 学年末考査

時数	単元名	学習の目標および内容	評価の観点				評価規準	評価方法					評価のポイント	
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能 理解	知識		態 度	ノ ー ト	発 表	提 出 物	考 査	小 テ ス ト	
3	世界史への扉	【目標】世界史を実質的に初めて学ぶことを考慮し、過去のできごとが現在の自分たちの生活と結びついていることを理解させ、興味と関心をもたせる。教科書で投げかけられている問いに答えることを通じて、歴史を学ぶ意義に気づかせる。 【内容】「自然環境と人類のかかわり」①②では、気候変動が歴史に与えた影響に気づかせるとともに、各地の事例を通して人類の環境への主体的なはたらきかけを学ぶ。「日本の歴史と世界の歴史のつながり」①②③では、日本の歴史と東アジアや世界の歴史との関わりを知り、陶磁器、銀、毛皮など「もの」を通して行われた人々の交流について学ぶ。「日常生活にみる世界の歴史」では、「コロンブスの交換」によってもたらされたアメリカ大陸原産の食物が、ヨーロッパやアジアの食生活に大きな影響を与えたこと、同時にアメリカ大陸にもち込まれたさとうきびがプランテーションを発達させたことに気づかせる。	◎	○	◎	△	【関】それぞれの主題に対し、意欲的に取り組もうとしている。 【思】教科書の問いかけに対し、自ら考えつつ、教科書の文章や、グラフ・絵・地図から適切な解答を見つけて発表できる。 【技】グラフや絵・地図などから適切な内容を読み取ることができる。 【知】それぞれの主題が設定された理由を考え、理解することができる。	4	2	2		2		* 新しい科目に興味・関心をもち、意欲的な態度で取り組んでいる。 * 教科書の問いかけに積極的に答え、発表しようとしている。 * 教科書の資料から適切な内容を引き出して、指摘することができる。 * 現代の状況と比較して、主題に述べられた時代の特徴を明らかにすることができる。
1	1部 諸地域世界の形成と交流 序章 人類の出現	【目標】人類の出現から文明の成立にいたるまでの先史時代を概観し、獲得経済から国家の形成に至る過程を学び、歴史時代へのつながりを認識させる。 【内容】人類の出現と進化、石器時代の進展および生産経済の進展を学び、分業の成立による社会構造の変化と国家および文明の成立の過程を確認し、歴史時代へのつながりを把握させる。	◎	○	◎	○	【関】人類の出現と進化の過程、並びに生産経済の開始に伴う大きな変化に関心をもち、追究している。 【思】生産経済の成立と、国家組織の成立につながる過程を考察し、表現している。 【技】人類の進化や移動を、グラフや地図から読み取ることができる。 【知】人類の出現と進化、農耕・牧畜の開始とそれに伴う人類の生活、並びに歴史上の変化について理解している。	2	2			6		* 獲得経済から生産経済に変化したことにより、人類の生活が大きく変化したことに関心をもてる。 * 生産経済の成立が人類社会にどのような変化をもたらしたかを考察し、表現できる。 * 人類や動植物の分布・移動図を適切に読み取ることができる。 * 人類の出現と進化の過程、および農耕・牧畜の開始とそれに伴う社会の変化について理解している。

時数	単元名	学習の目標および内容	評価の観点				評価規準	評価方法				評価のポイント		
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能 理解	知識		態 度	ノ ー ト	発 表	提 出 物	小 テ ス ト		
9	1章 オリент世界と地中海世界の形成 2章 サハラ砂漠以南のアフリカ	【目標】オリент世界と地中海世界の特質を気候・地形などに関連させてとらえるとともに、それが統合されて、西アジアとヨーロッパの原型がつくられていく様相を、アフリカを含めて歴史的・地域的にとらえさせる。 【内容】オリент世界では、乾燥地域の大河流域に農業を基盤とする文明が生まれ、最初の世界帝国が形成されたことを把握させる。また、交易などを通じた地中海世界の成立、および後世に大きな影響を与えたギリシア・ローマ文化とキリスト教の成立・発展を把握させる。さらに、サハラ砂漠以南のアフリカにも独自の文化が形成されたことに気づかせる。	◎	○	○	◎	【関】オリент・地中海両世界とそれをまとめあげたヘレニズムおよびローマについて関心をもち、追究している。 【思】オリент世界と地中海世界の風土・社会・政治・文化・宗教について比較し、その共通点と相違点を示すことができる。 【技】地図などの各種資料を活用して、各地域における特色と相違点を把握できる。 【知】オリент・地中海両文明とサハラ砂漠以南のアフリカの文明の特色を理解している。	1	2			6	1	* イスラームやヨーロッパに受けつがれたこの時代の社会・宗教・文化について関心をもてる。 * 風土の違いによって、異なる性格の文明が発達することを考察できる。 * 地図・資料を用いて、オリент世界と地中海世界を比較できる。 * オリент世界と地中海世界およびサハラ砂漠以南のアフリカの特色を、風土をふまえつつ理解できている。
2	3章 南アジア世界の形成	【目標】海洋と山脈に囲まれ、モンスーン気候の影響を大きく受けて、独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を把握させ、同時に他地域との交流もつかませる。 【内容】南アジア世界の多様性を民族・身分制・社会構造・宗教・南北の地域差の視点から把握させる。なかでも、仏教とヒンドゥー教などの宗教の特徴や、ヴァルナとジャーティの関係などを理解させる。また、ゼロの概念にみられるインド文化の先進性に気づかせる。さらに、ローマ帝国との交易や東南アジアへの文化的影響に触れる。	○	◎	○	◎	【関】南アジア世界が多様性に富むことに興味をもち、追究している。 【思】南アジア世界の多様性を、民族・風土・宗教などの視点をふまえつつ総合的に考察している。 【技】各種資料から諸王朝の変遷や他地域との交流、社会構造を読み取ることができる。 【知】南アジア世界の風土・政治・社会・文化について総合的に理解している。	2	2			6		* 多民族・多言語の南アジア世界に関心をもてる。 * 南アジア世界の多様性を含んだ統一的世界像を、民族・風土・宗教などの視点から考察し、まとめることができる。 * 南アジア世界の風土や諸王朝の変遷・交易路などを読み取り、インドが果たした役割を明らかにできる。 * インダス文明から始まり、諸王朝が興亡する中、多様性とともに一つの世界を築いた南アジア世界を総合的に理解している。

時数	単元名	学習の目標および内容	評価の観点				評価規準	評価方法				評価のポイント		
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能 理解	知識		態 度	ノ ー ト	発 表	提 出 物	小 テ ス ト		
1	4章 東南アジア世界の形成	【目標】人口密度が低く、全域を支配する国家・宗教・民族は出現しなかったが、水上交通網の発達により商業と人の移動が活発で、外に開かれた流動性の高い独特な社会が形成されてきたことを把握させる。 【内容】港市国家の成立の背景にある、気候・地理的特徴に着目させる。インドや中国の文化的影響を受けながらも、それらを融合させた独自の文化が生み出されたことや、諸国の興亡を把握させる。	○	◎	○	◎	【関】東南アジアの複雑多様な地域性に関心を持ち、追究している。 【思】インドや中国の文化的影響を受けて成立した東南アジア世界の独自性について、具体例をあげて考察できている。 【技】インド洋・東アジア海域とつながる港市国家成立の背景を、地図などの各種資料から把握できる。 【知】東南アジア世界の風土と位置関係から、南アジア世界や東アジア世界とつながり、その影響を受けつつ独自の世界を築いたことを理解している。	2	2			6	* 東南アジア世界独特の流動性の高い社会について興味・関心をもてる。 * 東南アジア世界各地の風土・交易・文化の交流について比較考察し、表現できる。 * 港市の成立と地理的条件について、地図を用いて把握できる。 * 東南アジア世界が大陸部と島嶼部からなること、また南アジア世界と東アジア世界とを結ぶ位置関係から外部とのさかんな交流が生まれ、その中で外部文化の影響を受けつつも、独自の世界を形成していったことを理解している。	
3	5章 東アジア世界のあけぼの	【目標】北の乾燥・畑作と南の湿潤・稲作という二重の農耕世界が広がるが、それを漢字文化が結びつけ、統一王朝が成立したことを把握させる。同時に周辺の世界形成にも留意する。 【内容】古代文明の発生から、春秋・戦国時代の変動期を経て、さまざまな思想・文化が生まれたことをつかませる。また統一王朝と周辺諸国が成立し、それらが政治的・文化的に結びついてきたことを把握させる。	○	◎	○	◎	【関】東アジア世界における、多様な古代文明の発生と、その中での日本の位置づけに関心をもてる。 【思】古代文明の成立から変動期における思想・文化について、歴史的背景から考察し、表現できる。 【技】南北の農耕地域と周辺地域との結びつきを、本文やコラムから理解できる。 【知】中国における統一王朝成立にいたるまでの政治・経済・文化を総合的に理解するとともに、日本をはじめとする周辺とのつながりを理解している。	1	2			6	1	* 古代文明の発生から漢字文化による結びつきにいたるまでの動きに関心をもてる。 * 中国における統一王朝成立の背景に、社会変動と、それに伴う新しい思想・文化があったことを考察し、表現できる。 * 地図を利用して東アジア世界の風土が大きく二つに区分されること、またそれが時代の推移とともに一つの世界として統一されていくことを理解できる。 * 中国における統一王朝成立にいたるまでの政治・経済・文化を総合的に理解するとともに、日本をはじめとする周辺諸国との関係を理解している。また東アジアに大きな影響を与えた文化・思想の形成について理解している。
2	6章 中央ユーラシア世界の形成と展開	【目標】遊牧民とオアシス民が共存する中央ユーラシア世界が諸地域をつないできたこと、その中心的役割を担った騎馬遊牧民への理解を深めさせる。 【内容】遊牧民が定住民を支配して形成される遊牧国家の構造を理解させる。スキタイ・匈奴や柔然・突厥・ウイグルなど騎馬遊牧民の興亡を軸に、遊牧国家の成立からトルコ化・イスラーム化までの動きを把握させる。また、チベットの位置と役割についても注目させる。	◎	○	△	◎	【関】遊牧民(移動生活)とオアシス民(定住生活)の生活の違いや、両者の共生関係について関心を持ち、追究している。 【思】騎馬遊牧民がなぜ交易で活躍できたのか、オアシス民との関係を含めて、その理由を具体的に考察し、表現できる。 【技】地図を用いて、遊牧民の移動や東西交易に果たした役割を把握できる。 【知】ユーラシア大陸各地の古代帝国と中央ユーラシアの騎馬遊牧民との交流と衝突を把握している。	1	2		1	5	1	* 遊牧民(移動生活)とオアシス民(定住生活)とを比較し、それぞれの特徴ある活動に興味・関心をもてる。 * 軍事力として有益な馬を駆使できる遊牧民はオアシス民の交易を保護し、そのかわりにオアシス民は遊牧民に穀物・生活用品を提供するという共生関係にあったことを考察し、表現できる。またシルクロードが、「ルート」(線)ではなく「ネットワーク」(網)であることを地図から考察できる。 * 地図や地球儀を用いて、遊牧国家がユーラシアの東西南北を結びつける役割を果たしたことを把握できる。 * 騎馬遊牧民・オアシス民・国際商人が結びつき、農耕世界と異なる形の地域世界を形づくっている中央ユーラシアの特徴を把握している。

時数	単元名	学習の目標および内容	評価の観点				評価規準	評価方法				評価のポイント			
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能 理解	知識		態 度	ノ ー ト	発 表	提 出 物	考 査	小 テ ス ト		
5	7章 東アジア 世界の変動と 再編	【目標】遊牧民の活動の活 発化と中国の分裂時代が重 なり、大きく変容した東アジ ア世界の状況を総合的にと らえさせるとともに、周辺地 域の自立を把握させる。 【内容】魏晉南北朝から隋唐 世界帝国の形成および唐宋 変革をユーラシアの変動と いう視点からとらえさせる。 さらに、東アジア諸地域に武 人政権が成立し、小中華思 想も生まれるなど、自立化 が進んだことをとらえさせ る。その際地図を活用し、 ユーラシア東方について具 体的なイメージをもたせる。	○	◎	○	◎	【関】遊牧民の活動と中華王朝の変遷 との関連に関心を持ち、追究している。 【思】遊牧民の活動と中華王朝の変遷 が深く関連していることを理解し、考察 できている。 【技】地図などの各種資料を活用し、東 アジア諸地域の動向を理解できる。 【知】魏晉南北朝から宋までの中華王 朝と遊牧民の活動を関連づけて理解し ている。中華王朝と周辺諸国の関係を 理解している。	1	2				6	1	* ユーラシアの変動の中、中国には多くの遊牧民が移動・移住し、東アジアにお いて新たな秩序が形成されたことに興味・関心をもてる。 * 遊牧民の活動が中華王朝に大きな影響を与えたことを、王朝の変遷とかかわら せながら考察し、表現できる。 * 東アジア諸地域の動向について、地図や年表を用いて指摘できる。 * 魏晉南北朝から宋代にかけてのユーラシア東方の歴史は、遊牧民の中国への 移動・移住の流れと深くかかわっていること、および周辺諸民族が、中華王朝の強 い影響を受けながらも独自の文化を形成していったことを理解している。
4	8章 イスラーム 世界の形成 と拡大	【目標】交易を重視し都市を 背景に生まれたイスラーム が、アジア・アフリカの各地 に広がり新しい文明を築く様 相を把握させる。 【内容】イスラームの誕生・ 拡大を、アラブ人による征服 の段階と、多くの民族に受 容されたイスラーム帝国の 時代とに区分して理解する。 その際、シーア派とスンナ派 の形成と対立をつかませ る。またイスラーム文明を各 地域の文化を吸収した高度 な文明として総合的にとらえ させる。	◎	◎	○	○	【関】狭義の宗教には収まらないイス ラームの“社会性”に関心をもてる。 【思】イスラームが地域・民族をこえて拡 大できた理由とその影響について考察 し、表現できる。 【技】資料・地図などを活用して、イス ラームの特色・広がり考察できる。 【知】イスラーム成立の背景と、地域・民 族の枠をこえて拡大する理由につい て、イスラームの普遍性という観点から 理解できている。	1	2				6	1	* 社会生活全般を規定しているイスラームの特徴について関心をもてる。 * 征服活動だけでなく、アッバース朝以後はアラブ人でなくてもムスリムであれば 対等であったこと、異教徒でも社会的な上昇の機会があったこと、通商や文化交 流などを拡大の理由にあげて、表現できる。 * イスラーム=ネットワークの形成と広がりについて、地図などの各種資料を活用 して指摘できる。 * イスラーム成立の背景および拡大の歴史と、文化的な貢献が地域・民族をこえ て行われたこと、およびシーア派とスンナ派の形成と対立を理解している。
7	9章 ヨーロッ パ世界の形成	【目標】ヨーロッパ世界が、 ローマ=カトリック圏とギリシ ア正教圏に分かれながら も、ローマ帝国の伝統とキリ スト教によって独自の世界を 形成していったことを把握さ せる。 【内容】ヨーロッパの風土、ゲ ルマン人、ローマ=カトリック 教会、封建社会の形成と変 容、農村や商業の成長につ いて、地域差をふまえて具 体的事例にそくして確認す る。またビザンツ帝国がスラ ヴ人に影響を与え、ギリシア 正教圏を形成していったこと を把握させる。	○	◎	○	◎	【関】ゲルマン人とスラヴ人の移動、イ スラームの地中海進出、ビザンツ帝国 の動向がヨーロッパ世界の形成につな がったことに関心をもてる。 【思】ヨーロッパにおける地域差を比較 し、その共通点と相違点を考察できる。 【技】地図などの各種資料を活用し、 ヨーロッパ世界の形成と変容のようすを 把握できる。 【知】ヨーロッパ社会の形成を封建社会 の成立と変容、教皇権と皇帝権や王権 との対決などの観点から総合的にとら えることができている。	1	2				6	1	* ヨーロッパ世界はゲルマン人やスラヴ人の移動、イスラーム諸国との接触、ビザ ンツ帝国との関係の中で形成されてきたことに関心をもてる。 * 西ヨーロッパ史の軸をなす教皇権と皇帝権や、それらと王権とのバランスの変 化について考察し、表現できる。 * アジア系を含む民族の移動、キリスト教や交易の広がりなどについて、地図を 活用して指摘できる。 * 数度に及ぶ民族移動の過程や封建社会の成立・変容などをふまえて、ユーラシ アの西端で形成されたヨーロッパ世界の独自性を理解している。

時数	単元名	学習の目標および内容	評価の観点				評価規準	評価方法				評価のポイント		
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能 理解	知識		態 度	ノ ー ト	発 表	提 出 物	考 査	小 テ ス ト	
2	10章 ユーラシ ア大帝国の出 現	【目標】モンゴル帝国は従来から内陸交易で結ばれていたユーラシア大陸の農耕・牧畜両世界を統合したものであり、世界の一体化の過程において一大画期となったことを把握させる。 【内容】モンゴル世界帝国の成立過程を学ぶとともに、国家システムがウルスの集合体として成り立ったものであり、多元的・開放的な性格をもつものであったことを把握させる。さらにモンゴル時代のユーラシア大交流圏が14世紀に危機を迎えたことをつかませる。	○	◎	○	◎	【関】ユーラシア大陸の大部分を支配したモンゴル帝国の成長・発展の過程について関心をもち、追究している。 【思】モンゴル帝国と交易の活性化の関係について、またモンゴルが南進に手間どった理由について考察し、表現できる。 【技】地図を用いて、モンゴルの活動によってユーラシア大陸の内陸交易と海上交易が一体化したことを指摘できる。 【知】モンゴルによりユーラシア大陸が一体化したことで、ユーラシア規模で人の交流やものの流通が起こったこと、および14世紀の危機を理解している。	2	2			6		* ユーラシア大交流圏を成立させるにいたったモンゴルの特質と各地域への影響力に興味・関心をもてる。 * モンゴル帝国の成立により、既存の交易ネットワークが結ばれ、ユーラシア規模の交易ネットワークが出現したことを考察し、表現できる。教科書74ページを参照し、淮河・長江の守りにより南宋がモンゴルの南進を阻止したことを指摘できる。 * “パクス=モンゴリカ”の規模と実像について、地図などの各種資料を用いて指摘できる。 * 一族の諸国家による連合体としてのモンゴルがユーラシアの大部分を一つにまとめたことと、陸上だけでなく海上進出も行ったこと、および東西文化の交流が一段と深まったことを理解している。また、14世紀の危機の様相とその原因、およびモンゴル帝国の遺産について理解している。
7	2部 海洋による世界の一体化 1章 アジア諸地域の栄華と成熟	【目標】モンゴル帝国の後継国家としての明・清、またオスマン帝国などのイスラーム諸王朝が、強大かつ柔軟な統治体制をつくりあげ、独自の文明を発展させたことを理解させる。 【内容】明・清の成立過程と、日本・朝鮮・琉球など周辺国家との関係を理解させる。特に清朝の君主のあり方に着目し、現代の状況との関係について考えさせる。また東南アジアへの華僑・ヨーロッパ人の進出、およびイスラーム各王朝の動きとインド洋貿易ネットワークを学ぶ。	○	◎	○	◎	【関】東アジアにおける明・清を中核とした国際関係と、イスラーム諸王朝が各地で独自の文明を成熟させたことに関心をもち、追究している。 【思】どちらも多民族国家であり、世界帝国であったオスマン帝国と清の外交や内政のあり方を比較考察し、表現できる。 【技】地図などの各種資料を活用して、各地における特色と相違点を指摘できる。 【知】明・清を中核とした国際関係と、ヨーロッパ人のアジア進出、各地で独自の文明を築いたイスラーム諸王朝とその関係について理解している。	1	2			6	1	* 明・清における東アジアの国際秩序とその変化、およびイスラーム諸王朝の繁栄に興味・関心をもてる。 * 世界帝国としての清・オスマン帝国の特質や、イスラームの広がりによる文化融合について考察し、表現できる。清朝の君主のあり方と現代の状況を関連づけて表現できる。 * モンゴル以後のユーラシア大陸の状況について、地図・資料を活用して指摘できる。 * モンゴル以後のユーラシア大陸の状況やヨーロッパ人のアジア進出を地図などで確認して理解している。明・清とイスラーム諸王朝でそれぞれの独自の文明が形成されたことを理解している。特に、世界帝国となった清の君主の多様なあり方を理解している。

令和 5 年度北稜高校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
公民	政治経済	3	3年英語人文コース	大島
教科書	最新政治・経済 新訂版(実教出版)	副教材	政治経済用語集	

1. 学習の目標

ますます複雑になる経済の動きの科学的な知識を身につけることから始めて、世界の動きと自分たちの暮らしがどのようにつながるかを理解します。それらの事柄が、単なる偶然でも、どうすることもできない現象ではないことを学んでいきます。単純に社会の動きに関心を持つだけでなく、科学的・合理的に社会を理解し、主権者としてどのような立場に立つかを考えていきます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

復習を中心に、定期的に家庭学習の時間を設ける。授業で出てきた用語を用語集等使って調べたり、関連の事柄を新聞やインターネット等を使って深める癖を付けることで、自ら調べ知識を付ける力を付ける。今何を学習しているのかを常に確認しながら授業を受け、現代の社会で問題になっている具体的な事柄と結びつけながら考えられるようになる。そのため、新聞やニュースにも関心を持って知識を深める努力ができる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、ノート・課題・レポートの提出状況
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	問題点について考える能力 定期テストでの論述問題・レポート内容
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	思考判断のもととなる資料等の読み取り・理解、自分の考えを伝える、書く・発表する・発現する力 定期テストでの論述問題・レポート内容・発表内容
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	政治経済等の基本的な用語・動きの理解 定期テスト・レポート

4. 担当者からのメッセージ

直接受験科目になくても、進学する人にとって、最低限必要で、かつ役に立つ知識ばかりです。就職する人にとっては、社会に出て必要となる知識をきちんと学ぶ最後のチャンスです。是非、主体的に学んでください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	経済社会の変容	近代から現在に至る、経済の変化を大まかに理解し、代表的な経済学説と各国の経済政策の移り変わりを学ぶ。	小レポート
	現代経済の仕組み	資本主義経済の原理を学ぶ 貨幣経済と商品経済 市場原理 独占と寡占 企業と資本	中間審査
	現代経済の仕組み	中間審査の範囲の続き	
	現代の日本経済と福祉の向上	市場の失敗 財政政策 金融の働き 金融政策 福祉と経済 労働と経済 戦後の復興から高度成長	小レポート 期末審査
2	現代の日本経済と福祉の向上	石油危機公害問題 安定成長と貿易摩擦 バブル経済 失われた10年	テーマ学習・小レポート等
	現代の国際経済	国際経済の原理と共に現在の日本と世界経済の仕組みと課題を学ぶ 貿易のあり方 外国為替の仕組み 経済のグローバル化	中間審査
	現代の国際経済 国際	中間審査範囲の続き 金融産業の発展 格差の拡大 今後の課題	テーマ学習・小レポート等
	現代国家と民主主義	日本の政治制度と日本国憲法を学ぶ 日本の国会 日本の内閣 日本の司法 地方自治 憲法と人権	期末審査
3	現代の国際政治	国際社会のあり方と国連の働きを学ぶ 国際社会とは 国際法と国際紛争 国際連合 冷戦とその後	
			学年末審査

評価の観点 [7 実教 最新政治・経済 新訂版]

		関心・意欲・態度	思考・判断	観察・実験の技能・表現	知識・理解
評価基準		・現代の政治、経済、国際関係について関心を高め、それぞれの課題を意欲的に追究する態度を身につけている。 ・国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	・現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場を踏まえながら公正に判断している。	・現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、且つ集めた情報を主体的に選択し効果的に活用している。 ・学習を通して追究した過程や結果を、的確に表現することが出来る。	・現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。
第1編 現代の政治	第1章 現代国家と民主政治	・民主主義の歴史や基本的原理に関して、世界史学習と関連づけながら深い興味を抱いている。	・西洋で発達した民主主義の原理と、日本の政治機構の仕組みとの関連を考察している。 ・主要国の政治制度と日本の政治制度とを、比較しながら考察している。	・社会契約説や権力分立といった民主主義の原理について、ロックやルソーといった思想家たちの原典資料にもどりその内容を確認している。	・社会契約説や権力分立、主要国の政治制度などに関して正しい知識を身につけている。
	第2章 日本国憲法と基本的人権	・日本国憲法の成立過程や国民主権、基本的人権の尊重、平和主義といった基本原則に対して興味・関心を抱いている。 ・現実の人権問題に対して関心を示し、日本が抱える課題に対して追究する態度を示している。	・大日本帝国憲法と日本国憲法を比較しながら、民主主義の実現を目指す憲法の必要性について考察を加えている。 ・人権保障の憲法の条規と、現実の社会における課題との関連を考察し、社会の望ましい在り方を判断している。	・日本国憲法の成立や人権保障に関する情報を、様々な手段を使い収集している。 ・人権問題に関して収集した資料を、自ら設定した課題解決のために主体的に選択し、活用している。	・日本国憲法の成立過程について、史実と関連させて適切に理解している。 ・人権保障に関連する日本国憲法の基本的条規について、正しい理解を示している。
	第3章 日本の政治制度と政治参加	・国会、内閣、裁判所や地方自治といった日本の政治機構に対して、その仕組みや課題を追究する態度が見られる。 ・民主政治の現実的な担い手である政党や、国民が参政する選挙について十分な関心を抱くとともに、主権者としての政治参加の在り方について客観的に考察しようとしている。	・憲法条規上の国会、内閣、裁判所や地方自治の規定と、現実の三権の状況や中央と地方との関連などを的確に比較し考察している。	・国会、内閣、裁判所や地方自治に関する情報を新聞などのメディアを通じて収集し、学習のために主体的に選択している。	・国会、内閣、裁判所、地方自治について、憲法条規に照らし合わせて、その仕組みや権限、さらに相互の均衡と抑制の在り方などを理解している。 ・日本の政党や政党政治について、一つの党派に片寄らないバランスの取れた理解を示している。
	第4章 現代の国際政治	・現代の国際社会における政治の動向に対して、関心が高まっている。 ・安全保障についての考え方や、国家間の対立、民族紛争といった国際紛争の諸要因を意欲的に探究している。	・国内政治と国際政治の違いを、現実の状況を踏まえて多面的に考察している。 ・これからの国際社会における国際連合の在り方について、ポスト冷戦という新しい状況の中、様々な考え方を踏まえ公正に判断している。	・現代の国際社会における政治の動向に関する諸資料を、様々なメディアを通して収集している。 ・国際社会における今後の日本のかかわりに関して追究し考察した過程や結果を、口頭や文章などで適切に表現している。	・二つの大戦や冷戦といった国際対立の経験を通じ、国際間の相互依存、紛争の平和的解決のための国際機構や国際法が発達してきたことを理解し、その知識を身につけている。 ・核兵器と軍縮、難民問題といった今後解決すべき国際社会の諸課題について、的確な理解を示している。
	第5章 日本 の平和主義と国際平和	・現実の平和主義にかかわる問題に対して関心を示し、日本が抱える課題に対して追究する態度を示している。	・平和主義の憲法の条規と、現実の社会における課題との関連を考察し、社会の望ましい在り方を判断している。	・平和主義に関する情報を、様々な手段を使い収集している。 ・平和主義に関して収集した資料を、自ら設定した課題解決のために主体的に選択し、活用している。	・平和主義に関連する日本国憲法の基本的条規について、正しい理解を示している。

第2編 現代の経済	第1章 現代の経済社会	・経済の本質や資本主義経済の歴史、あるいはグローバル化した今日の世界経済といった、経済活動全般について関心が高まっている。 ・市場機構や景気変動、金融・財政といった経済の諸理論に対して関心を深め、理論との関連を踏まえながら現実の経済活動を探究する意欲的な態度が見られる。	・現代経済の特質について、経済体制の国際比較を行うなど多面的・多角的に考察している。 ・家計、企業、政府の経済主体間の経済循環を、現実の経済活動と対応させながら考察している。 ・金融や財政についての基本的知識をもとに、現実の金融・財政問題やその解決方法について、主体的に判断をしている。	・経済体制の現状に関する情報を、様々な手段を使い収集している。 ・経済体制に関して収集した資料を、自ら設定した課題解決のために主体的に選択し、活用している。 ・国富やGDP、金融や財政などに関する統計資料を、各種白書などを利用した的確に収集している。 ・収集した資料の中から、景気変動や金融・財政政策などの学習に必要な情報を主体的に選択して活用している。	・資本主義経済の特質についての的確な知識を有するとともに、グローバル化した現在の世界経済の現状に対しても十分に理解を示している。 ・適切な価格決定や資源配分といった市場経済のもつ特性を理解するとともに、その限界についても考察を加えている。 ・金融や財政に関する基本的な知識をもとに、金融改革や財政改革といった日本経済の課題に対する十分な理解を示している。
	第2章 現代の日本経済と福祉の向上	・第1章で学んだ理論的内容を前提として、日本経済が置かれている現状に対して深い関心を抱いている。 ・高度成長から安定成長、バブル経済からバブル後の不況といった戦後日本経済が歩んだ流れを追究しようとする意欲的な態度が見られる。	・戦後日本経済史との関連の中で、労働問題など日本経済の課題を考察している。 ・経済発展のための効率性の追求と、国民福祉の向上で求められる公正さとの関連を、労使関係や社会保障を題材としての確に判断している。	・戦後日本経済史に関する史料を、様々な文献から幅広く収集している。 ・公害や労働問題、社会保障といった様々な課題に関するデータを白書類から収集し、課題解決の手段として活用している。	・公害、労働問題や社会保障といった日本経済の現状と課題に関して十分な知識を有するとともに、課題を解決する様々な方法に対して理解を示している。
	第3章 現代の国際経済	・現代の国際経済の動向に対する関心が高まっている。 ・商品、労働力、資本、情報がボーダレスで移動するなど、国際的な相互依存関係が深化する国際経済の特質を意欲的に追究している。	・現代の国際経済の動向から、課題を見いだしている。 ・経済のグローバル化の動きに対して、商品や労働力、資金の移動などから多面的・多角的に考察するとともに、競争原理を前提としたグローバル化の弊害についても的確な判断を示している。	・現代の国際経済の動向に関する諸資料を、様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料から、グローバル化の進展など国際経済の特質、国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割などについての情報を主体的に選択して活用している。	・自由貿易と保護貿易の考え方、国際収支表の見方や為替レートの仕組みなど、国際経済に関する基本的な知識を習得している。 ・自由貿易を前提とした戦後国際経済の流れを理解し、国際通貨基金や世界貿易機関などの仕組みに関する知識を有している。 ・グローバル化が進む国際経済の動向の中で、地域的経済統合や南北問題の新たな局面を理解している。
第3編 現代社会の諸課題	1～5節	・現代日本の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考察しようとしている。	・現代日本の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断している。	・現代日本の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択し活用している。	・地域社会の変貌と住民生活、産業構造の変化と中小企業、農業と食料問題、雇用と労働をめぐる問題、少子高齢社会と社会保障など、現代日本の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身につけている。
	6～10節	・国際社会の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考察しようとしている。	・国際社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断している。	・国際社会の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択し活用している。	・地球環境問題、地球環境と資源・エネルギー問題、人種・民族問題、経済格差の是正と国際協力、国際社会における日本の立場と役割など、国際社会の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身につけている。

令和5年度 北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴 公民科	地理B	5	3年環境理数コース	松原 久
教科書	新詳地理B(帝国書院)	副教材	新詳地理資料COMPLETE<2023>(帝国書院)	

1. 学習の目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

高等学校の地理は暗記する地理ではありません。考える地理です。もちろん、考える上で中学校で学習した基本的な地理的知識は必要です。その知識を活用し、地理的事象が「なぜそうなのか?」、「なぜそこにあるのか?」という思考が必要になってきます。また、また、地図作業、ノート記入等は内容を理解しながら丁寧に美しく仕上げることも必要です。併せて発表(人に伝えること)を通じて単元の理解を深めることも目指します。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、積極的な発言、受講態度(私語、居眠り、内職をしない) ノートや課題等の提出状況と美しさ 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、提出課題等の内容など 現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
③技能(表現) 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	資料活用の技能と表現(白地図作業と発表等) 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 まとめた内容を的確に「見える化」し、自らの言葉で簡潔に発表(表現)できる。
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、提出課題等の内容など 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

4. 担当者からのメッセージ

地理は限りなく理科に近い社会科の科目です。覚えることもありますが、知識を活用して考える事の方が重視されます。ノートを写す事で満足せず、講義内容をメモするようにしましょう。授業は黒板よりもパワーポイント、Google Earth、映像等を使用するため、集中を欠くと次の話題に移ってしまうので注意してください。家庭では学習内容について教科書を用いて復習をするとともに、世界を話題にしたテレビ番組を視聴し、ネットニュースもこまめにチェックしてください。地誌の単元ではグループによるプレゼンテーションも実施し、人に伝える難しさを体験してもらいます。この体験は発表型の入試や、大学入学後のゼミ発表に役立ちます。

3年生 地理B 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント）	学習活動
1	1章 地理情報と地図	現代世界の地図について、どのような技術を利用してつくられているかをとらえ、地図の有用性に気づくとともに、時代背景や地図の中心の違いなどによって世界観が変化することについて考察する。	講義 演習 定期考査
	1節 地図の発達 1 現代世界の地図 2 世界観の変化と地図		
	2節 地図の種類とその利用 1 地球上の位置 2 時差の求め方 3 地球儀とさまざまな地図	球体としての地球の特徴をとらえ、緯度・経度の違いによって時差や気候に違いが生じるメカニズムを考察する。さらに、球体を平面に表現した地図の種類とその利用についても考察し、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身に付ける。	
	3節 地理情報の地図化	情報の地図化や読み取りなどの活動を通して、地図の有用性に気づくとともに、地理情報を地図上に表現する際の効果的な表現方法を考察する。	
	2章 地図の活用と地域調査	地図の活用と地域調査について、直接的に調査できる地域を地形図などの地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身につける。	調査活動 レポート
	1節 地図の活用		
	2節 身近な地域の調査 1 調査テーマの設定 2 課題の調査	* 身近な地域の調査（実践）と図作業は夏休みの課題	表現
	1章 自然環境	世界の地形について、大地形、小地形、そのほかの地形の分布や特徴、成因について考察するとともに、災害や土地利用など人間生活とのかかわりを考察する。	講義 演習 定期考査
	1節 世界の地形 1 地形の成因 2 地球規模の大地形 3 河川と海岸の小地形		
	2節 世界の気候 1 気候の成り立ち 2 世界の気候区分 3 気候と植生・土壌 4 変化する気候	世界の気候について、地域ごとの違いとその要因について理解を深めるとともに、気候区ごとの特徴や人間生活との関係を考察する。また、地球規模での気候変動と人々への影響を考察する。	環境
2	3節 日本の自然の特徴と人々の生活 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災	日本の自然の特徴と人々の生活について、地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解するとともに、土地開発の状況などもふまえて防災のあり方を考察する。	講義 演習 定期考査
	2章 資源と産業	世界の農林水産業について、自然条件や社会条件と関連づけて農業の地域区分をとらえるとともに、現代世界の農林水産業の現状と課題を考察する。また、世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。	環境
	1節 世界の農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 世界の林業・水産業		
	3節 世界のエネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用	世界のエネルギー・鉱産資源について、それぞれの種類や分布、利用の現状や方法を考察する。	ビデオ学習 演習 レポート
	4節 資源・エネルギー問題 1 現代世界の資源・エネルギー問題 2 さまざまな資源・エネルギー問題 3 日本の資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について、世界と日本の資源・エネルギー問題を大観し、問題の原因や近年の動向、問題解決の取り組みを考察する。また、日本が抱える資源・エネルギー問題を考察する。	
	5節 世界の工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地とその変化 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 日本の工業	世界の工業について、工業の発達過程や種類、立地とそ の変化、現状と課題を考察する。また、日本の工業の特 徴と課題を考察する。	講義 演習 定期考査
	3節 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の機能と生活	村落と都市について、その立地条件や発達の背景、村落 や都市がもつ機能と人間生活のかかわりを考察する。	

2 学 期 中	4節 都市・居住問題 1 世界の都市・居住問題 2 発展途上国の都市・居住問題 3 先進国の都市・居住問題 4 日本の都市・居住問題	都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を一覧し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策をとらえる。また、日本の都市・居住問題の課題と解決への取り組みを考察する。	パワポ 発表 演習 定期考査 表現
	2章 現代世界の諸地域 1節 地域の考察方法 2節 東アジア 3節 東南アジア 4節 南アジア 5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 7節 ヨーロッパ 8節 ロシア 9節 アングロアメリカ 10節 ラテンアメリカ 11節 オセアニア	国・地域ごとの地域区分と考察の方法について理解する。 グループ別発表 各地域の地理的特徴について多面的にアプローチし、内容をわかりやすく取りまとめ発表する。 * 内容のフォローをするための演習問題も担当地域別に 取り組み発表する	
3	4節 環境問題 1 世界の環境問題 2 さまざまな環境問題	世界の環境問題について、その背景や原因、影響、対策を多面的に考察する。また、日本国内の環境問題について発生した背景や問題解決への取り組みを考察する。	環境
	2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 発展途上国の食料問題 3 先進国の食料問題	食料問題について、世界の食料需給の地域的な格差を一覧し、発展途上国と先進国の事例を考察する。また、日本が抱える食料問題を考察する。	国際
	6節 第3次産業 1 第3次産業の発展 2 多様化する観光産業	第3次産業について、その特徴や発展の背景、地域差などをとらえるとともに、世界と日本の観光業の特徴を考察する。	環境
	7節 世界を結ぶ交通・通信 1 世界の交通網 2 情報と通信の発達	世界を結ぶ交通・通信について、交通機関の種類や特徴をとらえるとともに、通信の発達による世界の一体化と地域差を考察する。	講義 演習 定期考査 国際
	8節 現代世界の貿易と経済圏 1 私たちの生活を支える貿易 2 国際分業の発達と貿易の地域間格差 3 貿易の自由化と経済連携	現代世界の貿易と経済圏について、進展する国際分業の現状と課題、貿易の自由化と経済連携の動向を考察する。また、現代世界における日本の貿易の現状と課題を考察する。	
	2節 人口問題 1 世界の人口問題 2 発展途上国の人口問題 3 先進国の人口問題	人口問題について、世界の人口問題を一覧し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策をとらえる。また、日本の人口問題の課題と解決への取り組みを考察する。	↓
	4章 生活文化、民族・宗教 1節 世界の衣食住 1 世界の衣食住の地域的差異 2 衣食住の世界的な画一化	世界の衣食住について、地域的差異があることに気づくとともに、世界的に画一化が進む現状を考察する。また、日本の衣食住の特徴やその変化を考察する。	
	2節 民族と宗教 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教	民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活とのかかわりについて考察する。	
	3節 現代世界の国家	現代世界の国家について、国家と領域・国境のあり方、国家と主権の考え方、さまざまな国家と国家間の関係の課題を考察する。	
	4節 民族・領土問題 1 世界の民族・領土問題 2 多様な原因をもつ民族・領土問題 3 共生に向けた取り組み	民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を一覧し、そのおもな原因と共生に向けた取り組みを考察する。また、日本の領土をめぐる問題や日本国内で暮らす外国人との共生の課題を考察する。	

▲3学期の内容は1学期に予習をし、特に興味関心のある内容を探究し、JICA国際協力エッセイコンテストの作品として執筆する

*小単元ごとのルーブリックは別紙参照

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	日本史B	4	3総合探究・英語人文コース	竹中 柏原 宮崎
教科書	詳説日本史B(山川出版社)	副教材	図説日本史通覧(帝国書院)	

1. 学習の目標

日本史の通史を原始・古代から近世まで学ぶことによって、現代の日本の社会と文化につながる長い歩みを理解します。日本の歴史を様々な側面(政治、経済史、文化、民俗など)を学び、考察することにより、人間の創り出す社会と文化の多様性について理解します。またSDGsに関連して、歴史の中の環境問題にも触れる予定です。身近なところから自国の歴史と文化を学ぶ姿勢を身につけます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

三年生からスタートの科目です。受験勉強として選択している諸君は先々教科書を読んで予習(自分のノートの作成)を計画的に行ってください。授業での講義や演習を復習として利用できたらベストです。興味を持った事象や理解できないところは放置せずに自ら調べるか、質問すること。興味を持って調べたこと、理解したことが知識として脳に刻まれていくはずですよ。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度(忘れ物× 居眠り× 内職×) ノート(またはファイル)の提出状況 課題の提出状況
②思考・判断・表現 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題内容等
③資料活用の技能 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	資料活用の技能・表現(史料の講読など) 社会科学的な認識能力の深化 関連教科、周辺科目の知識の活用
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、提出課題の内容等

4. 担当者からのメッセージ

私たちの身近な自然や造作物にも思いがけない歴史の存在があったりします。歴史を学ぶことは、今この時、この時代を生きている私たちの生をより豊かにしてくれます。決して暗記科目ではありません。歴史の流れは因果関係を考え「理屈」をつけて把握すること。幹さえしっかりと押さえれば、枝葉は後から自然と頭に入ってきます。受け身の姿勢で単に覚えるだけでは退屈ですよ。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	日本文化のあけぼの ・原始(旧石器・縄文時代) ・古代(弥生時代) ・古代(古墳時代) 律令国家の形成 ・古代(飛鳥時代・白鳳時代)	☐ 旧石器時代、新石器時代の文化・生活の対比ができる。 ☐ 農耕文化の始まりとそれによる社会構造の変化を理解できる。 ☐ 中国の史書に表れる日本の姿を具体的に理解できる。 ☐ 古墳文化の変遷の中でヤマト政権の規模や性格の変化が把握できる。 ☐ 律令国家が東アジアの大きな変動の中で生まれたことが理解できる。 ☐ 律令制度の仕組み・性格が理解できる。	考古実物資料の素描 表現 史料の講読 国際 課題(古代国名 律令制)提出 国際 表現 ノート(ファイル)提出 表現 中間考査
	貴族政治と国風文化 ・古代(奈良時代) ・古代(平安時代) ※律令制の再建期 ※摂関政治と国風文化 ※荘園制度 ※武士の登場	☐ 国家仏教の特徴とその影響下での奈良の政治の変遷が理解できる。 ☐ 古代の仏教(顕教、密教、神仏習合など)の基本的知識が理解できる。 ☐ 平安初期の政治の課題が理解できる。 ☐ 藤原北家の制覇の過程とその特徴が理解できる。 ☐ 摂関政治の性格と貴族政治の特徴が理解できる。 ☐ 公地公民制から初期荘園制、荘園公領制へ変化する流れが理解できる。 ☐ 地方政治の乱れと武士の登場、台頭の流れが理解できる。 ☐ 都の造営(都市開発)と連動する環境問題が理解できる。	史料の講読 表現 課題(平安京の作図)提出 表現 課題(年中行事の整理)提出 表現 ノート(ファイル)提出 表現 期末考査 表現
2	中世社会の成立 ※院政と平氏政権 ・中世(鎌倉時代) 武家社会の成長 ・中世(室町時代) ※南北朝時代 ※庶民の台頭 ※戦国大名の登場	☐ 院政期以降のダイナミックなシステムの変化が理解できる。 ☐ 武家政権と公家政権の二重政権が理解できる。 ☐ 蒙古襲来の影響と前後の武家社会の変質が理解できる。 ☐ 鎌倉仏教を始め中世仏教の特色が理解できる。 ☐ 鎌倉・室町時代の経済を比較して理解できる。 ☐ 南北朝の動乱から室町幕府成立の流れを理解できる。 ☐ 一揆の変遷とその特色が理解できる。 ☐ 戦国大名の施策・特色が理解できる。	史料の講読 課題(鎌倉幕府政治機構図等)提出 表現 国際 表現 課題(戦国大名群雄割拠図)提出 ノート(ファイル)提出 表現 中間考査
	幕藩体制の確立 ・近世(安土・桃山時代) ・近世(江戸時代)	☐ 世界史とリンクさせてヨーロッパ人の来航とその影響が理解できる。 ☐ 太閤検地の歴史的意義が理解できる。 ☐ 秀吉の外交政策(特に朝鮮関係)が理解できる。 ☐ 幕藩体制の確立につながる諸政策を整理、理解できる。	史料の講読 国際 国際 課題(江戸幕府職制・政治機構図等)提出 ノート(ファイル)提出 表現 期末考査 表現
3	幕藩体制の展開と動揺 ・近世(江戸時代)	☐ 四～十二代将軍の治世や改革の特徴を俯瞰的に理解できる。 ☐ 江戸時代の経済・流通について多角的に把握できる。 ☐ 江戸時代の循環型社会を理解できる。	環境 表現 ノート(ファイル)提出 表現 学年末考査

☐チェック欄

日本史B ルーブリック 大筋の評価の基準です。 ※日本史B4単位 1章～8章

日本史特講2単位 9章～10章 日本史特講3単位 9章～13章

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価基準		日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見だし、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりできる。また、それを表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
1章	日本文化のあけぼの	日本の原始社会に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	地域に残る遺跡から原始社会について考察するとともに、その成立過程や特徴を適切に表現している。	地域に残る遺跡や博物館などを訪ねるなどして原始社会の文化の特色に関する諸資料を収集し、原始社会の様子を調べるための情報を適切に選択している。	原始社会がまだ貧しいがゆえに平等な社会構造であったことを理解し、その知識を身に付けている。農耕の開始によって権力者があらわれ、クニができあがってくることを理解し、その知識を身に付けている。
2章 3章	律令国家の形成 貴族政治と国風文化	古代国家としての奈良や京都、奈良時代や平安時代の文化に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	古代国家が東アジアの動向と関連して成立したことを考察するとともに、その過程や結果を適切に表現している。	古代国家の確立に関する史料を読み、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	古代国家が天皇を中心に成り立っていることを理解し、その知識を身に付けている。古代国家と東アジアの関係を理解し、その知識を身に付けている。奈良時代は律令制の時代であったことを理解し、その知識を身に付けている。平安時代は律令制が変質し、荘園を中心とした社会になってきたことを理解し、その知識を身に付けている。
4章	中世社会の成立	武士の出現や武士の生活や鎌倉時代の出来事に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	武士の出現や武家政権の成立について、その文化や特色と関連付けながら考察し、適切に表現している。	中世社会の成立に関する諸資料を収集し、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。鎌倉時代の寺社や仏像をみてその社会や文化の特徴を読み取ることができる。	武士が土地の所領関係でむすびについていることを理解し、その知識を身に付けている。荘園などを武士が実力で奪いとり、力を獲得していく過程を理解し、その知識を身に付けている。東アジアの動向が日本の歴史に大きな関わりをもっていることを理解し、その知識を身に付けている。
5章	武家社会の成長	中世社会が二つの勢力にわかれ争っていることや戦国大名の出現に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	南北朝の内乱、室町時代、戦国時代のそれぞれの時代について、出来事や文化に着目しながら考察し、適切に表現している。	室町時代の建築物や庭園から、その社会や文化の特徴を読み取ることができる。また全国各地の城跡から戦国時代の社会や文化の特徴に関する情報を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	鎌倉幕府が滅亡したあと、全国の武士や悪党が二つにわかれて戦ったことを理解し、その知識を身に付けている。室町幕府と東アジアの関係を理解し、その知識を身に付けている。守護大名の時代から下克上を経て戦国大名が出現してくることを理解し、その知識を身に付けている。村の自治がしだいに成長してくることを理解し、その知識を身に付けている。

6章	幕藩体制の確立	統一政権の成立にいたる過程、「鎖国」やキリスト教の日本への影響などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	織田信長や豊臣秀吉による天下統一の過程や、徳川家康の築いた江戸幕府のシステムの特徴について考察し、適切に表現している。	織豊政権や徳川時代に関する史料や絵巻などの諸資料を収集し、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。五街道などを調べることで、この時期に江戸と諸地域の関係がどう形成されていくかを読み取ったり図表などにまとめたりしている。	天下統一の過程が、ヨーロッパからの影響のもとでおこっていることを理解し、その知識を身に付けている。封建社会が百姓から年貢をとることによって成り立っていることを理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の特徴を理解し、その知識を身に付けている。江戸幕府の貿易の特徴と禁教令の関係を理解し、その知識を身に付けている。
7章 8章	幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺	幕藩体制がしだいに動揺していく過程や蘭学・国学の普及、民衆文化の発展などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	幕府の改革についてそれぞれの特色をおさえつつ、幕藩体制の矛盾が表面化していく過程について考察し、適切に表現している。	地域に残るお墓、義民伝説や地域にあった寺子屋など江戸時代の民衆の生活に関する諸資料を収集し、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	幕藩制度が安定するときの特徴を理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の矛盾の出現の理由を理解し、その知識を身に付けている。百姓一揆・打ちこわしの背景を理解し、その知識を身に付けている。幕府の改革の失敗の理由を理解し、その知識を身に付けている。異国船の接近が幕府にもたらした影響を理解し、その知識を身に付けている。
9章 10章	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア	開国から幕府の滅亡にいたる過程、新政府の政策に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。欧米の文化・思想が日本の文化に与えた影響、日本を取り巻く国際環境の変化などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	江戸幕府が倒れていく過程や新政府がとった政策とその結果について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	浮世絵や風刺漫画などから明治維新、文明開化、自由民権運動などの様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	開国が与えた影響を理解し、その知識を身に付けている。討幕運動の特徴を理解し、その知識を身に付けている。新政府の政策の特徴を理解し、その知識を身に付けている。自由民権運動の内容を理解し、その知識を身に付けている。
		日清、日露戦争とその前後のアジアや欧米諸国との関係の推移、大正デモクラシーや民衆の台頭、第1次世界大戦とその影響などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	日本の国内事情や当時の国際関係に着目しつつ、日清、日露戦争と第1次世界大戦の経過やその結果について考察し、適切に表現している。	風刺漫画や雑誌・新聞などの諸資料を収集し、当時の民衆の姿を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日清・日露戦争のそれぞれの性格と特徴を理解し、その知識を身に付けている。植民地支配の特徴と植民地からの抵抗について理解し、その知識を身に付けている。大正デモクラシーの特徴を理解し、その知識を身に付けている。
		第2次世界大戦へいたる経過とその結果、アジア近隣諸国との関係などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	日本国内の政治、経済の状況と世界の動向を関連付けながら、日本のおこった戦争の性格について考察し、適切に表現している。	地域に残る戦争遺跡を訪ねるなどして第2次世界大戦に関する諸資料を収集し、戦争の様子を調べるための情報を適切に選択している。	戦争に傾斜していく経過、そして戦争がどのような性格であったかを理解し、その知識を身に付けている。戦時中の日本とアジア諸国の関係を理解し、その知識を身に付けている。
11章 12章	占領下の日本 高度成長の時代	戦前と異なり戦後は国民が主人公になった時代であることや、戦後の社会の変化の大きさに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	大日本帝国憲法体制と日本国憲法体制の根本的な違い、戦後日本がアメリカとの関連を強めていくことの問題点について考察し、適切に表現している。	新聞や雑誌・漫画から戦前と戦後の変化を読み取ることができる。様々な史料から戦後日本を世界史のなかに位置付けて考察し、その特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	戦後は基本的な人権の尊重・国民主権・平和主義を基本政策に出発したことを理解し、その知識を身に付けている。戦後世界の動向と日本との関わりについて理解し、その知識を身に付けている。
13章	激動化する世界と日本	経済の発展や国際社会における日本の役割、現代日本のかかえる課題などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	現代日本のかかえる様々な課題について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	年表や新聞、雑誌を活用して現代の日本と世界の関係について調べるための情報を適切に選択している。	戦後の世界と日本の変化の過程を事実にもとづいて理解し、その知識を身に付けている。21世紀の展望をもつ。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	日本史特講	2	3年総合探究コース	竹中 柏原
教科書	詳説日本史B(山川出版社)	2	図説日本史通覧(帝国書院)	

1. 学習の目標

世界史のなかの日本を絶えず視野に置きながら、近代国家としての日本の成立を多角的に把握します。特に近代日本が経験した四つの戦争(日清戦争 日露戦争 第一次大戦 第二次大戦)を節目に、その時日本はどのような道を選んだのかを、資料をもとに客観的に検証していきます。科学的な社会認識を身につけることを目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

4単位日本史と同様、受験勉強として選択している諸君は先々教科書を読んで予習(自分のノートの作成)を計画的に行ってください。授業での講義や演習を復習として利用できたらベストです。興味を持った事象や理解できないところは放置せずに自ら調べるか、質問すること。興味を持って調べたこと、理解したことが知識として脳に刻まれていくはずです。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度(忘れ物× 居眠り× 内職×) ノート(またはファイル)の提出状況 課題の提出状況
②思考・判断・表現 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題内容等
③資料活用の技能 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	資料活用の技能・表現(史料の講読など) 社会科学的な認識能力の深化 関連教科、周辺科目の知識の活用
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、提出課題の内容等

4. 担当者からのメッセージ

案外、身近な学問です。近代史は特に現代の諸課題と直結する点が多々あります。決して暗記科目ではありません。歴史の流れを因果関係を考え「理屈」をつけて把握すること。幹さえしっかりと押さえれば、枝葉は後から頭に入ってきます。今に続く歴史の中に自分たちがいるという実感を持って下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	近代国家の成立 ・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵	□19世紀の列強の動向とリンクして、日本の開国を理解できる。 □明治政府の中央集権志向の改革と士族や民衆の抵抗を対比して把握できる。	史料講読 ノート(ファイル)提出 国際 中間考査 表現
	・立憲国家の成立と日清戦争	□自由民権運動の推移が年表などで把握できる。 □列強の動向、東アジア情勢の変化の中で条約改正、日清戦争を理解できる。	史料講読 国際 ノート(ファイル)提出 表現 期末考査 表現
2	・日露戦争と国際関係 ・近代産業の発展	□日露戦争前後の日本と列強との関係の変化を理解できる。 □朝鮮植民地化に至る日朝関係史を年表などで理解できる。	史料講読 国際 課題(中国分割作図)提出 ノート(ファイル)提出 表現 中間考査
	二つの世界大戦とアジア ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制	□第一次大戦での日本の立ち位置が理解できる。 □20年代の協調外交とその挫折の流れを国際情勢を踏まえて理解できる。	史料講読 国際 ノート(ファイル)提出 表現 期末考査 表現
3	・恐慌の時代 ・軍部の台頭	□20年代の慢性的不況の推移が理解できる。 □30年代の軍部の台頭と対中戦争、それを支えた国内の動向が多角的に理解できる。	史料講読 DVD(太平洋戦争)視聴とレポート提出 表現 ノート(ファイル)提出 国際
	・第二次世界大戦	□対米戦争に至る流れ、戦争の推移、終結に至る流れを年表などで把握できる。	学年期末考査 表現

□チェック欄

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴	日本史特講	3	3年英語人文コース	竹中
教科書	詳説日本史B(山川出版社)	副教材	図説日本史通覧(帝国書院)	

1. 学習の目標

世界史のなかの日本を絶えず視野に置きながら、近代国家としての日本の成立を多角的に把握します。特に近代日本が経験した四つの戦争(日清戦争 日露戦争 第一次大戦 第二次大戦)を節目に、その時日本はどのような道を選んだのかを、資料をもとに客観的に検証していき、科学的な社会認識を身につけることを目指します。加えて、単に政治史・外交史にとどまることなく市井の声・記録などをもとに各時代を浮き彫りにして把握できる力を身につけます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

4単位日本史と同様、受験勉強として選択している諸君は先々教科書を読んで予習(自分のノートの作成)を計画的に行ってください。授業での講義や演習を復習として利用できたらベストです。興味を持った事象や理解できないところは放置せずに自ら調べるか、質問すること。興味を持って調べたこと、理解したことが知識として脳に刻まれていくはずです。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度(忘れ物× 居眠り× 内職×) ノート(またはファイル)の提出状況 課題の提出状況
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題内容等
③資料活用の技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	資料活用の技能・表現(史料の講読など) 社会科学的な認識能力の深化 関連教科、周辺科目の知識の活用
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、提出課題の内容等

4. 担当者からのメッセージ

案外、身近な学問です。近代史は特に現代の諸課題と直結する点が多々あります。決して暗記科目ではありません。歴史の流れを因果関係を考え「理屈」をつけて把握すること。幹さえしっかりと押さえれば、枝葉は後から頭に入ってきます。今に続く歴史の中に自分たちがいるという実感を持って下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	近代国家の成立 ・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と日清戦争	□19世紀の列強の動向とリンクして、日本の開国を理解できる。 □明治政府の中央集権志向の改革と士族や民衆の抵抗を対比して把握できる。 □自由民権運動の推移を理解できる。 □列強の動向、東アジア情勢の変化の中で条約改正、日清戦争を理解できる。	史料講読 国際 ノート(ファイル)提出 表現 中間考査 表現
	・日露戦争と国際関係	□日露戦争前後の日本と列強との関係の変化を理解できる。 □朝鮮植民地化に至る日朝関係史を年表などで理解できる。	史料講読 国際 ノート(ファイル)提出 表現 課題(中国分割作図)提出 期末考査
2	近代産業の発展 二つの世界大戦とアジア ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制	□日本の急速な近代化とそれに伴う社会問題の発生及び民衆運動の推移を相対的に理解できる。 □第一次大戦での日本の立ち位置が理解できる。 □20年代の協調外交とその挫折の流れを国際情勢を踏まえて理解でき	史料講読 環境 ノート(ファイル)提出 表現 国際 中間考査 表現
	・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦	□20年代の慢性的不況の推移が理解できる。 □30年代の軍部の台頭と対中戦争、それを支えた国内の動向が多角的に理解できる。 □対米戦争に至る流れ、戦争の推移、終結に至る流れを年表などで把握できる。 □具体的に戦時下の国民生活が理解できる。	史料講読 国際 DVD(太平洋戦争)視聴とレポート提出 表現 ノート(ファイル)提出 表現 環境 国際 期末考査 表現
3	占領下の日本 ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 高度成長の時代 ・55年体制 ・経済復興から高度成長 激動する世界と日本 ・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本の動揺	□戦後の民主化政策を体系的に理解できる。 □冷戦の中で「逆コース」の流れと日米安保条約締結の意味が理解でき □高度成長の要因と推移だけでなく負の遺産も併せて理解でき □1970年代以降の国内政治、経済の動きを俯瞰できる。 □現代日本の課題を関連分野とリンクさせて把握できる。	史料講読 国際 ノート(ファイル)提出 表現 環境 国際 環境 学年末考査 表現

□チェック欄

日本史B ルーブリック 大筋の評価の基準です。 ※日本史B4単位 1章～8章

日本史特講2単位 9章～10章 日本史特講3単位 9章～13章

		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価基準		日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見だし、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりできる。また、それを表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
1章	日本文化のあけぼの	日本の原始社会に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	地域に残る遺跡から原始社会について考察するとともに、その成立過程や特徴を適切に表現している。	地域に残る遺跡や博物館などを訪ねるなどして原始社会の文化の特色に関する諸資料を収集し、原始社会の様子を調べるための情報を適切に選択している。	原始社会がまだ貧しいがゆえに平等な社会構造であったことを理解し、その知識を身に付けている。農耕の開始によって権力者があらわれ、クニができてあがってくることを理解し、その知識を身に付けている。
2章 3章	律令国家の形成 貴族政治と国風文化	古代国家としての奈良や京都、奈良時代や平安時代の文化に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	古代国家が東アジアの動向と関連して成立したことを考察するとともに、その過程や結果を適切に表現している。	古代国家の確立に関する史料を読み、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	古代国家が天皇を中心に成り立っていることを理解し、その知識を身に付けている。古代国家と東アジアの関係を理解し、その知識を身に付けている。奈良時代は律令制の時代であったことを理解し、その知識を身に付けている。平安時代は律令制が変質し、荘園を中心とした社会になってきたことを理解し、その知識を身に付けている。
4章	中世社会の成立	武士の出現や武士の生活や鎌倉時代の出来事に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	武士の出現や武家政権の成立について、その文化や特色と関連付けながら考察し、適切に表現している。	中世社会の成立に関する諸資料を収集し、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。鎌倉時代の寺社や仏像をみてその社会や文化の特徴を読み取ることができる。	武士が土地の所領関係でむすびについていることを理解し、その知識を身に付けている。荘園などを武士が実力で奪いとり、力を獲得していく過程を理解し、その知識を身に付けている。東アジアの動向が日本の歴史に大きな関わりをもっていることを理解し、その知識を身に付けている。
5章	武家社会の成長	中世社会が二つの勢力にわかれ争っていることや戦国大名の出現に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	南北朝の内乱、室町時代、戦国時代のそれぞれの時代について、出来事や文化に着目しながら考察し、適切に表現している。	室町時代の建築物や庭園から、その社会や文化の特徴を読み取ることができる。また全国各地の城跡から戦国時代の社会や文化の特徴に関する情報を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	鎌倉幕府が滅亡したあと、全国の武士や悪党が二つにわかれて戦ったことを理解し、その知識を身に付けている。室町幕府と東アジアの関係を理解し、その知識を身に付けている。守護大名の時代から下克上を経て戦国大名が出現してくることを理解し、その知識を身に付けている。村の自治がしだいに成長してくることを理解し、その知識を身に付けている。

6章	幕藩体制の確立	統一政権の成立にいたる過程、「鎖国」やキリスト教の日本への影響などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	織田信長や豊臣秀吉による天下統一の過程や、徳川家康の築いた江戸幕府のシステムの特徴について考察し、適切に表現している。	織豊政権や徳川時代に関する史料や絵巻などの諸資料を収集し、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。五街道などを調べることで、この時期に江戸と諸地域の関係がどう形成されていくかを読み取ったり図表などにまとめたりしている。	天下統一の過程が、ヨーロッパからの影響のもとでおこっていることを理解し、その知識を身に付けている。封建社会が百姓から年貢をとることによって成り立っていることを理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の特徴を理解し、その知識を身に付けている。江戸幕府の貿易の特徴と禁教令の関係を理解し、その知識を身に付けている。
7章 8章	幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺	幕藩体制がしだいに動揺していく過程や蘭学・国学の普及、民衆文化の発展などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	幕府の改革についてそれぞれの特色をおさえつつ、幕藩体制の矛盾が表面化していく過程について考察し、適切に表現している。	地域に残るお墓、義民伝説や地域にあった寺子屋など江戸時代の民衆の生活に関する諸資料を収集し、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	幕藩制度が安定するときの特徴を理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の矛盾の出現の理由を理解し、その知識を身に付けている。百姓一揆・打ちこわしの背景を理解し、その知識を身に付けている。幕府の改革の失敗の理由を理解し、その知識を身に付けている。異国船の接近が幕府にもたらした影響を理解し、その知識を身に付けている。
9章 10章	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア	開国から幕府の滅亡にいたる過程、新政府の政策に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。欧米の文化・思想が日本の文化に与えた影響、日本を取り巻く国際環境の変化などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	江戸幕府が倒れていく過程や新政府がとった政策とその結果について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	浮世絵や風刺漫画などから明治維新、文明開化、自由民権運動などの様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	開国が与えた影響を理解し、その知識を身に付けている。討幕運動の特徴を理解し、その知識を身に付けている。新政府の政策の特徴を理解し、その知識を身に付けている。自由民権運動の内容を理解し、その知識を身に付けている。
		日清、日露戦争とその前後のアジアや欧米諸国との関係の推移、大正デモクラシーや民衆の台頭、第1次世界大戦とその影響などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	日本の国内事情や当時の国際関係に着目しつつ、日清、日露戦争と第1次世界大戦の経過やその結果について考察し、適切に表現している。	風刺漫画や雑誌・新聞などの諸資料を収集し、当時の民衆の姿を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日清・日露戦争のそれぞれの性格と特徴を理解し、その知識を身に付けている。植民地支配の特徴と植民地からの抵抗について理解し、その知識を身に付けている。大正デモクラシーの特徴を理解し、その知識を身に付けている。
		第2次世界大戦へいたる経過とその結果、アジア近隣諸国との関係などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	日本国内の政治、経済の状況と世界の動向を関連付けながら、日本のおこった戦争の性格について考察し、適切に表現している。	地域に残る戦争遺跡を訪ねるなどして第2次世界大戦に関する諸資料を収集し、戦争の様子を調べるための情報を適切に選択している。	戦争に傾斜していく経過、そして戦争がどのような性格であったかを理解し、その知識を身に付けている。戦時中の日本とアジア諸国の関係を理解し、その知識を身に付けている。
11章 12章	占領下の日本 高度成長の時代	戦前と異なり戦後は国民が主人公になった時代であることや、戦後の社会の変化の大きさに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	大日本帝国憲法体制と日本国憲法体制の根本的な違い、戦後日本がアメリカとの関連を強めていくことの問題点について考察し、適切に表現している。	新聞や雑誌・漫画から戦前と戦後の変化を読み取ることができる。様々な史料から戦後日本を世界史のなかに位置付けて考察し、その特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	戦後は基本的な人権の尊重・国民主権・平和主義を基本政策に出発したことを理解し、その知識を身に付けている。戦後世界の動向と日本との関わりについて理解し、その知識を身に付けている。
13章	激動化する世界と日本	経済の発展や国際社会における日本の役割、現代日本のかかえる課題などに関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	現代日本のかかえる様々な課題について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	年表や新聞、雑誌を活用して現代の日本と世界の関係について調べるための情報を適切に選択している。	戦後の世界と日本の変化の過程を事実にもとづいて理解し、その知識を身に付けている。21世紀の展望をもつ。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜探究（社会・公園の防災調査）	1	3年生総合探究コース（選択）	松原・大島
教科書	なし（プリントを準備します）	副教材		

1. 学習の目標

- ・学校周辺における公園の防災評価と併せ、災害時における公園活用と防災拠点としての活用の提案を行う。
- ・防災を意識した社会調査スキルを習得する。
- ・防災拠点の運営スキルを習得する。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

このプロジェクトはSDGs（持続可能な開発目標）の目標11「住み続けられるまちづくりを」をベースに、地域の防災を意識した社会調査スキルと防災拠点の運営スキルの習得を目指すものである。外部機関との連携による学びもあるため、あいさつ、迅速な行動、説明等の的確なメモ書きは不可欠である。また、フィールドワーク時には1時間歩き続け、情報収集をする体力も求められる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章による評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各単元において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	①地域の実態にあった「問い」を立てる力。 ②適切な方法で文献資料等を検索・活用する力。 ③調査結果等を他者にわかりやすく伝える力。
②思考・判断・表現 各単元の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	①「やりたいこと」と「できること」を判断し実行する力。 ②適切な仮説をたてる力。 ③適切な調査方法を見いだす力。 ④調査結果を適切な方法でまとめて表現する力。 ⑤調査結果を地域に提案・還元する力。
③主体的に学習に取り組む態度 各単元が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	①主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度。 ②関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする態度。 ③他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする態度。

4. 担当者からのメッセージ

大学と関係機関と連携しながら、学校周辺の公園をめぐり情報を収集します。フィールドワークに必要な次のものを準備して授業に臨んでください。自転車は利用しません。全て歩いて調査を行います。

（１）ハード：歩きやすい靴、探検ボードまたは下敷き類、筆記用具、帽子、汗ふきタオル、体操服での参加可能。必要に応じてサングラス、ハンディファン、飲料水、雨具、防寒具、カメラ等。その他、特別に指示されたもの。

（２）ソフト：体力、気力（強い心）、向上心、コミュニケーション能力（あいさつ含む）

3 年生 北稜探究（公園の防災調査） 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント・評価基準）	学習活動
1	（１）社会調査法 ・地域課題の発見 ・文献検索の方法 ・調査写真の撮り方 （２）事例研究 1 ・地域課題の解決に向けて地元の高校生に期待されること ・防災拠点の運営スキル （３）社会調査・防災調査 公園調査	・地域調査法の基本的スキルを習得する ・地域課題を発見することができる ・事例研究を通じて、地域課題における解決方法の糸口をさぐる ・防災拠点の運営スキルを習得するための実習・専門家による実習 ・公園調査のポイントを学ぶ	環境 表現 講義 個人ポート フォリオ 現地調査
2	（４）公園の個別調査 ・学校周辺の公園を調査する （５）公園の防災実態調査 ・防災機能個別調査（いくつかの公園の抽出調査） （６）調査結果の共有	・現地踏査、写真撮影ができる ・写真撮影、計測調査、実用実験等ができる ・調査結果の分析と考察	表現 現地調査 個人ポート フォリオ 発表
3	（７）実践発表に向けての準備	・パワーポイントの作成ができる ・発表原稿が取りまとめられる ・調査結果が発表できる	表現 発表 レポート

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜探究（社会・SDGsゼミ）	1	3年生環境理数コース・ 英語人文コース選択者	松原 久
教科書	基本解説「そうだったのか。SDGs」	副教材		

1. 学習の目標

- ・SDGsに関する基礎知識と活用事例を理解できる。
- ・効果的な方法を用いてSDGsの啓発ができる。
- ・学校内外に対してSDGsの啓発効果が検証できる。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

この講座は大学のゼミ形式でSDGsに関する理解を深め、多くの実践事例を参考に、校内外に啓発とその効果を見い出すことを目指している。少人数である事を活用し、課題に対して個々の考えを発信し、ディスカッションする事を通じて、新しい価値観を創造するという事を心がけてほしい。日常からSDGsとその各目標に関する出来事に注目し、自らの考えを創造することが予習・復習に該当する。ディスカッションへの参加、意見交換、ポートフォリオの内容、発表等を通じて総合的に評価する。対外的な発表は、北稜祭（展示）、国際協カイベント「清水寺で世界を語る」（11月3日実施予定）でのストリート発表、One World Festival for Youth @OSAKA YMCA（12月中旬）でのポスター発表を予定している。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って

①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に文章による評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各単元において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	①地域の実態にあった「問い」を立てる力。 ②適切な方法で文献資料等を検索・活用する力。 ③調査結果等を他者にわかりやすく伝える力。
②思考・判断・表現 各単元の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	①「やりたいこと」と「できること」を判断し実行する力。 ②適切な仮説をたてる力。 ③適切な調査方法を見いだす力。 ④調査結果を適切な方法でまとめて表現する力。 ⑤調査結果を地域に提案・還元する力。
③主体的に学習に取り組む態度 各単元が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	①主体的に地域の課題や魅力を調査・発見しようとする態度。 ②関係者・関係機関等と協働や合意形成をしようとする態度。 ③他者と協力し主体的に課題解決に取り組もうとする態度。

4. 担当者からのメッセージ

少人数であることを活かして、大学のゼミ形式の授業を展開します。各々が課題に対して興味関心を抱き、個々の考えを発信し、ディスカッションする事を通じて、新しい価値観を創造するということを心がけてほしい。併せて、日常生活における様々な事象が、SDGsの各目標とどの様に複雑に関わり合っているのかを理解するようにしてほしい。ディスカッションを通じて「正解」を求めるのではない。「答えのない価値観」に多面的にアプローチし、新しい発見を「コトバ」や「ART」等を通じて表現できる力もやşıなしてほしい。これらの能力は、大学入試や大学での研究活動で求められるものであり、その能力を早い段階から習得することは、履修者にとって大きなアドヴァンテージになると信じている。なお、本ゼミには次のステークホルダーがバックアップしてくれている。ホームページ等で各々の活動実績を確認してほしい。特定非営利活動法人テラ・スネッサンス、一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク、公益社団法人日本国際民間協力会NICCO、NPO法人光の音符（以上、NGO/NPO）、清水寺、桧垣バレエ団等

3年生 北稜探究（SDGs） 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント・評価基準）	学習活動
1	(1) SDG sとは (2) 実践事例（基本） (3) 個別研究	・SDG sに関する基本を理解する ・実践事例を通じ、SDG sの目標達成に向けた方法を見いだす ・個別研究を通じて、自らのテーマを探究する ・小さな発表会 ・質疑応答の作法を習得する	環境 国際 表現 講義 個人ポート フォリオ
2	(4) 個別研究の発表と製作 (5) ポスター発表 ・校内発表 ・校外発表	・個別研究とSDG sの関係性をを見いだす ・ディスカッション ・製作 ・ポスター製作 ・発表練習 ・発表 ・フィードバック	環境 国際 表現 調査活動 発表
3	(6) まとめ	・年間フィードバック	表現 発表 レポート

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学B	2	3年総合	高田
教科書	改訂版 高等学校数学B(数研出版)	副教材	REPEAT 数学B	

1. 学習の目標

数列やベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活とのかわりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。
 【復習】 授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。
 【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(ノート)・作品等の提出状況、課題(ノート)・作品等の内容 定期考査、小テスト、課題(ノート)等・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容
②数学的な見方や考え方 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	
③数学的な技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標			学習活動
到達レベル		レベル1	レベル2	レベル3	
1	ベクトル ベクトルの演算	□ベクトルの向き, 大きさ, 相等について理解している。	□ベクトルの加法, 減法, 実数倍の計算の仕組みや, 逆ベクトル, 零ベクトルについて理解している。	□有効線分で表されたベクトルについて, 和, 差, 実数倍を求めることができる。 □数式の演算法則との類似性を理解し計算することができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 中間考査(50分)
	ベクトルの成分	□ベクトルの成分表示の仕方を理解している。	□成分表示されたベクトルの大きさ, 和, 差, 実数倍の計算の仕方を理解している。 □座標平面上の点とベクトルの成分の関係について理解している。	□成分表示されたベクトルの大きさ, 和, 差, 実数倍の計算ができる。 □成分表示された2つのベクトルの平行条件を理解し, 計算に利用できる。	
	ベクトルの内積	□内積の定義を理解している。 □内積は実数であることを理解している。	□ベクトルの大きさとなす角から, 内積を求めることができる。 □成分表示されたベクトルについて, 内積を求めることができる。	□ベクトルのなす角を, 内積を利用して求めることができる。 □ベクトルの垂直条件を理解し, 計算に利用できる。	
	位置ベクトル	□位置ベクトルの考え方を理解している。	□線分の内分点, 外分点や三角形の重心を位置ベクトルで表す公式を理解している。	□線分の内分点, 外分点や三角形の重心の位置ベクトルを求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 期末考査(50分)
	ベクトルの図形への応用		□3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。	□線分上の点を, 線分をs:(1-s)に内分する点として処理できる。	
	図形のベクトルによる表示		□直線のベクトル方程式を理解している。	□直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。	
2	空間の点 空間ベクトル	□空間における座標軸のとり方を理解し, 点の座標, 原点との距離などが求められる。	□空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえ, 和, 差, 実数倍の計算方法を理解している。	□空間ベクトルの和, 差, 実数倍を求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 中間考査(50分)
	空間ベクトルの成分	□空間のベクトルの成分を座標空間と関連付けて理解している。	□成分表示されたベクトルの大きさ, 和, 差, 実数倍の計算ができる。	□座標空間の点と空間のベクトルの成分の関係について理解している。	
	空間ベクトルの内積	□ベクトルの内積を, 平面から空間へ拡張して考察できる。	□ベクトルの大きさとなす角から, 内積を求めることができる。 □成分表示されたベクトルについて, 内積を求めることができる。	□ベクトルのなす角を, 内積を利用して求めることができる。 □ベクトルの垂直条件を理解し, 計算に利用できる。	
	空間ベクトルの図形への応用	□ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解している。	□空間における図形を, 1つの頂点に関する位置ベクトルで考察し, 内分点や外分点の位置ベクトルを求めることができる。	□空間において3点が一直線上にあるための条件を理解し, ベクトルで表現して利用できる。	
	空間における図形	□座標空間における線分の長さや内分点・外分点の座標が求められる。	□座標平面に平行な平面の方程式を理解している。	□いろいろな球面の方程式が求められる。 □球面の方程式から, 中心, 半径を読み取ることができる。	
	数列と一般項	□数の並びに興味をもち, その規則性を発見しようとする意欲がある。	□数列の定義, 表記について理解している。	□数列の一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 期末考査(50分)
	等差数列	□等差数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係が考察できる。	□等差数列の公差, 一般項などを理解し, 一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	□初項と公差を文字で表して, 条件から数列の一般項を決定できる。	
	等差数列の和	□等差数列の和を導く過程を理解しようとする。	□等差数列の和の公式を適切に利用して, 数列の和が求められる。	□自然数の和, 奇数の和, 倍数の和などが求められる。	
	等比数列	□等比数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係が考察できる。	□等比数列の公差, 一般項などを理解し, 一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	□初項と公比を文字で表して, 条件から数列の一般項を決定できる。	
	等比数列の和	□等比数列の和を導く過程を理解しようとする。	□等比数列の和の公式を適切に利用して, 数列の和が求められる。	□等比数列の和の値から数列の一般項を求めることができる。	
3	和の記号Σ	□記号Σの意味を理解し, Σの式を和の形で表すことができる。	□記号Σの意味を理解し, 数列の和をΣの式で表すことができる。	□自然数の和や2乗の和の公式を利用して和の計算ができる。 □数列の和をΣで表し, 和の計算を簡単に行うことができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など 学年末考査(50分)
	階差数列	□数列の規則性の発見に階差数列が利用できることを理解しようとする。	□階差数列を用いてもとの数列の一般項を導く過程を理解しようとする。	□階差数列を利用して, もとの数列の具体的に項の値が求められる。	
	いろいろな数列の和		□分数の形になっている数列を部分分数に分けることにより, 和を求めることができる。(最初と最後に1つずつ分数が残るパターン)	□分数の形になっている数列を部分分数に分けることにより, 和を求めることができる。(最初と最後に2つずつ分数が残るパターン)	
	漸化式	□漸化式の意味を理解し, 具体的に項の値が求められる。	□既習の等差数列・等比数列について, 漸化式を用いて考察できる。 □既習の階差数列について, 漸化式を用いて考察できる。	□漸化式が1次式で表される数列について, 漸化式を適切に変形することにより, 一般項を求めることができる。	
	数学的帰納法	□自然数nに関する命題の証明には, 数学的帰納法が有効であることが理解できる。	□数学的帰納法を用いて等式を証明できる。	□数学的帰納法を用いて不等式を証明できる。 □数学的帰納法を用いて, 整数の性質を証明できる。	

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて, テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて, 一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて, 一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで, 反復練習をしたり, 理解するための工夫をしている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し, 学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し, 学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で, 自分の意見を出したり, 話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で, 自分の意見を出したり, 話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で, 自分の意見を出したり, 他の人の意見をまとめたりして, グループで思考の仮定を共有することができる。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学演習	2	3年・総合探求コース	土井 中田
教科書	授業時に配布するプリント等	副教材		

1. 学習の目標

数学Ⅰ・数学Aの基本事項の復習により基礎学力を定着し、それを用いて応用問題に取り組む思考力を身に付けます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

授業前の予習、授業後の復習は必ず行ってください。予習を行うことによって、授業中の板書時間を短くすることが出来ます。授け中は、自ら考える時間を多くとれるよう心掛けてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(ノート・プリント等)の提出状況、課題(ノート・プリント等)の内容
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、課題(ノート・プリント等)の内容、グループ発表および個人での課題発表の内容
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

入試に対応できる力を身に着けるための学習ではありますが、それにとどまらず、「論理的な考え方ができ、筋道をたてて説明できる」社会人として必要な能力も身に着けていきましょう。そのためには、単に答えが出せたで終わることなく、考え方が正しいか、使う定理や公式が正しいか、そして計算が間違っていないかを常にチェックするようにしましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	数と式(数学Ⅰ)	四則演算や基本的な記号を用いた計算を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 表現	【 】 【 】
	集合と命題(数学Ⅰ)	集合と命題に関する考え方を理解し、それを事象の考察に活用することができる。	グループ学習など 中間考査	【 】
	2次関数(数学Ⅰ)	2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など 表現 期末考査	【 】 【 】 【 】
2	2次関数(数学Ⅰ)	2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 表現	【 】 【 】
	図形と計量(数学Ⅰ)	三角比を用いた定理や公式を理解し、計算を行うことができる。	グループ学習など 中間考査	【 】
	データの分析(数学Ⅰ)	さまざまなデータを整理し、分析を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など 表現	【 】 【 】 【 】
	場合の数と確率(数学A)	・さまざまな場合の数の数え方を理解できる。 ・確率の性質を理解し、さまざまな確率を求めることができる。	期末考査	
3	図形の性質(数学A)	図形の性質を用いた定理を理解し、線分の長さや角度などを求めることができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など 表現 学年末考査	【 】 【 】 【 】

到達レベル	1	2	3	4	5
知識・技能	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式が分からない。	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式を知っている。	単純な問題を解くために必要な考え方や公式を適切に使うことができる。	複雑な問題を解くために必要な複数の分野の考え方や公式が分かる。	複雑な問題を解くために、複数の分野の考え方を整理して、公式等を適切に使うことができる。
思考・判断・表現	問題を解くための手順を考えられない。	問題を解くための手順を考えられる。	問題を解くための正しい手順を考えられる。	問題を解くための手順に従い、解答が導ける。	問題の解答を、手順に従い適切に表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	与えられた課題に取り組めない。	与えられた課題に一通り取り組める。	与えられた課題に繰り返し取り組み、理解しようとしている。	与えられた課題に関連する問題に自主的に取り組み、理解を深めようとしている。	多種多様な問題に自主的に取り組み、総合的な問題解決力を養おうとしている。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅲ	6	3年環境理数コース	岸田
教科書	高等学校 数学Ⅲ(数研出版)	副教材	改訂版 教科書傍用 4プロセス 数研出版 黄チャート	数学Ⅲ(数研出版) 数学Ⅲ

1. 学習の目標

複素数平面、2次曲線、いろいろな関数、極限、微分法及び積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する姿勢を身に付けます。

数学ⅡBまでで学習した基本事項をもとにして、数学Ⅲではそれらを組み合わせることにより「複雑な事象」、「複雑な関数」を考察できるようになります。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習】数学Ⅲは授業の進度がとても早くなります。教科書の予習(最低限例題を読んでおく、できれば問題を解いておく)をしてきてください。

【復習】問題集を解かなければ定着しないのは数Ⅲも同じ。A問題だけでもきちんと解こう。

【入試について】理系数学は「数学Ⅲからの出題」がとても多いので、日々の学習が入試直結です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとつまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(ノート・問題集)の提出状況・取り組み具合、グループ学習への取り組み状況
②数学的な見方や考え方 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	
③数学的な技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題(ノート・問題集)の内容、グループ学習での成果
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

数学Ⅲの一通りの学習を二学期半ばには終え、それ以降は「総復習」、「入試演習」を行っていく予定です。数学Ⅲの授業進度はとて速くなりますので、授業に集中してください。そして休まないでください。遅れを取り返すのが大変になります。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標					学習活動
到達レベル		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
1 学期 中間 考 査	1.放物線	放物線に関わる用語の意味を理解している。	放物線を表す点の軌跡を理解し、放物線を描くことができる。	放物線の方程式の標準形を理解し、焦点の座標や準線の方程式を求めることができる。 与えられた焦点の座標や準線の方程式から放物線の方程式を求めることができる。	放物線の軸、頂点、対称軸について理解するとともに、y軸が軸となる放物線について考察できる。		
	2.楕円	楕円に関わる用語の意味を理解している。	楕円を表す点の軌跡を理解し、楕円を描くことができる。	楕円の方程式の標準形を理解し、焦点の座標や長軸、短軸の長さを求めることができる。 与えられた2つの焦点と焦点からの距離の和から楕円の方程式を求めることができ	楕円の長軸と短軸の長さの関係性、対称軸や対称点について理解するとともに、y軸に長軸がある楕円について考察できる。	円と楕円の関係性を理解できる。 点の軌跡が楕円になる場合について考察できる。	
	3.双曲線	双曲線に関わる用語の意味を理解している。	双曲線を表す点の軌跡を理解し、双曲線を描くことができる。	双曲線の方程式の標準形を理解し、焦点の座標や漸近線の方程式を求めることができる。 与えられた2つの焦点と焦点からの距離の差から双曲線の方程式を求めることができ	双曲線の対称軸や対称点について理解するとともに、右辺が－1となる双曲線について考察できる。	直角双曲線について考察できる。	
	4.2次曲線の平行移動	平行移動の図形的意味を理解している。	方程式 $F(x,y)=0$ の書き方の意味を理解している。	平行移動の公式を理解し、与えられた2次曲線の方程式を平行移動した方程式を求めることができる。	与えられた方程式を変形し、方程式が表す図形を表現することができる。		
	5.2次曲線と直線	2次曲線と直線の位置関係を理解している。 接点や接する、接線といった用語の意味を理解している。	2次曲線と直線の共有点の座標を求めることができる。	2次曲線と直線の共有点の個数を、判別式を用いて求めることができる。	2次曲線に引いた接線の方程式を求めることができる。	2次曲線の接線の方程式を、判別式を用いて理解することができ、公式を用いて接線の方程式を求めることができる。	
	6.2次曲線の性質			点からの距離と直線からの距離の比が与えられたときに、その点が描く軌跡を求めることができる。	離心率と準線の言葉の意味を理解している。	離心率と準線の方程式を求めることができる。	
	7.曲線の媒介変数表示	媒介変数表示、パラメータの言葉の意味を理解している。	媒介変数表示される曲線について、媒介変数を消去することで、曲線の概要を求めることができる。	曲線の方程式を媒介変数を用いて表現することができる。	サイクロイドやアステロイド、カージオイドなどの曲線を表す媒介変数表示を理解できる。	分数式を用いて、円や双曲線を媒介変数表示することができる。	
	8.極座標と極方程式	極、始線、偏角、極座標、直交座標の言葉の意味を理解している。	極座標から直交座標に、直交座標から極座標に変換できる。	さまざまな直線や円を極方程式で表すことができる。	直交座標の方程式を極方程式で、極方程式を直交座標の方程式に変換できる。	離心率を用いて、2次曲線を極方程式で表すことができる。	
	9.コンピュータの利用			コンピュータを用いて、媒介変数表示や極方程式で表される曲線を描くことができる。			
	1 分数関数	分数関数の定義を理解できる。	分数関数から、漸近線、定義域等がどうなるかを判断し、グラフをかくことができる。	分数関数を変形することによって、分数関数の平行移動の概念を理解できる。	分数関数のグラフを利用して、方程式・不等式を解くことができる。	条件を満たす分数関数を求めることができる。	
	2 無理関数	無理関数の定義を理解できる。	無理関数から定義域、値域等がどうなるかを判断し、グラフをかくことができる。	無理関数を変形することによって、無理関数の平行移動の概念を理解できる。	無理関数のグラフを利用して、方程式・不等式を解くことができる。	条件を満たす無理関数を求めることができる。	
	3 逆関数と合成関数	逆関数・合成関数の定義を理解できる。	逆関数と元の関数の関係を理解し、グラフをかくことができる。	定義域・値域に注意しながら合成関数を考えることができる。	逆関数・合成関数の性質を用いて、条件を満たす関数を求めることができる。		中間考査(80分)
1 学期 期 末	1. 数列の極限	数列の極限に関する表記、 ∞ の記号について理解している。	簡単な数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。	収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて、数列の極限が求められる。	不定形の数列の式を、適切に変形することで、収束・発散を調べることができる。	「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。	
	2. 無限等比数列		無限等比数列の極限が求められる。	無限等比数列の収束・発散の条件を理解し、それを利用して、様々な数列の極限を求めることができる。	無限等比数列を、公比の値で場合分けし、その極限を考察できる。	漸化式で表された数列の一般項を求め、数列の極限を求めることができる。	
	3. 無限級数		無限級数の表記について理解している。	無限級数の和とは、部分和の作る数列の極限であることを理解し、無限級数の収束・発散を調べることができる。 無限等比級数の収束・発散を、等比数列の和の極限ととらえ、公比の値によって調べることができる。	無限等比級数の収束条件を理解し、それを利用できる。 無限級数の和の性質について理解し、それを用いて無限級数の和が求められる。 無限等比級数の知識を利用して、数学的に循環小数を分数で表すことができる。	繰り返しを含む図形的な問題を、無限等比級数を利用して考察することができる。 無限級数の収束、発散を判定する条件を理解し、それを利用できる。 無限等比級数で表された関数のグラフを描くことができる。	
	4. 関数の極限(1)	関数の極限の表記および ∞ の記号について理解している。	簡単な関数の $x \rightarrow a$ のときの極限を求めることができる。 関数の極限が正・負の無限大に発散する場合を調べられる。	グラフを参考にしながら、関数の右側極限、左側極限、関数の極限の有無について考察することができる。	不定形の関数の式を、適切に変形することで、関数の極限を求めることができる。	極限の等式を成り立たせる必要条件を求めて、その十分性を確認することで関数の式の係数を決定することができる。	
	5. 関数の極限(2)		簡単な関数の $x \rightarrow \pm \infty$ のときの極限を求めることができる	指数関数・対数関数の極限が求められる。	不定形の関数の式を、適切に変形することで、関数の極限を求めることができる。	極限値に関する条件から関数を決定することができる。	
	6. 三角関数と極限			簡単な三角関数の極限について考察できる。	関数の式の変形が容易でない場合、「はさみうちの原理」を用いて極限を考察できる。	三角関数の極限を応用して、図形的な問題を処理することができる。	
	7. 関数の連続性			連続性の性質を理解し、定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。	中間値の定理を理解し、それを用いて方程式の実数解の存在を考察することができる。	数列の極限で表された関数の連続性を調べ、グラフを描くことができる。	
	1(1) 微分係数と導関数	微分係数の図形的意味を考察しようとする。	導関数の種々の表記を理解している。	微分係数の2通りの表し方を理解し、その図形的意味を考察することができる。	導関数を、微分係数から得られる新しい関数として理解することができる。	導関数の定義を理解し、定義に基づいて微分することができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 作品課題 グループ学習 など
	1(2) 微分可能と連続	微分可能性と連続性の関係について、興味・関心をもつ。	微分係数、微分可能の定義と、その図形的意味を理解している。	連続性が微分可能性の必要条件ではあるが十分条件ではないことを理解している。	微分可能性を、定義に基づいて考察することができる。		

問 考 査	2 導関数の計算	様々な導関数の性質や計算方法に興味をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	$(x\alpha)' = \alpha \times \alpha - 1$ において、 α の範囲が自然数、整数、有理数と拡張されていくことに興味・関心を示す。	α の範囲を自然数、整数、有理数と拡張しながら、 $(x\alpha)' = \alpha \times \alpha - 1$ を証明していく考え方や方法を理解している。	導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。	
	3 いろいろな関数の導関数	自然対数の底eを考える必要性に興味をもち、考察しようとする。	三角関数の導関数を理解し、三角関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。	自然対数eの定義と、対数関数の導関数を理解し、対数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。	指数関数の導関数を理解し、指数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。	対数微分法を利用して、複雑な関数を微分することができる。
	4 第n次導関数	高次導関数の計算をするだけでなく、第n次導関数の式の形を予想しようとする。	高次導関数の計算において、第n次導関数の形を予想することができる。	高次導関数の定義、表記を理解し、種々の関数の高次導関数を求めることができる。		
	5 曲線の方程式と導関数	陰関数 $F(x, y)=0$ を微分する方法の簡便さに関心を示す。	陰関数表示 $F(x, y)=0$ を、陽関数表示 $y=f(x)$ としなくても微分できることを理解している。	方程式 $F(x, y)=0$ を関数とみて、合成関数の導関数を利用して微分することができる。	媒介変数tで表された関数の導関数を、tの関数として表すことができる。	
	1 接線の方程式	接線・法線方程式の意味が理解できる	初等関数のグラフに対して接線・法線の方程式を求めることができる	傾きや通る1点から接線の方程式を求めることができる	陰関数のグラフに対して接線・法線の方程式を求めることができる	共通接線に関する問題を解くことができる
	2 平均値の定理	平均変化率の意味が理解できる	微分係数が接線の傾きを表すことが理解できる	平均値の定理が理解できる	平均値の定理におけるc値を求めることができる	平均値の定理を用いて不等式を証明することができる
	3 関数の値の変化	関数の増加・減少の定義が理解できる	導関数を用いて関数の増減を調べることができる	関数の極値や最大値・最小値を求めることができる	絶対値のついた関数の増減・極値を求めることができる	極値に関する条件から関数を決定することができる
	4 関数のグラフ	曲線の凹凸と第2次導関数の符号の関係が理解できる	曲線の凹凸を調べ、変曲点を求めることができる	増減・凹凸・漸近線を調べて関数のグラフをかくことができる	増減・凹凸・漸近線を調べて分数関数のグラフをかくことができる	第2次導関数を利用して関数の極値を求めることができる
	5 方程式、不等式への応用	関数のグラフと方程式の実数解の関係が理解できる	導関数を利用して不等式を証明することができる	関数のグラフを利用して定数を含む方程式の実数解の個数を求めることができる	複数列の微分が必要な不等式を証明することができる	接線の本数に関する条件を方程式の実数解の問題と考えて解くことができる
	6 速度と加速度	直線上の点の運動に関して速度・加速度の意味が理解できる	直線上の点の運動に関して速度・加速度を求めることができる	平面上の点の運動に関して速度・加速度を求めることができる	水面の上昇速度に関する問題を解くことができる	直線や曲線上を滑ることなく転がる円上の点の速度・加速度を求めることができる
	7 近似式	近似式の意味が理解できる	1次の近似式を作ることができる	1次の近似式を用いて近似値を求めることができる	微小変化の応用問題を解くことができる	
						期末考査(80分)
2 学 期 中 間 考 査	1 不定積分とその基本性質	・xの α 乗の不定積分を求めることができる。 ・三角関数・指数関数の不定積分の公式を覚えている。	関数の定数倍と和・差の不定積分の性質を理解している。	左記の性質を利用し、分数関数、三角関数、指数関数の不定積分を求めることができる。	被積分関数がやや複雑で、被積分関数に式変形が伴う積分計算ができる。	微分方程式が解ける。
	2 置換積分法と部分積分法	簡単な置換をする置換積分の計算ができる。	被積分関数が明確な積の形になっている場合に部分積分の計算ができる。	対数関数の積分を部分積分を用いて求めることができる。	置き換えをせずに置換積分を行うことができる。	被積分関数が複雑で、被積分関数に式変形が伴う場合の置換積分や部分積分を行うことができる。
	3 いろいろな関数の不定積分	分数関数において、分子の次数下げを行って積分計算することができる。	部分分数分解をしてから積分計算をすることができる。	三角関数の半角の公式や積和変換をしてから積分の計算ができる。	複雑な部分分数分解や三角関数の特殊な置換をとまなう積分計算ができる。	部分積分をして同じ形が繰り返す関数の不定積分を求めることができる。
	4 定積分とその基本性質	被積分関数が単項式(関数一種類)の定積分を求めることができる。	数Ⅱで学んだ定積分の性質を理解し、数Ⅲでも活用できることが理解できる。	定積分の性質を利用して簡単に値を求める工夫ができる。	絶対値がついた関数の定積分を求めることができる。	定積分を最大・最小にする係数を求めることができる。
	5 定積分の置換積分と部分積分	簡単な置換をする置換積分の計算ができる。	被積分関数が明確な積の形になっている場合に部分積分の計算ができる。	・三角関数で置換する置換積分ができる。 ・偶関数と奇関数の性質を利用して定積分の値を求めることができる。	部分積分をして同じ形が繰り返す関数の定積分を求めることができる。	被積分関数が複雑な形でも、置換積分や部分積分の計算をすることができる。
	6 定積分のいろいろな問題	数Ⅱで学んだ微分積分学の基本定理が数Ⅲでも活用できることを理解し、定積分を微分することができ	定積分を含む関数に対して微分積分学の基本定理を利用して関数を求めることができる。	区分求積法の考えを理解し、 Σ の極限値を定積分に置き換え、値を求めることができる。	関数を評価して、定積分と不等式の関係を利用して積分できない定積分の近似値を求めることができる。	シュワルツの不等式を利用して不等式の証明ができる。
	7 面積	数Ⅱで学んだ面積の求め方が数Ⅲでも活用できることを理解し、被積分関数が単純な場合の面積を求めることができる。	グラフの交点を求め、囲まれた部分の面積を求めることができる。	y軸とで囲まれた部分の面積を求めることができる。	2次曲線でできる部分の面積を置換積分を利用して求めることができる。	接戦と囲まれた部分の面積や媒介変数表示されえた関数の面積など、色々な面積を求めることができる。
	8 体積	断面積を利用して、体積を求めることができる。	x軸周りの回転体の体積を求めることができる。	y軸周りの回転体の体積を求めることができる。	円環体など差を考えたり和を考えたりして色々な体積を求めることができる。	直線 $y=x$ の周りに1回転してできる回転体の体積を求めることができる。
	9 道のりと曲線の長さ	速度と初期条件が与えられたときに、t秒後の位置を積分を利用して求めることができる。	動点Pの移動した道のりを速さ(速度の絶対値)を積分して求めることができる。	座標平面上を運動する点の道のりを求めることができる。また、この考え方を利用して媒介変数表示された曲線の長さを求めることができる。	陽関数表示された曲線の長さを求めることができる。	媒介変数表示された関数の導関数、グラフの概形、面積、曲線の長さを体系的に理解している。
						中間考査(80分)
10月～1月は総復習・入試問題演習を行い、その範囲から2学期期末考査、学年末考査を行う。						

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【夏の課題研究】 意欲・関心	作品を提出していない。	グラフアートを描いている。	7個以上の関数を用いてグラフアートを描いている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	総合数学演習	6	3年・環境理数コース	山田
教科書	授業時に配布するプリント等	副教材		

1. 学習の目標

1・2年次に学習した数学の定義・定理・公式等を再確認し、問題に応じてそれらを活用し、解決する力を身につける。また、入試頻出問題や過去問を繰り返し解き、入学試験に対応できる総合的な数学の力を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

授業前の予習、授業後の復習は必ず行ってください。予習を行うことによって、授業中の板書時間を短くし、自ら考える時間を多く取れるよう心掛けてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って①～③の観点ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト ・課題(ノート)等 ・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・定期考査、小テスト ・振り返りシート ・課題(ノート)等 ・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容

4. 担当者からのメッセージ

入試に対応できる力を身に着けるための学習ではありますが、それにとどまらず、「論理的な考え方ができ、筋道をたてて説明できる」社会人として必要な能力も身に着けていきましょう。そのためには、単に答えが出せたで終わることなく、考え方が正しいか、使う定理や公式が正しいか、そして計算が間違っていないかを常にチェックするようにしましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標	学習活動	自己評価
1	数と式(数学Ⅰ)	□四則演算や基本的な記号を用いた計算を行うことができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 表現 グループ学習など 中間考査(80分)	【 】 【 】 【 】 【 】
	2次関数(数学Ⅰ)	□2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。		
	図形と計量(数学Ⅰ)	□三角比を用いた定理や公式を理解し、計算を行うことができる。		
	データの分析(数学Ⅰ)	□さまざまなデータを整理し、分析を行うことができる。		
	場合の数と確率(数学A)	□さまざまな場合の数の数え方を理解できる。 □確率の性質を理解し、さまざまな確立を求めることができる。		
	図形の性質(数学A)	□図形の性質を用いた定理を理解し、線分の長さや角度などを求めることができる。		
	整数の性質(数学A)	□整数の性質を理解し、計算を行うことができる。		
	式と証明, 複素数と方程式(数学Ⅱ)	□基本的な計算や証明ができる。 □複素数の性質を理解し、計算ができる。 □剰余の定理や因数定理を利用できる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習など 期末考査(80分)	【 】 【 】 【 】 【 】
	図形と方程式(数学Ⅱ)	□図形を方程式を用いて分析することができる。		
	三角関数, 指数・対数関数(数学Ⅱ)	□三角関数の性質やグラフ、加法定理を理解し、計算を行うことができる。		
	微分法・積分法(数学Ⅱ)	□微分法を理解し、接線の方程式や関数の増減を求めることができる。 □積分法を理解し、図形の面積を求めることができる。		
	ベクトル(数学B)	□ベクトルを用いて平面図形や空間図形を分析することができる。		
	数列(数学B)	□さまざまな数列の一般項や和を求めることができる。		
2	数と式(数学Ⅰ)	□四則演算や基本的な記号を用いた計算を行うことができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 表現 グループ学習など 中間考査(80分)	【 】 【 】 【 】 【 】
	2次関数(数学Ⅰ)	□2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。		
	図形と計量(数学Ⅰ)	□三角比を用いた定理や公式を理解し、計算を行うことができる。		
	データの分析(数学Ⅰ)	□さまざまなデータを整理し、分析を行うことができる。		
	場合の数と確率(数学A)	□さまざまな場合の数の数え方を理解できる。 □確率の性質を理解し、さまざまな確立を求めることができる。		
	図形の性質(数学A)	□図形の性質を用いた定理を理解し、線分の長さや角度などを求めることができる。		
	整数の性質(数学A)	□整数の性質を理解し、計算を行うことができる。		
	式と証明, 複素数と方程式(数学Ⅱ)	□基本的な計算や証明ができる。 □複素数の性質を理解し、計算ができる。 □剰余の定理や因数定理を利用できる。	小テスト 課題(ノート)提出	【 】 【 】
	図形と方程式(数学Ⅱ)	□図形を方程式を用いて分析することができる。		
	三角関数, 指数・対数関数(数学Ⅱ)	□三角関数の性質やグラフ、加法定理を理解し、計算を行うことができる。		

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標	学習活動	自己評価
	微分法・積分法(数学Ⅱ)	□微分法を理解し、接線の方程式や関数の増減を求めることができる。 □積分法を理解し、図形の面積を求めることができる。	課題発表 表現 グループ学習など	【 】 【 】
	ベクトル(数学B)	□ベクトルを用いて平面図形や空間図形を分析することができる。	期末考査(80分)	
	数列(数学B)	□さまざまな数列の一般項や和を求めることができる。		
3	数と式(数学Ⅰ)	□四則演算や基本的な記号を用いた計算を行うことができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 表現 グループ学習など	【 】 【 】 【 】 【 】
	2次関数(数学Ⅰ)	□2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。		
	図形と計量(数学Ⅰ)	□三角比を用いた定理や公式を理解し、計算を行うことができる。		
	データの分析(数学Ⅰ)	□さまざまなデータを整理し、分析を行うことができる。		
	場合の数と確率(数学A)	□さまざまな場合の数の数え方を理解できる。 □確率の性質を理解し、さまざまな確立を求めることができる。		
	図形の性質(数学A)	□図形の性質を用いた定理を理解し、線分の長さや角度などを求めることができる。		
	整数の性質(数学A)	□整数の性質を理解し、計算を行うことができる。		
	式と証明、複素数と方程式(数学Ⅱ)	□基本的な計算や証明ができる。 □複素数の性質を理解し、計算ができる。 □剰余の定理や因数定理を利用できる。		
	図形と方程式(数学Ⅱ)	□図形を方程式を用いて分析することができる。		
	三角関数、指数・対数関数(数学Ⅱ)	□三角関数の性質やグラフ、加法定理を理解し、計算を行うことができる。		
	微分法・積分法(数学Ⅱ)	□微分法を理解し、接線の方程式や関数の増減を求めることができる。 □積分法を理解し、図形の面積を求めることができる。		
	ベクトル(数学B)	□ベクトルを用いて平面図形や空間図形を分析することができる。		
	数列(数学B)	□さまざまな数列の一般項や和を求めることができる。	学年末考査(50分)	

到達レベル	1	2	3	4	5
知識・技能	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式が分からない。	単純な問題を解くのに必要な分野の考え方や公式を知っている。	単純な問題を解くために必要な考え方や公式を適切に使うことができる。	複雑な問題を解くために必要な複数の分野の考え方や公式が分かる。	複雑な問題を解くために、複数の分野の考え方を整理して、公式等を適切に使うことができる。
思考・判断・表現	問題を解くための手順を考えられない。	問題を解くための手順を考えられる。	問題を解くための正しい手順を考えられる。	問題を解くための手順に従い、解答が導ける。	問題の解答を、手順に従い適切に表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	与えられた課題に取り組めない。	与えられた課題に一通り取り組める。	与えられた課題に繰り返し取り組み、理解しようとしている。	与えられた課題に関連する問題に自主的に取り組み、理解を深めようとしている。	多種多様な問題に自主的に取り組み、総合的な問題解決力を養おうとしている。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学特講	3	3年英語人文コース	嶋崎 華奈子
教科書	自校編集教材	副教材	なし	

1. 学習の目標

第1・2学年で学習した数学の定義・定理・公式をすべて再確認し、問題に応じてそれらを活用し、解決する力を身につける。また、入試頻出問題や過去問を繰り返し解き、入学試験に対応できるような総合的な力を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身につける。それらを忘れない努力をする。
 【復習】 授業で解説した問題の類似問題を何度も解き、同様の問題が出題された場合は必ず解けるようにする。
 【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいたから勉強するといった形にならないようにする。
 ※第3学年であることを自覚し、進路実現を目指して前向きに取り組みなさい。受験は一人では勝ち抜けません。仲間と協力し合い、勉強を励むことができる良い雰囲気をつくりなさい。【後向きな発言・行動厳禁】

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(ノート・作品等)の提出状況、課題(ノート・作品等)の内容
②数学的な見方や考え方 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題(ノート・作品等)の内容、グループ発表および個人での課題発表の内容
③数学的な技能 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

社会では、誠実でかつ真面目にコツコツと努力できる人材が求められています。上記の欄に記述したことを意識して励めば、すぐに目に見える結果は現れないかもしれませんが、必ずプラスに働きます。その努力を怠らずに続けることが進路実現につながり、最終的には社会が求める人材となることにつながるのです。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	数と式(数学Ⅰ)	四則演算や基本的な記号を用いた計算を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 表現	【 】 【 】
	集合と命題(数学Ⅰ)	集合と命題に関する考え方を理解し、それを事象の考察に活用することができる。	グループ学習など 中間検査	【 】
	2次関数(数学Ⅰ)	2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など 表現 期末検査	【 】 【 】 【 】
2	2次関数(数学Ⅰ)	2次関数を用いて、さまざまな計算を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 表現	【 】 【 】
	図形と計量(数学Ⅰ)	三角比を用いた定理や公式を理解し、計算を行うことができる。	グループ学習など 中間検査	【 】
	データの分析(数学Ⅰ)	さまざまなデータを整理し、分析を行うことができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など 表現	【 】 【 】 【 】
	場合の数と確率(数学A)	・さまざまな場合の数の数え方を理解できる。 ・確率の性質を理解し、さまざまな確率を求めることができる。	期末検査	
3	図形の性質(数学A)	図形の性質を用いた定理を理解し、線分の長さや角度などを求めることができる。	課題発表 課題(プリント・ノート)提出 グループ学習など 表現	【 】 【 】 【 】
			学年末検査	

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	北稜探究Ⅲ	1	3年 総合探究コース	中田
教科書	なし	副教材	なし	

1. 学習の目標

- ・これまでに学んだ知識や技能、論理的思考力を利用して、自ら課題を発見し、解決する力を高める。
- ・自ら見出した課題に対し、情報を集め、整理・分析して、表現することができるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査は実施せず、毎時間ごとの参加と課題提出が基本となるので、欠席せず時間内に課題を仕上げるように取り組む。スピーチや発表では、話すこと、聞くことに積極的に取り組む。グループワークでは、様々な価値観を持つ他者と交流し、意見を交流しながらまとめていくようにする。出された課題は丁寧に取り組み、必ず期限内に提出する。また、1年次に学んだ数学ⅠAの内容を活用することがあるので、不安がある場合はしっかり復習しておく。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、文章によって評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・その他成果物
②思考力・判断力・表現力 知識技能を活用して課題解決するために必要となる思考・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・その他成果物
③主体的に学習に取り組む態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・グループワークの様子 ・課題の提出状況 ・レポート、自己評価等

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと思っています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標	学習活動
1	オリエンテーション	・シラバス説明(北稜探究の目標、学習内容、評価等について) ・授業担当者自己紹介	
	・統計的な内容の学習	・1、2年次の学習内容を用いて、統計的な内容を学び、探究に利用できる基礎を養う。 ・統計的な観点から事象を観察することで、物事を異なる視点から考察することの有用性を学ぶ。	・講義 ・演習 ・グループ活動
	・自分の興味の紹介	・自分の興味のある分野や内容など、今後探究の題材にしていこうと思うものを他者と紹介しあい、視野を広げる。 ・それぞれの興味関心を客観視することで、今後の探究の方針を定めていく。	・グループ交流
2	・それぞれのテーマに沿って探究活動を進めていく。	・それぞれのテーマに沿って、情報を収集し、まとめていく。 ・互いに交流しあうことで視野を広げ、テーマに関する探究を深めてゆく。	・調べ学習 ・発表準備
	・中間発表	・それぞれのテーマについて、現在の進行度を共有する。 ・互いのテーマについて客観的な感想を述べ、互いにフィードバックをする。	・プレゼンテーション 表現
	・それぞれのテーマに沿って探究活動を進めていく。	・中間発表でのフィードバックをもとに、内容をさらに洗練していく。	・調べ学習 ・発表準備
3	・最終成果発表	・1年間の探究の成果を発表する。 ・発表のフィードバックを行う。	・プレゼンテーション 表現

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	北稜探究Ⅲ	1	3年 英語人文コース	角谷
教科書	なし	副教材	なし	

1. 学習の目標

- ・これまでに学んだ知識や技能、論理的思考力を利用して、自ら課題を発見し、解決する力を高める。
- ・自ら見出した課題に対し、情報を集め、整理・分析して、表現することができるようにする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査は実施せず、毎時間ごとの参加と課題提出が基本となるので、欠席せず時間内に課題を仕上げるように取り組む。スピーチや発表では、話すこと、聞くことに積極的に取り組む。グループワークでは、様々な価値観を持つ他者と交流し、意見を交流しながらまとめていくようにする。出された課題は丁寧に取り組み、必ず期限内に提出する。また、1年次に学んだ数学ⅠAの内容を活用することがあるので、不安がある場合はしっかり復習しておく。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、文章によって評価をします。

観点	評価のポイント
①知識・技能 習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか、習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・その他成果物
②思考力・判断力・表現力 知識技能を活用して課題解決するために必要となる思考・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・スピーチ、発表 ・その他成果物
③主体的に学習に取り組む態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・グループワークの様子 ・課題の提出状況 ・レポート、自己評価等

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと思っています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標	学習活動
1	オリエンテーション	・シラバス説明(北稜探究の目標、学習内容、評価等について) ・授業担当者自己紹介	
	・統計的な内容の学習	・1、2年次の学習内容を用いて、統計的な内容を学び、探究に利用できる基礎を養う。 ・統計的な観点から事象を観察することで、物事を異なる視点から考察することの有用性を学ぶ。	・講義 ・演習 ・グループ活動
	・自分の興味の紹介	・自分の興味のある分野や内容など、今後探究の題材にしていこうと思うものを他者と紹介しあい、視野を広げる。 ・それぞれの興味関心を客観視することで、今後の探究の方針を定めていく。	・グループ交流
2	・それぞれのテーマに沿って探究活動を進めていく。	・それぞれのテーマに沿って、情報を収集し、まとめていく。 ・互いに交流しあうことで視野を広げ、テーマに関する探究を深めてゆく。	・調べ学習 ・発表準備
	・中間発表	・それぞれのテーマについて、現在の進行度を共有する。 ・互いのテーマについて客観的な感想を述べ、互いにフィードバックをする。	・プレゼンテーション 表現
	・それぞれのテーマに沿って探究活動を進めていく。	・中間発表でのフィードバックをもとに、内容をさらに洗練していく。	・調べ学習 ・発表準備
3	・最終成果発表	・1年間の探究の成果を発表する。 ・発表のフィードバックを行う。	・プレゼンテーション 表現

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	地学基礎	2	3年総合探求コース	中路・岡和田
教科書	改訂版 地学基礎（啓林館）	副教材	地学基礎の基本マスター（啓林館）	

1. 学習の目標

地球や宇宙の空間的・時間的スケールを正しく認識できるようになること。自然界で成り立っている法則性があることを理解できるようになる。科学的な手法が自然界を理解する際に有効であることを知り、探求の手段を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考查対策等について）

授業では自分なりのノートを作成し、内容の理解に努めてください。ただ黒板を写すだけでは不十分です。後で見返したときに授業の内容を思い出せるように、メモを自分で書き加えてノートを作りましょう。授業終了後、ノートや教科書を使って確実な復習を心がけてください。理解できないところは積極的に質問し、理解を深めましょう。また、考查前には問題集を使って自分自身の理解を確認しましょう。問題集を1回解くだけでなく、理解できるまで何度も解き直しましょう。学力をつけるための学習は、どの教科、科目についても積極的な姿勢と好奇心が必要です。「おもしろくない」・「自分には必要ない」などと早急に判断せず何事にも興味を持って授業に参加してください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考查までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	定期考查の得点 ノート、レポートの提出 （黒板を写しただけでなく、自分なりに調べてまとめたもの配布したプリントが整理され、貼り付けられた物） 授業態度（教科書、ノートを持参し、メモをとりながらノートを作れているか）
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考查の得点 レポート（課題に対してしっかり考えて取り組んでいるか） 授業態度（授業中の課題にしっかり取り組んでいるか）
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	定期考查の得点（記述問題をしっかり解答できているか） ノート（文章が書けているか） プリント（課題に対してしっかり書けているか） 授業態度（授業中に積極的に発言できているか）
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考查の得点 レポート（授業で習った用語を用いて科学的なレポートが書けているか） 授業態度（授業の発問に対して適切に答えられているか）

4. 担当者からのメッセージ

地学は地震、火山、天気など日常と深く関わりのある分野です。興味を持って学習し、日常生活で使えるように、生きた知識を習得しましょう。また地学は様々な分野（化学、生物、物理）と深く関わりのある学問です。これまでに習ったことと関連させて学習を進めましょう。

令和5年度北校シラバス

学期	学習項目	到達目標（チェックポイント）	学習活動（観点）	自己評価
1	第1部 固体地球とその変動			
	第1章 地球			
	第1節 地球の概観	☐ 地球の形、大きさについて理解できたか		【 】
	第2節 地球の内部構造	☐ 地震波を用いて地球内部の層状構造を探る手法を理解できたか		【 】
	第2章 活動する地球			
	第1節 プレートテクトニクスと地球の活動	☐ 地球表面の構造と運動についてプレートテクトニクスを用いて説明できるか	ノート提出	【 】
	第2節 地震	☐ 地震の基本的性質について学べたか		【 】
		☐ 日本列島の地震分布と地震災害について学べたか		【 】
	第3節 火山活動と火成岩の形成	☐ 噴火のしくみと火山噴出物について説明できるか		【 】
		☐ 日本列島の火山分布とその原因と災害について理解できたか	期末考査	【 】
2		☐ 代表的な火成岩の名称と特徴を説明できるか	ノート提出	【 】
	変成岩とその形成	☐ 代表的な変成岩の名称を覚え、そのでき方を理解できたか		【 】
	第2部 移り変わる地球			
	第1章 地球史の読み方			
	第1節 堆積岩とその形成	☐ 地表面での様々なはたらきについて説明できるか		【 】
		☐ 堆積物の種類と堆積作用・堆積岩について学べたか		【 】
	第2節 地層と地質構造	☐ 地層累重の法則・堆積構造・地層の対比などにより地球の歴史を編む方法を理解できたか		【 】
	第3節 地球の歴史の区分と化石	☐ 地球の歴史と生命の進化を関連付けて理解できたか	環境	【 】
	第2章 地球と生命の進化			
	第1節 先カンブリア時代	☐ 先カンブリア時代の歴史について主なできごとを把握できたか		【 】
		☐ 顕生代の歴史について主なできごとを把握できたか		【 】
	第2節 顕生代			
	第3部 大気と海洋			
	第1章 大気の構造			
	第1節 大気圏	☐ 大気の層構造とその特徴を理解できたか		【 】
		☐ 空気の性質と気象現象（雲）について説明できるか	中間考査 ノート提出	【 】
	第2節 水と気象			
	第2章 太陽放射と大気・海水の運動			
	第1節 地球のエネルギー収支	☐ 地球のエネルギーバランスについて理解し、簡単なエネルギー収支の計算ができるか		【 】
		☐ 地球の規模の大気の運動について理解できたか		【 】
	第2節 大気の大循環			
	第3節 海水の循環	☐ 地球の規模の海水の運動について理解できたか		【 】
	第3章 日本の天気			
	第1節 日本の位置	☐ 中緯度にある日本の特徴を理解できたか		【 】
		☐ 天気図を用いて日本の冬から春の天気の特徴を説明することができるか	環境	【 】
	第2節 冬から春の天気	☐ 天気図を用いて日本の夏から秋の天気の特徴を説明することができるか		【 】
	第3節 夏から秋の天気			
	第4部 宇宙の構成			
	第1章 太陽系と太陽			
	第1節 太陽系の天体	☐ 太陽系諸天体の階層構造を理解できたか		【 】
		☐ 太陽系のでき方について説明できるか	期末考査	【 】
	第2節 太陽系の誕生	☐ 代表的な太陽表面現象を説明できるか		【 】
	第3節 太陽	☐ 外層大気とスペクトルの関連性を理解できたか	ノート提出	【 】
3	第2章 恒星としての太陽の進化			
	第1節 太陽と恒星	☐ 恒星の明るさと色を通して恒星の天体としての特徴を理解できたか		【 】
		☐ 星の進化を説明できるか		【 】
	第2節 太陽の誕生と進化			
	第3章 銀河系と宇宙			
	第1節 銀河系とまわりの銀河	☐ 銀河系の構造、宇宙の構造について理解できたか		【 】
	第2節 宇宙の姿	☐ 膨張宇宙について理解できたか	学年末考査 ノート提出	【 】

※ なお、第5部自然との共生については第1部～第4部の内容に含めて取り扱う

令和4年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	物理/北校探究Ⅲ	5+1	3年環境理数コース	荻原幸佑
教科書	改訂 物理 (東京書籍)	副教材	リードα 物理 (数研出版)	

1. 学習の目標

物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観をもつことができたか。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

・授業に集中し、授業内容をその場その場で確実に理解する。
 ・学力は、基本の理解と演習量に比例するので、授業と自宅での学習にしっかりと取り組むようにする。
 ・受験対策としては、一冊の問題集を決め、すべての問題が確実に解けるまでやりきること。また、必ずノートを作成し、答えにいたる途中の計算式や理由を丁寧に書くようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまりごとに(定期考査までを学習のひとまとまりとして)基準に従って各学期ごとに評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント(学習活動)
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・授業プリントの記入(プリント1枚ごとに回収) 板書の記入だけでなく、自分で理解したことが記入されているか。 ・演習問題への取り組み状況(单元ごとに実施) 期限までに提出できているか。 ・実験レポートの提出 実験のデータの記入・分析がしっかりされているか。
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト 答えだけでなく考え方の過程や計算がきちんと書けているか。 ・実験レポートの内容 結果に対する考察がしっかりと記入されているか。 必要な情報を自分で調べているか。
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・実験の技能・表現 実験手順をよく理解し、器具や装置を正しく操作できているか。 実験データを表やグラフで適切に表現できているか。 ・演習問題や定期考査を解答する際、計算過程や理由の説明が読み手に分かるように丁寧に記述されているか。
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト、レポート 学習した内容を理解し、知識が定着しているか。

4. 担当者からのメッセージ

2年時の物理基礎で学んだ「力学」「熱と仕事」の内容をさらに発展させるとともに、新たに「光」「電磁気」「原子・分子」などの分野も学習します。北校探究Ⅲの授業とあわせて合計6単位の授業を行うので、授業時間数が昨年度の3倍になり、授業プリントは1年間で78枚程度になります。授業内容をその場でしっかりと理解するとともに、家庭での演習を必ず行ってください。また、考査に向けての演習は2週間前から始められるよう、他の教科・科目とともに学習計画をしっかりと立てることが重要です。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
1	第1部 様々な運動 第1章 物体の運動とつり合い 第1節 平面内の運動 第2節 放物運動 第3節 剛体のつり合い 第2章 運動量と力積 第1節 運動量の保存 第2節 反発係数 第3章 円運動と単振動 第1節 円運動 第2節 慣性力と遠心力 第3節 単振動 第4章 万有引力 第1節 万有引力	- 平面内の運動をベクトルを用いて表すことができる。 - 放物運動が、等速度運動と落下運動の組み合わせであることを理解し、物体の運動を予測できる。 - 回転作用の大きさを表すモーメントの考え方を用いて、重心を求めたり、大きさのある物体のつりあいについて考察することができる。 - 仕事エネルギーを変化させるように、力積が運動量を変化させることについて理解し、力と運動の関係が記述できる。 - 反発係数が衝突前後の速さの比であることを理解し、2物体の衝突後の速度を求めることができる。 - 等速円運動には向心力がはたらき加速度が生じることを理解できる。様々な向心力がはたらく場合に運動方程式がかける。 - 慣性力が「見かけの力」と呼ばれている意味を理解し、慣性力を導入して非慣性系における運動を解くことができる。 - 単振動が等速円運動の投影であることを理解し、加速度、速度、変位、復元力の関係が記述できる。 - コペルニクスからニュートンに至るまでの宇宙観の発展について理解している。ケプラーの法則、万有引力の法則を用いて天体の運動が記述できる。	レポート・課題提出 小テスト 実験・レポート提出 表現 表現 表現 <中間考査>	
	第5章 気体分子の運動 第1節 気体の状態方程式 第2節 気体分子の熱運動 第3節 熱力学第1法則 第4節 気体の状態変化と熱・仕事 第2部 波動 第1章 波の性質 第1節 波の伝わり方 第2章 音の性質 第2節 ドップラー効果 第3章 光の性質 第1節 光の進み方	- ボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式を導き、様々な気体の状態変化に適用できる。 - 気体分子の衝突というミクロな運動が圧力というマクロな世界につながっていることを理解し、乱雑な分子の運動を統計力学で数学的に扱うことができる。 - 熱を含めたエネルギー保存の法則である熱力学保存の法則を様々な気体の状態変化に活用できる。 2種類のモル比熱の違いを理解し、様々な条件で気体に熱を加えた際の温度変化を計算できる。 - ある点での媒質の振動が離れた点に遅れて伝わるという波の基本的な性質を用いて、正弦波の方程式をさまざまな条件の下で記述できる。 - 気柱の共鳴をこれまでの定常波の理論を用いて扱うことができる。 - 音源と観測者の動きによって聞こえる振動数がどのように変化するかをイメージすることができ、波の基本式を用いて様々な問題を解くことができる。 - 光速度の測定法を理解し、真空中の光速度の概数を知る。媒質中の光速度が波長により異なることを理解する。	レポート・課題提出 小テスト 実験・レポート提出 環境 <期末考査>	
2	第2節 光の性質 第3節 レンズと球面鏡 第4節 光の回折と干渉	- 光の反射・屈折・分散・散乱という現象が身の回りで日常的に観測されることを知り、各現象を物理的に説明ができる。 - 作図やレンズの式を用いて物体の位置から像ができる位置を求めることができる。虚像と実像の違いが理解できる。 - ヤングの干渉実験、回折格子、薄膜による干渉の理論を身につけ、様々な場合に応用できる。	レポート・課題提出 小テスト 実験・レポート提出	

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
	第3部 電気と磁気 第1章 電場と電位 第1節 静電気 第2節 電場 第3節 電位 第4節 コンデンサー 第2章 電流 第1節 電流 第2節 直流回路 第3節 半導体	・電気には正と負があり、それらは主に電子の移動によることが理解できる。静電気に関するクーロンの法則が活用できる。静電誘導と誘電分極の違いを説明できる。 ・電場とは単位正電荷が受ける力であることを理解し、点電荷のまわりの電場の公式を導くことができる。電気力線の概念が分かり、その本数を定義することにより点電荷以外の電場が求められることを理解する。 ・電位とは単位正電荷を持ち運ぶ仕事であることを理解し、点電荷のまわりの電位の公式を導くことができる。 ・金属中では電流は自由電子の流れであることを理解し、オームの法則における電気抵抗の意味について説明できる。 ・複雑な回路に、オームの法則を拡張したキルヒホッフの法則が適用できる。回路の各点における電位を求めることができ、電流の流れがイメージできる。 ・半導体にはn型とp型があり、これらを組み合わせたダイオードが整流作用をもち様々な電気回路に応用されていることを理解する。	表現 環境 <中間考査>	
	第3章 電流と磁場 第1節 磁気力と磁場 第2節 電流がつくる磁場 第3節 電流が磁場から受ける力 第4節 ローレンツ力 第4章 電磁誘導と電磁波 第1節 電磁誘導の法則 第2節 磁場中を運動する導体の棒 第3節 自己誘導と相互誘導	・磁場とは、単位磁気量が受ける力であることを理解する。磁場と電場の共通点や違いについて整理できる。 ・電子のスピン運動が磁場の元になっていることを理解する。直線電流がつくる磁場の向きは右ネジの法則に従うことを理解する。電流がつくる磁場の公式を用いて、直線電流、円電流、ソレノイドのつくる磁場が計算できる。 ・磁場と電流との相互作用により、電流が磁場から力を受けることを理解する。フレミングの左手の法則から、電流、磁場、力の向きを正確に求められる。電流が磁場から受ける力の大きさを求めることができる。 ・荷電粒子が磁場から受ける力をローレンツ力といい、これの大きさや向きを前節の知識から求めることができる。磁場中での荷電粒子の運動が等速円運動であり、周期は粒子の速さによらないことを理解する。 ・電流が磁場を発生させのとは逆に、磁場が電流を生じさせる電磁誘導の現象について学び、日常使用している電気は電磁誘導による発電であることを理解する。電磁誘導による起電力は、コイルを貫く磁束の単位時間当たりの変化であることを理解し、公式を活用できる。 ・誘導起電力は、導体棒が磁束を切って移動する場合にも生じることを学び、ファラデーの電磁誘導の法則から起電力の大きさを求める公式を導くことができる。また、導線に生じる起電力の向きが、フレミングの右手の法則から求められる。 ・コイルに生じる誘導起電力は流れる電流の時間当たりの変化に比例することから公式を導き、様々な場合に応用できる。自己インダクタンス、相互インダクタンスの意味が分かる。	レポート・課題提出 小テスト 実験・レポート提出 表現 環境	

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価	
	第4節 交流	・発電は交流が発生させやすく、変圧もしやすいというメリットについて理解できる。交流の電圧、電流、消費電力について、瞬時値、最大値、実効値の意味が分かり、それぞれを式とグラフで表すことができる。コイルやコンデンサーの場合、電圧と電流との間に位相差が生じることが理解できる。RLC回路のインピーダンスが計算できる。	環境		
	第5節 電気振動と電磁波	・コンデンサーとコイルで電気振動が生じ、容量と自己インダクタンスの組み合わせで振動の固有振動数が決まることが理解できる。これが受信機と同調回路に応用されていることが理解できる。電磁波の種類とそれぞれの特徴について説明できる。			
	第4部 原子・分子の世界 第1章 電子と光	・電子の電荷や質量などの性質が様々な実験を通じて明らかになる過程について理解できる。 ・光電効果の実験の分析から、光に粒子性があることを提唱したアインシュタインの光量子説について理解し、新しい量子力学へのきっかけとなったことを知る。 ・波長が短い電磁波であるX線の性質を説明することができる。X線が波動性のみならず粒子性をもつことを理解する。 ・ミクロな粒子は粒子と波動の2重性をもつことを知り、電子線による結晶解析や電子顕微鏡などへの応用について理解できる。	環境		
	第1節 電子の電荷と質量 第2節 光の粒子性				
	第3節 X線				
	第4節 粒子の波動性				
	第2章 原子・原子核・素粒子	・現在の原子モデルができるまでの様々な研究の過程を理解し、科学は完成されたものではなく試行錯誤の連続で発展してきたことを理解する。水素原子の構造を知る上で、電子の波動性の考えが重要であり、これにより電子のエネルギーがとびとびになることがうまく説明できることを知る。水素原子が発する光と電子のエネルギー値（エネルギー準位）との関係が分かり、放出される光の波長を計算できる。 ・現在の放射線と原子核ができるまでの様々な研究の過程を理解し、科学は完成されたものではなく試行錯誤の連続で発展してきたことを理解する。水素原子の構造を知る上で、電子の波動性の考えが重要であり、電子エネルギーがとびとびになることが理解できる。水素原子が発する光と電子のエネルギー値（エネルギー準位）との関係が分かり、放出される光の波長を計算できる。 ・放射線は不安定な原子核が安定になろうとする過程で放出されることを理解する。その過程はα崩壊、β崩壊、γ崩壊の3種類あり、それぞれ放出される放射線の正体と、透過性や電離作用などの性質について説明できる。放射性原子の半減期について理解し、年代測定などの計算ができる。原子核エネルギーが核反応における質量減少から生まれることを理解し、質量とエネルギーの等価性を表すアインシュタインのE=MC ² の公式を活用して、様々な核反応でのエネルギー値を計算できる。	国際		
	第1節 原子モデル				環境
	第2節 放射線と原子核				
	第3節 原子核反応と核エネルギー	環境			
3	第4節 素粒子と宇宙	・物質は何からできているかというミクロな素粒子を追究することが、広大な宇宙の進化と密接に関わっていることを知り、物理学の発展の可能性について考えを広げることができる。 ・これまでの物理の学習をベースに、現代の最先端の研究や今後発展が期待される分野について自らテーマを設定して、レポートを作成することができる。 ・大学入試センタ試験や各大学の個別試験に対応できる学力と、進路を切り開く忍耐力を身につける。	<期末考査>		
	課題研究、レポート作成	表現			
	演習問題	<学年末考査>			

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	生物／北稜エッセイⅢ	5＋1	3年環境理数	濱名
教科書	数研出版 生物	副教材	フォトサイエンス生物図録・リードα 生物基礎＋生物	

1. 学習の目標

生物基礎で学習した内容をふまえて、生物や生命現象にさらに関心を高め、理解を深める。生物学上の概念や原理・法則を深く理解し、自分自身や周囲の自然環境、日常生活で起こる現象を科学的に観察・考察できるように学ぶ。また、実習や演習の時間を通して生命現象を身近に体験し、それを他に伝えられる能力を高めていく。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

日常の授業を大切にし、時間内に基本的な事項が確実に理解できるよう、板書だけでなく、教科担当者の説明をよく聴いて必要であればその時感じた疑問点などもメモする習慣をつけよう。重要な単語はその単独の意味を丸暗記するのではなく、周辺の概念との関連をよく理解すること。理科は1回1回の授業内容がすべて関連している。欠席するとその後の単元が理解できなくなることがあるので、必ず自分でフォローしておこう。

観点	評価のポイント(学習活動)
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度が良好か。 欠課後のフォロー（手続・ノートの書き写し、配布されたプリントの受け取り等）がしっかりできているか。 ノート・課題・レポート等が期限内に提出されているか。 内容は充分か。
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査・小テストの成績。 レポートの内容、特に考察の記述が科学的に適切であるか。
③技能（表現） 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	観察や実験の適切な手順や方法が実行できているか。 実験のデータが適切にまとめられているか。
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、レポートの成績及びその内容。

4. 担当者からのメッセージ

「生命」とは何か？この大きなテーマに挑みます。文系・理系にかかわらず決して特殊なテーマではありません。将来どのような分野に進もうとも、命の問題は一人一人必ず関わらざるを得ないものです。興味と関心を持って授業に臨んでください。広大な未知の世界への扉を開けることにつながると思います。

生 物 / エッセイⅢ年 間 学 習 計 画 (GAC理系5+1単位)

学期	学習項目	到達目標(チェックポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	第1編 生命現象と物質 第1節 生体の構成-個体・細胞・分子	☐ 元素→物質→細胞小器官→細胞という構造上の階層性をもって生物を理解できている。 ☐ 細胞を構成する物質の種類と含有率、はたらきが理解できている。 ☐ 生命にとっての水はどのような意味があるか理解できている。	小テスト (④) ノート提出 (①)	【 】 【 】 【 】
	第2節 タンパク質の構造と性質	☐ アミノ酸どうしのペプチド結合からタンパク質分子の高次構造までの関係性を理解している。 ☐ タンパク質について基本的な構造と性質を理解している。 ☐ タンパク質分子の立体構造が、アミノ酸配列にもとづくものであること、タンパク質の機能にかかわることを説明できるか。		【 】 【 】 【 】
	第3節 酵素のはたらき	☐ 酵素の機能がタンパク質の分子の特徴にもとづくものであることを理解できている。 ☐ 酵素の特性、機能の調節機構について理解できている。 ☐ タンパク質分子の立体構造にもとづいて、酵素の機能や特性を説明できるか。 ☐ 基質特異性、競争的・非競争的阻害、失活、アロステリック効果について理解できている。 ☐ 酵素作用における環境条件の影響について理解している。	実験：カタラーゼ (①③) (レポート)	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
	第4節 細胞の構造	☐ 原核細胞と真核細胞の違い、真核細胞における細胞小器官のはたらきの関連性を理解している。 ☐ 細胞小器官など、細胞の内部構造とそのはたらきについて説明できる。 ☐ 生体膜、細胞骨格についてその構造や機能を理解できている。		【 】 【 】 【 】
	第5節 物質輸送とタンパク質	☐ 細胞活動においてさまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解している。 ☐ 細胞ではたらく酵素以外の重要なタンパク質の特徴とはたらきを理解している。		【 】 【 】

第6節 情報伝達・認識とタンパク質	☐ 細胞間の情報伝達・認識にかかわる細胞の機能とそこではたらくタンパク質の特徴を説明できる。 ☐ 細胞間の情報伝達・認識にかかわるタンパク質の特異性と生体における重要な機能について説明できる。 ☐ 細胞どうしの情報伝達についてそのしくみと情報伝達物質や受容体などのタンパク質のはたらきを理解している。		【 】 【 】 【 】
第2章 代謝 第1節 代謝とエネルギー	☐ 代謝の過程には同化と異化があること、それぞれの意味をエネルギー面と物質の変化の面から説明できる。 ☐ 生命活動の中でATPがどのような役割を担っているのかを理解している。	中間考查 (②③④) ノート提出 (①)	【 】 【 】
第2節 呼吸と発酵	☐ 発酵と酸素呼吸のATP生産方法の違いについて理解している。 ☐ 発酵と酸素呼吸の代謝経路図・化学反応式を理解している。 ☐ ミトコンドリア膜にあるタンパク質がどのような役割を担っているか理解している。		【 】 【 】 【 】
第3節 光合成	☐ 葉緑体の構造とはたらきを図解説明できる。 ☐ 光合成でATPが生産されるしくみ、二酸化炭素から有機物が合成されるしくみが理解できている。 ☐ 葉緑体で行われている光化学反応と、二酸化炭素を固定する化学反応との結びつきが理解できている。(代謝経路図) ☐ 細菌の光合成や、化学合成のしくみを理解している。	観察&実験： 植物の光合成 色素の分離 (①③) (レポート)	【 】 【 】 【 】 【 】
第4節 窒素同化	☐ 窒素同化の目的、炭素同化との違いを説明できる。 ☐ 窒素同化で有機窒素化合物がつくられるしくみや、窒素固定のしくみを理解している。 ☐ 窒素固定細菌などが行う窒素固定と、植物が行う窒素同化の違い、その関連について理解している。 ☐ 根粒菌とマメ科植物の共生関係を説明できる。		【 】 【 】 【 】 【 】

	第3章 遺伝現象の発現 第1節 DNAの構造と複製	☐ DNAの基本的な構造を図示、説明できる。 ☐ DNAの複製のしくみについて、仮説を立て検証するという過程を通して科学的に思考し、表現できる。 ☐ DNAの構造やDNAの複製のしくみと関連づけて、DNA合成酵素のはたらく方向（リーディング鎖とラギング鎖の意味）や岡崎フラグメントの意味を説明できる。	（実習：DNAモデル作成） （③） 思考学習 「DNAの複製方法を証明した実験」（②）	【 】 【 】 【 】
	第2節 遺伝情報の発現	☐ 遺伝子発現のしくみを理解し、セントラルドグマの過程を説明できる。 ☐ 遺伝情報の変化パターンとゲノムの多様性について理解している。	思考学習（②） 「遺伝暗号の解読」 観察＆実験 「ヒトのインスリン遺伝子に関する作業学習」（②③）	【 】 【 】
	第3節 遺伝子の発現調節	☐ 遺伝子発現の調節により異なった構造と機能をもつ細胞へと分化することが理解できている。 ☐ 遺伝子発現が転写レベルで調節されていること、およびそのしくみと意義を理解している。 ☐ 原核生物のオペロン説についてその過程を説明できる。 ☐ 原核生物と真核生物の調節機構について理解している。	巻末付録 考えてみよう！ 「オペロン説の根拠となった実験」（②）	【 】 【 】 【 】 【 】
	第4節 バイオテクノロジー	☐ 遺伝子レベルでのバイオテクノロジーの原理を知り、その利用方法を考察することができる。 ☐ 遺伝子組換えの方法、遺伝子導入のしかた、PCR法、塩基配列の解析など、バイオテクノロジーの実際とその利用について理解している。 ☐ 遺伝子組換えや遺伝子導入ができたことを確認する方法を考察させる。 ☐ バイオテクノロジーの利用と将来について自分なりの意見を発表できる。	期末考査（②③④） ノート提出（①）	【 】 【 】 【 】 【 】
	2 第2編 生殖と発生 第4章 生殖と発生 第1節 遺伝子と染色体	☐ DNAが染色体にどのように収まっているのか、また、染色体の構成や、染色体と遺伝子の関係について理解している。 ☐ DNAと染色体、染色体と遺伝子座との関連について理解している。 ☐ 生物の染色体構成を相同染色体・常染色体・性染色体の観点から表現し説明できる。		【 】 【 】 【 】

第2節 減数分裂と遺伝情報の分配	☐ 有性生殖で個体の染色体数が一定に保たれるしくみについて説明できる。 ☐ 減数分裂の過程とその特徴を染色体の動きを軸に説明できる。 ☐ 配偶子に分配される染色体の組み合わせが、理論上何通りになるか示すことができる。 ☐ キアズマや染色体の乗換えについて理解している。	観察 & 実験 「減数分裂の観察」	【 】 【 】 【 】 【 】
第3節 遺伝子の多様な組み合わせ	☐ 配偶子の形成や受精により、遺伝子の多様な組み合わせができるしくみを理解する。 ☐ 中学校で学んだメンデルの遺伝法則を理解している。 ☐ 二遺伝子雑種の交雑実験からメンデルの法則が成り立つ場合と成り立たない場合があることを理解し、双方の次世代に現れる形質の分離比を数値的に導き出せる。	思考学習 「スイートピーの花色と花粉の形の遺伝」 観察 & 実験 「染色体の乗換えと配偶子の組み合わせ」	【 】 【 】 【 】
第4節 動物の配偶子形成と受精	☐ 動物の配偶子が形成され、受精に至るまでの過程について理解している。 ☐ 動物の精子と卵の特徴の違いを理解するとともに、受精の過程を説明できる。		【 】 【 】
第5節 初期発生の過程	☐ 卵の種類と卵割の形式について理解している、 ☐ 卵割の特徴、ウニやカエルの発生過程を説明できる。 ☐ 三胚葉から分化する器官を説明できる。	観察 & 実験 「ウニの受精の観察」	【 】 【 】 【 】
第6節 細胞の分化と形態形成	☐ 原腸の陥入に伴う細胞の動きを理解している。 ☐ 細胞の分化と形態形成のしくみについて、細胞間の相互作用に注目して理解している。 ☐ 誘導の連鎖によって形態形成がなされるしくみが理解できてる。 ☐ 中胚葉誘導や神経誘導のしくみなどについて説明できる。 ☐ 形態形成を調節するホメオティック遺伝子について理解している。		【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
第7節 植物の配偶子形成と発生	☐ 被子植物の配偶子形成から重複受精までの一連の過程を理解している。 ☐ 器官分化にかかわる遺伝子（ABC理論）について説明できる。	思考学習「花粉管の誘引」	【 】 【 】

第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第1節 ニューロンとその興奮	☐ 動物が刺激を受けてから反応を起こすまでの情報伝達経路を理解している。 ☐ ニューロンの構造、興奮の伝導と伝達のしくみ、さらに、神経伝達物質のはたらきについて理解している。 ☐ 刺激に関するデータから伝導・伝達速度が計算できる。 ☐ 刺激の位置やパターンによるオシロスコープの波形が予想できる。	思考学習 「神経筋標本による実験」 中間考査（②③④） ノート提出（①）	【 】 【 】 【 】 【 】
第2節 刺激の受容	☐ 適刺激と受容器の関係について理解している。 ☐ 眼の構造と刺激の受容機構、興奮の起こり方を説明できる。 ☐ 遠近調節や明暗調節に働く機構を理解している。 ☐ 耳の構造と聴覚・平衡覚・回転覚の成立を説明できる。 ☐ 眼・耳以外の受容器について理解している。	思考学習 「ヒトの視覚経路と視交さ」 観察&実験「盲斑の検出」 小テスト（④）	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
第3節 情報の統合	☐ ヒトの脳や脊髄の構造、はたらきについて理解している。 ☐ ヒトの神経系について、分類とそのはたらきが理解できている。 ☐ 反射のしくみとはたらきについて説明できる。		【 】 【 】 【 】
第4節 刺激への反応	☐ 筋肉の種類とその構造、特徴を理解している。 ☐ 筋肉の構造と筋収縮のしくみを理解している。 ☐ 筋収縮におけるカルシウムイオンやエネルギーの供給について理解している。 ☐ 筋肉以外の効果器についてその種類や働きを理解している。		【 】 【 】 【 】 【 】
第5節 動物の行動	☐ 生得的行動と学習による行動の違いを理解している。 ☐ それぞれの行動の特徴やしくみ、神経系と行動の関係について説明できる。 ☐ 生得的行動と学習による行動を、そのしくみとともに具体的な動物の行動を例として理解している。	観察&実験 「ヒトの試行錯誤学習」	【 】 【 】 【 】
第6章 植物の環境応答 第1節 植物の生活と環境応答	☐ 植物の環境応答が、植物の生き残り戦略であることを理解している。 ☐ 植物が環境からの刺激を受容し、細胞間でその情報を伝達して反応していることを理解している。 ☐ 環境の変化に対する植物の反応について、屈性と傾性の違いを理解している。 ☐ 植物の反応は環境の変化を感知して情報伝達が行なわれて起こることを理解している。		【 】 【 】 【 】 【 】

	第2節 発芽の調節	☐ 休眠、発芽のしくみを、関与する植物ホルモンや光受容体のはたらきをふまえて説明できる。 ☐ 休眠、発芽と環境要因を植物の生存戦略と関連づけて理解している。 ☐ 休眠、発芽現象を引き起こすしくみについて理解している。		【 】 【 】 【 】
	第3節 成長の調節	☐ 屈性が不均一に起こる成長運動であることを理解している。 ☐ オーキシン以外の植物ホルモンの種類と生理作用を理解している。 ☐ 植物の成長は、オーキシンやそれ以外の様々な植物ホルモンのはたらきによって調節されていることを理解している。 ☐ オーキシンの移動や各部位の感受性の違いなどを理解している。		【 】 【 】 【 】 【 】
	第4節 環境の変化に対する応答	☐ 植物にとっての環境ストレスとそれに対する応答について説明できる。 ☐ 環境に応じて気孔が開閉することやそのしくみを、関係する物質のはたらきをふまえて理解している。 ☐ 食害や急激な温度変化に対する植物の防御応答のしくみについて関与する物質のはたらきをふまえて理解している。		【 】 【 】 【 】
	第5節 花芽形成・結実の調節	☐ 花芽形成と環境要因を植物の生存戦略と関連づけて理解している。 ☐ 花芽形成を引き起こすしくみについて、関与する物質や光受容体のはたらきをふまえて理解している。 ☐ 果実の成熟と落葉について関与する物質のはたらきをふまえて理解する。	期末考查 (②③④) ノート提出 (①)	【 】 【 】 【 】
3	第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 第1節 個体群	☐ 生物が群れをつくる利点について理解している。 ☐ 個体群の成長について、理論値と実際の自然界の違いを説明できる。 ☐ 個体群とその成長、特に成長曲線の形状や個体群密度の求め方、密度効果、生存曲線のタイプなどを具体的な生物例とともに理解している。 ☐ 自然界における個体群密度の具体的な測定方法について理解している。 ☐ 個体群の成長曲線の特徴と密度効果の関係を理解している。	思考学習「標識再捕法」	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
	第2節 個体群内の個体間の関係	☐ 個体群内の個体間の関係について縄張り・順位・リーダー制・社会性の特徴と生物例を理解している。 ☐ 群れることによる利益、縄張りの意義と大きさの決まり方が説明できる。	思考学習「アユの縄張り」	【 】 【 】

第3節 異種個体群間の関係	☐ 異種個体群間の関係について 種間競争、共存、被食者-捕食者 相互関係、共生などについて具体例と あわせて理解 している。 ☐ 個体数の変動に関する他の個体群 の影響について説明できる。		【 】 【 】
第4節 生物群集	☐ 「生態系」とは基本的にどのような ことを意味するか理解している。 ☐ 生物群集が複数の個体群からなる ことを理解している。 ☐ 食物連鎖が単純な鎖状ではなく 複雑な網目状になっていること、 季節や生育段階によっても変化 することを理解している。 ☐ 生物群集における多様な種が 共存するしくみについて、捕食者 の存在や生態的地位、かく乱を 通して理解している。		【 】 【 】 【 】 【 】
第5節 生態系における物質生産	☐ 物質生産に関する基本用語と それぞれの意味を理解している。 ☐ 生態系における物質生産と エネルギー効率について理解している。 ☐ 各栄養段階のエネルギーピラミッド について理解し、どのように受け 渡されているかを説明できる。 ☐ 草本植物群集の生産構造図に ついてその群集の構造の特徴を 説明できる。	思考学習 「エネルギー効率の計算」	【 】 【 】 【 】 【 】
第6節 生態系と生物多様性	☐ 生物多様性と生物多様性を低下 させる要因について理解している。 ☐ 生物多様性の保全の重要性に ついて説明できる。 ☐ 絶滅のおそれのある生物の食性や 繁殖方法、おもな減少の要因に ついて、文献や図鑑、インターネット などを用いて知識を持っている。		【 】 【 】 【 】
第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化 第1節 生命の起源と初期の生物の変遷	☐ 原始地球の状態を様々な仮説と ともに理解している。 ☐ 単純な物質から生体物質がつくられ、 それが生命体に発展していく過程を 理解している。 ☐ 無生物の状態から生命誕生までの 過程で、何が重要であったかを 説明できる ☐ 細胞様構造が誕生して、先カンブ リア時代までの初期の生物がどの ような特徴をもち、どのように進化 していったかを系統的に理解して いる。		【 】 【 】 【 】 【 】
第2節 多細胞生物の変遷	☐ 各地質時代の区分や各生物の 出現や絶滅の時期を理解している。 ☐ 進化の証拠となる化石について 各地質時代の特徴を説明できる。 ☐ 古生代から現在までの生物の変遷 について、生物が環境を変化させ、 その変化が生物の変化を促す 過程を理解している。		【 】 【 】 【 】

第3節 進化のしくみ	☐ 進化の各要素について、その特徴や具体例を理解している ☐ 進化説の歴史と、それぞれの考えを説明できる。 ☐ 突然変異・自然選択・遺伝的浮動・隔離など現在の進化説を構成する各要素について、それらの要素が進化や種分化にどのようにかかわっているか理解している。	観察 & 実験 「遺伝的浮動による遺伝子頻度の変化」 思考学習 「ペルオキシダーゼの遺伝子頻度」	【 】 【 】 【 】
第9章 生物の系統 第1節 生物の系統	☐ 種概念、学名の意義、系統分類の方法・歴史などについて理解している。 ☐ 多種多様な種はそれぞれ共通の祖先から派生して進化したものであり、種間の共通した特徴にもとづいて系統樹を構築できることを理解し、説明できる。	思考学習 「分子系統樹の作成」	【 】 【 】
第2節 生物の多様性	☐ 生物は細菌、古細菌、真核生物の3つのドメインに大別され、それぞれのドメインの特徴を理解できる。 ☐ それぞれのドメインの生物はその特徴によってさらに細かい分類群に分けられることを理解している。 ☐ 五界分類を基本とした各分類群の特徴を理解している。	 学年末考查 (②③④) ノート提出 (①)	【 】 【 】 【 】

ノート提出ルーブリック

	A	B	C	D
ノート提出	期限内に提出。全ての内容が的確に記録されている。あわせてそれ以外の授業メモも取れている。	期限内に提出。全ての内容が記録されている。	期限内には提出。所々空白部分が見られる。	期限内に提出できず。内容も不十分である。

実験・観察ルーブリック①(技能)

	A	B	C	D
実験観察における評価(技能)	実験器具等の使用目的を理解し、実験操作を、精密に行うことができる。	おおむね実験操作を適切に行うことができる。	おおむね適切に行うことができるが、一部誤った手順が見られる。	適切な実験操作をおこなう事ができない。

実験観察ルーブリック②(思考・判断・表現)

	A	B	C	D
実験・観察における評価(思考・判断・表現)	実験データを基に考察し、自分の考えをまとめ、妥当な言葉で表現できる。	おおむね実験データから自分の考えをまとめられる。	実験データを整理することができるが、自分の考えを表現できない。	実験データを整理することができない。

実験・観察ルーブリック③(関心・意欲・態度)

	A	B	C	D
実験・観察における評価(関心・意欲・態度)	実験の内容をよく理解し、結果を予測しながらデータを整理し、理論値との差違とその理由を考えることができる。	実験データと理論値の差違を指摘することができる。	考察がデータのみの記載にとどまり、その結果の判断が不足している。	データの記載も不完全であるか、明らかに他の生徒のものを転記している。

プレゼンテーションルーブリック(関心・意欲・態度)

	A	B	C	D
プレゼンテーションにおける評価(関心・意欲・態度)	発表の内容をよく理解し、わかりやすくデータを整理し、聞く側の反応を予測しながらテーマを伝えたいという熱意が感じられる。	準備した内容を要領よく発表することができる。	発表の内容は適当であるが、データのまとめ方や発表の技術が不十分で、テーマがいまいち伝わりにくい。	発表の内容自体が稚拙で、伝えようとする意欲も感じられない。

グループ学習ルーブリック(関心・意欲・態度)

	A	B	C	D
グループ学習における評価(関心・意欲・態度)	学習テーマをよく理解し、積極的にグループ内の役割分担を遂行している。簡潔に学習内容を発表することができる。	学習内容を理解し、結論を導き出すために協調して作業することができる。	学習内容は理解しているが、積極的に作業に参加する意欲に欠けている。	グループの作業に積極的に参加しない。促されるまで行動ができない。

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	生物	4	3年英語人文	濱名
教科書	数研出版	副教材	三訂版 リードLightノート	

1. 学習の目標

生物基礎で学習した内容を踏まえて、生物や生命現象について関心を高め、生物学上の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観と生命観を身に付けます。観察や実験を通して、科学的に探究する態度、自分で考察する力を育み、これからの生活に役立てます。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

教科書を読み説明を聞いて、何故そうなるのかを考え、ノートに記入していきましょう。要は授業を大切に、集中して取り組むことが1番の学習法です。週末には問題集から課題を出すので、ノートに解答し、答合わせをしておきましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業の受講態度(講義内容を聞こう、理解しようとする。質問に答えようとする。)教科書・問題集・ノート等受講に必要な準備が整っているか。ノート・課題・レポート等が提出できるか。
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	提出レポート・ノートの内容。定期考査の結果。
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	観察・実験において、機器の正しい操作ができるか。観察におけるスケッチや、実験の結果から分かったことを上手く表現できるか。
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	提出レポート・ノートの内容。定期考査の結果。

4. 担当者からのメッセージ

「生命」とは何か?この大きなテーマに挑みます。文系・理系にかかわらず決して特殊なテーマではありません。将来どのような分野に進もうとも、命の問題は一人一人必ず関わらざるを得ないものです。興味と関心を持って授業に臨んでください。広大な未知の世界への扉を開けることにつながると 생각합니다。

生物年間学習計画(3年生英語人文コース4単位)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	自己評価
1	第1章 細胞と分子		
	1. 生体を構成する物質	・細胞を構成する物質について知る。	【 】
	2. タンパク質の構造と性質	・特にタンパク質について、基本的な構造と、酵素など、その立体構造と生命活動において果たす役割との関連を理解する。	【 】
	3. 酵素の働き		
	4. 細胞の構造	・細胞小器官や細胞骨格、生体膜などの細胞の内部構造について知る。	【 】
	5. 物質輸送とタンパク質	・物質輸送や情報伝達・認識に関わるタンパク質について知る。	【 】
	6. 情報伝達・認識とタンパク質		
	第3章 遺伝情報の発現		
	1. DNAの構造と複製	・DNAの構造および複製の仕組みについて理解する。	【 】
	2. 遺伝情報の発現	・遺伝情報の転写・スプライシング・翻訳等のタンパク質合成についてその仕組みを理解する。	【 】
2	3. 遺伝情報の発現調節	・遺伝情報の転写の調節について概要を理解する。	【 】
	4. バイオテクノロジー	・バイオテクノロジーの原理と有用性について知る。	【 】
	第3章 遺伝情報の発現		
	1. DNAの構造と複製	・DNAの構造および複製の仕組みについて理解する。	【 】
	2. 遺伝情報の発現	・遺伝情報の転写・スプライシング・翻訳等のタンパク質合成についてその仕組みを理解する。	【 】
	3. 遺伝情報の発現調節	・遺伝情報の転写の調節について概要を理解する。	【 】
	4. バイオテクノロジー	・バイオテクノロジーの原理と有用性について知る。	【 】
	第4章 生殖と発生		
	1. 遺伝子と染色体	・染色体に遺伝子が存在することを知る。	【 】
	2. 減数分裂と遺伝情報の分配	・有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。	【 】
	3. 遺伝子の多様な組み合わせ		
	4. 動物の配偶子形成と受精	・動物の配偶子形成と受精の仕組みについて学習する。	【 】
	5. 初期発生の過程	・動物の初期発生の過程、および細胞の分化と器官形成について誘導現象を中心に理解する。	【 】
	6. 細胞の分化と形態形成		
	7. 植物の配偶子形成と発生	・植物の配偶子形成・受精と胚と種子の形成の過程を学習する。	【 】
	第5章 動物の反応と行動		
	1. ニューロンとその興奮	・ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とその働きを理解する。	【 】
	2. 刺激の受容	・受容器で受け取られた刺激が、神経系を介し、効果器へ至る経路を理解する。	【 】
3	3. 情報の統合	・中枢神経系の構造や働き、反射の経路を理解する。	【 】
	4. 刺激への反応	・主に筋肉の構造と収縮の仕組みを理解する。	【 】
	5. 動物の行動	・生得的行動や学習等、色々な行動について理解する。	【 】
	第6章 植物の環境応答		
	1. 植物の生活と環境応答	・植物の環境応答が、植物の生き残り戦略であることを理解している。	【 】
		・植物が環境からの刺激を受容し、細胞間でその情報を伝達して反応していることを理解している。	【 】
		・環境の変化に対する植物の反応について、屈性と傾性の違いを理解している。	【 】
		・植物の反応は環境の変化を感知して情報伝達が行なわれて起こることを理解している。	【 】

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な学習の時間	北稜探究Ⅲ	1	3年総合探究コース	中路
教科書		副教材		

1. 学習の目標

身近なテーマを探究することで、これまで教科書で学んだことや日常生活で触れる様々な現象との繋がりを認識できるようになる。
 テーマの選択・調査・観察・分析・統合・討論など研究をまとめるための基本的な方法を身につけられる。学んだ内容を分かりやすく魅力的に伝えるためのプレゼンテーションの基本的技術を身につけられる。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

- ・実施した内容をその都度記録して、内容を自分でまとめられるようにする。生じた疑問点を大切にしておさらいを調べてみたい点を常に持つ。
- ・実験や観察では、方法や目的、内容を理解し、得られた結果から何が分かるのかを整理しておくこと。
- ・グループ活動する場合は、結果からどのような結論を導くか、それをどのように発表するかなどをしっかり話し合うこと。
- ・調べ学習においては、できるだけ複数の情報源をもとにし、「信頼性」を常に意識しておく。

※他人任せにするのではなく、自分の考えを持ち、全ての活動に積極的に取り組む姿勢が重要です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	講義や実習に積極的に参加しているか。また、学習内容を適切にまとめ、感想や疑問点などが整理できているか。
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	レポートや課題について単に文献を写しただけのものではなく、自分で考えて取り組んでいるか。 授業中に、自分の考えをまとめて発表しているか。
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	内容を理解し、レポートやプレゼンテーションで、文章、図、表、画像などを用いて分かりやすく表現できているか。 小学生に興味をもってもらいやすいように分かりやすく内容や発表方法を工夫できているか。
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	講義や実習内容をしっかり理解できているか、レポートなどの提出課題で評価する。

4. 担当者からのメッセージ

この授業を通してみなさんが身近な課題や科学的な現象に関心をもつとともに、通常の授業ではできない様々な体験を通して生きた学力を身につけてくれることを願っています。

理科ルーブリック

ノート・プリント提出

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	期限内に提出。全ての内容が的確に記録されている。あわせてそれ以外の授業メモも取れている。	期限内に提出。全ての内容が記録されている。	期限内には提出。所々空白部分が見られる。	期限内に提出できず。内容が不十分である。

実験・観察

	A	B	C	D
技能	実験操作を、適切に行うだけでなく、実験器具等の使用目的を理解し正確に操作できる。	おおむね実験操作を適切に行うことができる。	おおむね適切に行うことができるが、一部誤った手順が見られる。	適切な実験操作を行う事ができない。

実験・観察

	A	B	C	D
思考・判断・表現	実験データを基に考察し、自分の考えをまとめ、言葉や図、グラフ等で的確に表現できる。	おおむね実験データから自分の考えをまとめられる。	実験データを整理することができるが、自分の考えを表現できない。	実験データを整理することができない。

実験・観察

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	実験の内容をよく理解し、結果を予測しながらデータを整理し、理論値との差違とその理由を考えることができる。	実験データと理論値の差違を指摘することができる。	考察がデータのみの記載にとどまり、その結果の判断が不足している。	データの記載も不完全であるか、明らかに他の生徒のものを転記している。

プレゼンテーション

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	発表の内容をよく理解し、わかりやすくデータを整理し、聞く側の反応を予測しながらテーマを伝えたいという熱意が感じられる。	準備した内容を要領よく発表することができる。	発表の内容は適当であるが、データのまとめ方や発表の技術が不十分で、内容が相手に十分に伝わりにくい。	発表の内容自体が稚拙で、伝えようとする意欲も感じられない。

グループ学習

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	学習テーマをよく理解し、積極的にグループ内の役割分担を遂行している。簡潔に学習内容を発表することができる。	学習内容を理解し、結論を導き出すために協調して作業することができる。	学習内容は理解しているが、積極的に作業に参加する意欲に欠けている。	学習内容は理解せず、グループの作業に積極的に参加しない。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	体育	3	3年総合探求コース	保健体育科全員
教科書		副教材		

1. 学習の目標

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	種目による授業計画案作成 (人数・回数・時間等運動している時間が確保されているか等) 種目によるレポート作成 (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等)
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等)
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	種目における授業計画案作成(競技の特性・特徴・ポイント・ルール等)

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	体づくり運動	○健康・安全を確保し、相手を尊重し大切にしようことができ、主体的に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気付くことができる。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解でき、実生活への取り入れ、実践することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	種目選択(Ⅰ期) 2単位 8種目から1種目選択 ・バレーボール・バドミントン ・バスケットボール・サッカー ・ハンドボール・テニス ・卓球 ・ソフトボール 1単位 3種目から1種目選択(11月まで) ・剣道 ・ダンス ・陸上競技	○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができる。 ○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○グループノートを有効に活用できている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができる。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
2	種目選択(Ⅱ期) 2単位 8種目から1種目選択 (Ⅰ期の種目以外から) ・バレーボール・バドミントン ・バスケットボール・サッカー ・ハンドボール・テニス ・卓球 ・ソフトボール	○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができる。 ○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○グループノートを有効に活用できている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができる。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
3	スポーツ活動	○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができる。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④)

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	スポーツⅡ	2	3年総合探求コース	手島 首藤
教科書		副教材		

1. 学習の目標

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け
②思考・判断 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	種目によるレポート作成 (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等)
③技能・表現 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等)
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	種目におけるレポート作成(競技の特性・特徴・ポイント・ルール等)

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	ゴルフ ・アイアインを中心としたスイングの基本 ・ゴルフの基本マナー	○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができる。 ○協力して準備や後片づけができています。 ○自分の課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○クラブの番手に応じた距離を打ち分けることができる。 ○ある程度狙ったところにボールコントロールすることができる。 ○ゴルフのルールやマナーを理解することができる。	
2	ゴルフ ・ドライバーなどの長いクラブの挑戦 ・自己のスイングフォームの課題	○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができる。 ○協力して準備や後片づけができています。 ○自分の課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○クラブの番手に応じた距離を打ち分けることができる。 ○ある程度狙ったところにボールコントロールすることができる。 ○ゴルフのルールやマナーを理解することができる。	
3	ゴルフ ・ドライバーなどの長いクラブの挑戦 ・自己のスイングフォームの課題	○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができる。 ○協力して準備や後片づけができています。 ○自分の課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○クラブの番手に応じた距離を打ち分けることができる。 ○ある程度狙ったところにボールコントロールすることができる。 ○ゴルフのルールやマナーを理解することができる。	

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	体育	2	3年環境理数・英語人文コース	保健体育科全員
教科書		副教材		

1. 学習の目標

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	種目による授業計画案作成 (人数・回数・時間等運動している時間が確保されているか等) 種目によるレポート作成 (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等)
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等)
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	種目における授業計画案作成(競技の特性・特徴・ポイント・ルール等)

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	1 体づくり運動	○健康・安全を確保し、相手を尊重し大切にしようことができ、主体的に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気付くことができる。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解でき、実生活への取り入れ、実践することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	種目選択 1単位 8種目から1種目選択 ・バレーボール・バドミントン ・バスケットボール・サッカー ・ハンドボール・テニス ・卓球 ・ソフトボール 1単位 3種目から1種目選択 ・剣道 ・ダンス ・陸上競技	○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができる。 ○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○グループノートを有効に活用できている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができる。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
2	2 種目選択 2単位 8種目から1種目選択 (前期の種目以外から) ・バレーボール・バドミントン ・バスケットボール・サッカー ・ハンドボール・テニス ・卓球 ・ソフトボール	○種目の特性をよく理解し、技能習得に興味関心を持ち、意欲的に進んで学習に取り組むことができる。 ○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○グループノートを有効に活用できている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができる。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
3	3 スポーツ活動	○チームにおける自分の役割を果たし、協力して準備や後片づけができる。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習の内容や方法などを選んだり見つけたりできている。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームを行うことができる。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④)

体育ルーブリック 授業

	A	B	C	D
学びに向かう力, 人間性等	運動に意欲を持って取り組み、種目の楽しさや喜びを味わい、自分で課題を見つけ改善しようとするなど授業に主体的に取り組むことができる。	種目の楽しさや喜びを味わいながら授業に取り組むことができる。	声かけがあれば各種目の練習に取り組むことができる。	各種目の練習や試合に参加することができていない。
学びに向かう力, 人間性等	仲間と協力して授業に必要な道具の準備や片付けに積極的に取り組むことができる。	促されれば授業に必要な道具の準備や片付けに取り組むことができる。	促されれば必要な道具の準備や片付けに取り組もうとするが、途中でやめてしまう。	授業に必要な道具の準備や片付けを行うことができない。
思考・判断・表現	周囲の状況を見て、何をすべきかを確に判断し、自己の役割を責任を持って果たすことができる。	自己に与えられた役割を果たすことができる。	自ら役割を果たそうとはしないが、促されれば行動することができる。	役割を与えられても取り組もうとしない。
技能	各種目の特性を理解し、体力、技術が高まり記録や技能が向上している。また、与えられた課題を高いレベルで行うことができる。	与えられた課題を一定のレベルで行うことができる。	与えられた課題を一定のレベルで行うことができるが、不十分な点がある。	体力・技術が一定のレベルに到達しておらず課題を一定のレベルでできていない。
技能	各種目の特性、必要な動作を理解し、正しいフォームが身についている。	正しいフォームが身につけているが、少し不十分な点がある。	ある一定フォームを身につけることができているが、不十分な点が見られる。	正しいフォームを身につけることができていない。
知識	各種目の発祥に関わる歴史や特性、特徴、ルールなどを理解している。	各種目のルール・必要な知識を理解している。	各種目のルールを理解しようとしているが、わかっていない部分がある。	各種目のルールを理解できていない。

体育ルーブリック レポート

思考・判断・表現	各種目の特徴・特性・技術等をわかりやすく図にまとめ、レポートに記入することができる。	各種目について一部不十分な点があるが図をレポートに記入することができる。	図をレポートにかけているが不十分な点が多い。	レポートを提出することができない。
知識	各種目の発祥に関わる歴史や特性、必要な技術を理解し、その高め方について理解し、レポートにまとめていることができる。	各種目の発祥に関わる歴史等についてレポートに書くことができる。	レポートに必要な内容を書くことができているが、空白が多い。	レポートを提出することができない。

保健ルーブリック 授業

	A	B	C	D
主体的に学習に取り組む態度	学習テーマについて理解を深める為に予習に取り組み、発言・発表を積極的におこなうことができる。	質問に対し、発言・発表を行うことができる。	発言・発表を行うことができるが、関係ないことや確に答えることができない。	授業に集中できていないことが多く、発言・発表ができない。
主体的に学習に取り組む態度	ノートをわかりやすくまとめたり、課題に対して積極的に取り組むことができる。	ノートを書き写すことができる。課題を提出することができる。	ノートを書き写すことや課題に取り組むことができるが、不十分な点が多い。	ノートを書いていない。また、課題に取り組むことができない。

保健ルーブリック グループ学習

思考・判断・表現	学習テーマをよく理解し、積極的にグループ内の役割分担を遂行している。発表の内容をよく理解し、わかりやすくデータを整理し、聞く側の反応を予測しながらテーマを伝えられている。	発表の内容が聞く側に伝わるように工夫をしている。グループ内の役割を行うことができる。	発表を行うことができているが、不十分な点やわかりにくいことがある。グループ内で与えられた役割に取り組むが不十分な点がある。	与えられた課題に対して、発表することができない。グループ内で協力をできておらず与えられた役割を果たせていない。
----------	---	--	---	---

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	音楽Ⅲ	2	3年・総合探求コース（選択）	田中
教科書	音楽Ⅲ 改訂版（教育出版）	副教材	改訂 音楽通論（教育芸術社）	

1. 学習の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考查対策等について）

音楽Ⅰ、Ⅱで学んだ基礎をもとに発展的な内容に取り組みます。課題と向き合い、あきらめずに練習を繰り返すこと。学んだ表現に工夫を加え、さらに独創的な表現を追求すること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考查までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①音楽への関心・意欲・態度 学習内容や学習活動に関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出状況
②音楽表現の創意工夫 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽表現を工夫し、どのように音楽を表すかについて思いや意図を持っているかを評価します。	課題・レポート等の内容（考察）
③音楽表現の技能 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表しているかを評価します。	実技試験での技術的な習得と応用状況
④鑑賞の能力 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら楽曲のよさや美しさを味わって聴いているかを評価します。	課題・レポート等の内容

4. 担当者からのメッセージ

今まで学んだことを生かし、独創的かつ魅力的な発表ができるよう練習しましょう。より洗練された表現を目指し、何事にも積極的に取り組みましょう。

年 間 学 習 計 画

学期	学習項目・内容の要点	学習のねらい（ポイント）	学習活動（観点）	自己評価
1	・オリエンテーション	○幅広い音楽の世界に興味・関心を持つ。		
	・声の世界	○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫している。 ○鑑賞を通して気づいたことを自分の演奏の工夫につなげる。	レポート①② 実技試験③④	【 】 【 】
	・器楽の世界 (ギターとキーボード)	○基本的な奏法を発展させ、演奏を工夫する。 ○各自、得意とする楽器演奏等について深く追求する。	実技試験③④	【 】
	・楽典 ・鑑賞	○楽曲の形式や音程、コード理論を理解する。 ○総合芸術に興味・関心を持つ。 ○物語と音楽を形づくっている要素との関わりに注目してよさや美しさを味わって聴く。	課題③ ワークシート①②④	【 】 【 】
2	・声の世界(重唱、合唱)	○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫している。 ○各パートの役割を理解して表現する。	レポート①② 実技試験③④	【 】 【 】
	・器楽アンサンブル (ギター又はキーボード)	○今までの学習を生かして効果的に表現する。 ○各自の役割を理解し、アンサンブルができる。	発表③④	【 】
	・鑑賞	○総合芸術に興味・関心を持つ。 ○作品の文化的・歴史的背景を理解し、よさや美しさを味わって聴く。	ワークシート①②④	【 】
3	・鑑賞	○音楽と社会の関わりに興味・関心を持つ。 ○作品の文化的・歴史的背景を理解し、よさや美しさを味わって聴く。	国際 ワークシート①②④	【 】

芸術（音楽Ⅲ）ルーブリック

芸術（音楽）ルーブリック

	A	B	C	D
①関心・意欲 ・態度 （レポート提出）	全ての内容が的確に記載されている。期限内に提出されている。	全ての内容が記載されている。期限内に提出されている。	所々空白部分が見られる。期限内に提出できない。	内容が不十分である。期限内に提出できない。
（受講態度等）	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に概ね取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができない。

	A	B	C	D
②音楽表現の創意工夫 （課題・レポート内容）	音楽を形づくっている要素を知覚し、どのように演奏するかについて表現意図を十分に練っている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、表現意図を持っているが不十分である。	音楽を形づくっている要素を知覚し、表現意図を持つことが難しい。

	A	B	C	D
③音楽表現の技能 （実技試験）	必要な技能を習得し、意図に応じて表現方法を工夫して表している。	必要な技能を習得し、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得に不十分なところがあるが、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得が不十分で、表現することができない。

	A	B	C	D
④鑑賞の能力 （課題・レポート内容）	作品や音楽文化などを理解し、そのよさや美しさを味わい、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や音楽文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や音楽文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができるが、内容に不十分なところがある。	内容が不十分である。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸Ⅲ	2	3年・総合コース（選択）	山脇
教科書	『工芸Ⅰ・工芸Ⅱ』（日本文教出版）		副教材	『美術資料』（秀学社）

1. 学習の目標

自己の美意識や思い、大切にしていることなどから独創的に発想したり、個性を活かして創造的な制作をすることができる。生活様式や生活意識なども考慮しながら、社会や生活環境における美的で有用な工芸について考察できる。作品の鑑賞に際して、作者の意図や表現形式など深く読み取り味わい、文章にして表現できる。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考查対策等について）

工芸Ⅱでの制作経験を踏まえて、さらによりよい表現を目指すには意識的に鑑賞の機会を増やすことが大切です。発想力や技術力の向上には良いものを見極める目を持つ必要があります。美術館や博物館に行くことはもちろん、百貨店や画廊などの企画展に行って鑑賞するのも、見る目を肥やすにはいい方法です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考查までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 題材の内容に関心を持ち、主体的に発想して制作の構想を練ったり、制作方法を理解し、すすんで創意工夫して制作しているかどうかを評価します。	制作（受講）態度、課題・レポート・アイデアスケッチ等の提出 授業への出席状況等
②発想や構想の能力 感性や想像力を働かせて自然や素材・社会的な生活や自己の思いなどから、心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて、制作の構想を練っているかどうかを評価します。	アイデアスケッチ・実物大の下図・平面表現等
③創造的な技能 課題の制作方法を理解し、意図に応じて材料や用具を活用したり、手順や技法などを吟味したりするなどし、創意工夫して制作しているかどうかを評価します。	作品表現等
④鑑賞の能力 作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、制作過程における工夫や素材の活かし方、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深めているかを評価します。	ワークシート、レポートの内容等

4. 担当者からのメッセージ

1学期から意欲的に課題に取り組んでください。工芸室でしかできないことはたくさんあります。ものづくりの経験を着実に自分の中に蓄積していきましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント）	学習活動	自己評価
1	○オリエンテーション 生活シーンを考える ・装 ・伝 ○スクリーン版画 プリントTシャツの制作 ・カッティング法 グランド原紙を使って	□さまざまな生活のシーンを想定して装いについて考えたり、公共の場におけるサインデザインについて見識を深める。 □シルクスクリーン版画の手法を用いて独創的なTシャツをつくる。 □シャープな輪郭とインクの色の均一性と平滑な定着面を考慮したデザインが考えられる。 □版の重なりと刷りの順番を計画的に考え、美しく仕上げる。	・アイデアスケッチ提出 ・カンパ（完成予定図）提出	【 】 【 】
	・写真製版法 感光乳剤を使って ・鑑賞	□カッティング法と写真製版法の違いについて知り、表現できる内容の違いを理解する。 □自分で準備した写真もしくは手書きの原稿を用いて個性的なビジュアル表現ができる。 □感光乳剤の塗布などの技能をマスターし美しく製版することができる。 □プリントに際し効果的な色彩表現ができる。 □自他の表現の違いを理解し、それぞれの良さを記述できる。	・写真原稿の準備または手書き原稿の作成 提出 表現 ・プリントTシャツ作品提出 ・鑑賞ワークシート提出	【 】 【 】 【 】
2	○編組工芸 ・制作Ⅰ天然材料（籐） 丸底かご	□天然素材と人工材料の良さを比較し、その違いを感じながら環境と工芸を学ぶ。 □用途（入れるものは何か）を考えて、それに適した大きさ・形をデザインできる。 □米字組をマスターし、作品としてよりよく表現できる。 □ラタン製品について知り、生産される地域について関心を持つ。 □天然素材の性質を知り柔軟に扱うことができる。	環境 ・アイデアスケッチ提出 国際 ・籐芯で制作した丸底かごの提出	【 】 【 】
	・制作Ⅱ人工材料（紙芯材） 角底かご ・鑑賞	□牛乳パックや古紙から再生されたリサイクル素材を使うことで、環境にやさしい取り組みについて考える。 □制作を通して人工素材の特徴を積極的に理解する。 □天然材料と人工材料について様々な面から比較検討を行い、その違いについてまとめる。 □美しく、使いやすい作品とは何かについて考えをまとめる。	・アイデアスケッチ提出 ・紙芯材で制作した角底かごの提出 ・発表用レポート原稿の提出 ・鑑賞ワークシート 表現	【 】 【 】 【 】 【 】
3	○光の立体 （LEDライトを使って） ・鑑賞 ○3年間のまとめ ・工芸史	□発光ダイオードの進化で生活環境を照らすあかりは変化し、様々な場所で活用されていることを知る。 □照明の種類やデザインに関心を持ち、構造や機能、光源と照明方法などを積極的に調べる。 □照明する場所を想定して、光による演出を考え、立体を制作する。 □光による演出を考えて、照明する場所を想定してみる。 □3年間の工芸受講について感想をまとめる。 □暮らしの中に受け継がれてきた工芸の歴史と伝統を理解する。	・スケッチとレポート提出 ・立体作品の提出 表現 ・アイデアスケッチまたは鑑賞ワークシート ・レポート提出	【 】 【 】 【 】 【 】

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸Ⅲ	2	3年・総合コース(選択)	奥村
教科書	工芸Ⅱ 日本文教出版	副教材	美術資料 秀学社	

1. 学習の目標

工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、使う材料の性質や表現技法について考え、使う人の気持ちに寄り添う表現をする努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①工芸への関心・意欲・態度 工芸の創造活動の喜びを味わい、身近な生活や社会における工芸に関心をもち、工芸の伝統と文化を尊重し、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出状況
②発想や構想の能力 感性や想像力を働かせて、身近な生活や社会的な視点から独創的に発想をし、よさや美しさなどを考え、美的で心豊かな制作の構想を練っているかを評価します。	アイデアスケッチ、課題作品の内容やレポート内容(考察)
③創造的な技能 創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、表現方法を創意工夫し、個性を生かして創造的に表しているかを評価します。	課題作品の技術的な技能の習得状況と応用状況
④鑑賞の能力 工芸作品などの表現の工夫や国際理解に果たす工芸の役割、工芸の伝統と文化などの理解を一層深め、自己の価値観や美意識を働かせて、そのよさや美しさを創造的に味わっているかを評価します。	レポート内容や発表など

4. 担当者からのメッセージ

様々な工芸に関する展覧会や展示会などに足を運んだり、日常生活のなかにあるデザインされたものについて考察したり、自分はどうのような素材で表現をし、使う人の気持ちや利便性を考えるかなど、デザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(工芸Ⅲ)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション・鑑賞	□工芸の伝統と文化、海外における表現方法の違いについて考察している。	レポート課題 環境	【 】
	・スクリーン版画(Tシャツプリント)	□身近なプリント製品をいろいろな角度から調べ、そのデザインのよさや美しさを創造的に味わっている。	レポート課題(アイデアスケッチ含)	【 】
		□シルクスクリーンの技法を理解し、制作の構想を練って制作している。	課題作品 表現	【 】
	・鑑賞	□他の生徒の作品を鑑賞し、その良さや技法の工夫等を感じ取っている。 □自分の作品の意図や工夫、苦心点などをレポートにまとめ、発表している。	レポート課題(発表)	【 】
2	編組工芸	□編組工芸の伝統と文化についての理解を深め、そのよさや美しさを味わっている。	レポート課題	【 】
		□編組の持つ性質や素材、表現の工夫について理解し、個性を生かして創造的に表している。	課題作品(アイデアスケッチ含) 表現	【 】
	・鑑賞会	□各自の作品を鑑賞しあい、その良さや工夫をレポートにまとめている。	レポート課題(発表)	【 】
		□自分の作品の意図や工夫、苦心点などを発表している。		
3	・光の立体(LEDライト)	□住空間におけるあかりのデザインについての理解を深め、そのよさや美しさを味わっている。	レポート課題(アイデアスケッチ含)	【 】
		□LEDライトの持つ性質や照明器具として扱う素材、その表現の工夫について考察し、個性を生かして創造的に制作している。	課題作品 表現	【 】
	・鑑賞・3年間のまとめ	□高校での工芸学習を振り返っての反省とまとめ及び、これからの工芸とのかかわりについて考察している。	レポート課題	【 】

芸術(工芸Ⅲ)ルーブリック				
	A	B	C	D
①関心・意欲・態度(レポート提出)	全ての内容が的確に記載されている。期限内に提出されている。	全ての内容が記載されている。期限内に提出されている。	所々空白部分が見られる。期限内に提出できず。	内容が不十分である。期限内に提出できず。
(受講態度等)	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に概ね取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができない。
	A	B	C	D
②発想や構想の能力(アイデアスケッチ・作品レポート内容)	課題の内容をよく理解し、発想や構想を明確に表現するための構想を練っている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現するための構想を考えている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい部分がある。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい。
	A	B	C	D
③創造的な技能(課題作品)	必要な技能を習得し、意図に応じて表現方法を工夫して表している。	必要な技能を習得し、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得に不十分などところがあるが、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得が不十分で、表現することができない。
	A	B	C	D
④鑑賞の能力(レポート・発表内容)	作品や伝統・文化などを理解し、そのよさや美しさを味わい、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や伝統・文化などを理解し、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や伝統・文化などを理解し、自分の意見や感想を表現することができるが、内容に不十分などところがある。	内容が不十分である。

芸術（工芸Ⅲ）ルーブリック

	A	B	C	D
①関心・意欲・態度	課題について強く関心を持ち、主体的に計画的に課題を進めていくことができる。提出物は工夫して丁寧に仕上げ、締切日に提出できる。	課題に関心を持ち、計画通りに進めていくことができる。提出物は締切日に提出できる。	課題に向かう意欲が少し不足している。提出物は締切日に提出したが、完成度が低く丁寧さに欠ける。	課題に取り組もうとする意欲が感じられず、締切日を過ぎても作品が提出されない。

	A	B	C	D
②発想や構想の能力	課題の内容を深く理解し、素材に応じて工夫しながら独自の表現ができる。	課題の内容を理解し、作品として表現可能な発想・構想ができる。	課題の内容を理解しているが、表現可能な発想力や構想力に不十分なところがある。	課題の内容を理解できておらず、作品として表現可能な発想・構想ができない。

	A	B	C	D
③創造的な技能	材料や工具の使用についての知識や技術を習得し、表現しようとする作品について高いレベルで実現できる。	材料や工具使用についての知識や技術を習得し、作品表現できる。	材料や工具使用についての知識や技術の習得が少し不十分であり、作品の完成度も不足している。	材料や工具使用についての知識や技術の習得ができていない。課題に応じた作品が表現できない。

④鑑賞の能力	作品の良いと思われる点について多角的に鑑賞でき、豊富な言葉を用いて独自の考えがまとめられる。	作品の良いと思われる点について鑑賞でき、考えがまとめられる。	作品の鑑賞に際して感じたことや考えをまとめ表現するのに不十分な点がある。	作品の良さを味わうことができず、感じたことや自分なりの考えも表現できない。

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	美術Ⅲ	2	3年・総合探究コース(選択)	奥村
教科書	美術3 光村図書	副教材		

1. 学習の目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、考えたことを表現する努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。また、美術系への進学を希望している人は、できるだけ早めに相談に来てください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①美術への関心・意欲・態度 美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法に関心をもち、美術文化を尊重し、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・ワークシート等の提出状況
②発想や構想の能力 感性や想像力を働かせて、独創的な主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているかを評価します。	アイデアスケッチ、課題作品の内容やワークシートの内容(考察)
③創造的な技能 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的に表しているかを評価します。	課題作品の技術的な技能の習得状況と応用状況
④鑑賞の能力 美術作品などの表現の工夫や国際理解に果たす美術の役割、美術文化などの理解を一層深め、自己の価値観や美意識を働かせて、そのよさや美しさを創造的に味わっているかを評価します。	ワークシートの内容や発表など

4. 担当者からのメッセージ

様々な美術に関する展覧会などに足を運んで、表現にもいろいろあることを知ったり、日常生活のなかにあるデザインされたものについて考察したり、自分はどのような表現をしたいと考えるなど、美術やデザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(美術Ⅲ)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション・鑑賞	□日本と西洋の美術の表現方法の違いについての考察している。	ワークシート 国際	【 】
	・版画(シルクスクリーン)	□シルクスクリーンの技法を理解し、オリジナルのデザインによるエコバックを制作している。 □直接描くのではない間接的な描画での表現を工夫しながら制作している。	課題作品(アイデясスケッチ含) 表現	【 】
	・鑑賞会	□表現方法をこれまでの学習経験をもとに各自が工夫し、表現効果を活かした作品にしている。 □他の生徒の作品を鑑賞し、その表現の良さや技法の工夫等を感じ取り、作品批評している。	ワークシート	【 】
2	(選択)	□自主制作をするための計画を各自で立て、それに沿って制作を進めている。 □材料用具の使用の理解を深め、適切に使用している。	ワークシート(計画予定表)	【 】
	1 絵画	1 構想画 内面的世界等を表現する。構図、形(デフォルメ)、色、マチエールなどの追求をして、制作している。	課題作品 表現	【 】
	2 版画(木版画)	2 木版画(凸版) 技法や表現の特徴を理解し、各自で生成したテーマで制作している。		
	3 立体	3 立体 素材や技法、その特徴を理解し、各自で生成したテーマで制作している。	ワークシート(発表)	【 】
3	・版画(ゴム)	□絵手紙に押すための効果的なオリジナルスタンプを制作している。	課題作品	【 】
	・水墨画	□いろいろな描画用具を使って墨に親しんで描いている。 □日本や中国の水墨画の模写を体験し、筆で自由な線を描けるように練習している。 □高校生活最後の思いを絵や文字によってあらわし、絵手紙に仕上げている。	課題作品 国際 表現	【 】
	・3年間のまとめ	□高校での美術学習を振り返って反省とまとめを行い、これからの美術とのかかわりについて考えている。	ワークシート(発表)	【 】

芸術(美術Ⅲ)ルーブリック				
	A	B	C	D
①関心・意欲・態度(レポート提出)	全ての内容が的確に記載されている。期限内に提出されている。	全ての内容が記載されている。期限内に提出されている。	所々空白部分が見られる。期限内に提出できず。	内容が不十分である。期限内に提出できず。
(受講態度等)	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に概ね取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができない。
	A	B	C	D
②発想や構想の能力(アイデアスケッチ・作品レポート内容)	課題の内容をよく理解し、発想や構想を明確に表現するための構想を練っている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現するための構想を考えている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい部分がある。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい。
	A	B	C	D
③創造的な技能(課題作品)	必要な技能を習得し、意図に応じて表現方法を工夫して表している。	必要な技能を習得し、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得に不十分なところがあるが、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得が不十分で、表現することができない。
	A	B	C	D
④鑑賞の能力(レポート・発表内容)	作品や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを味わい、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や美術文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や美術文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができるが、内容に不十分なところがある。	内容が不十分である。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語表現Ⅱ	2	3年総合探究コース	今井 谷本 西川
教科書	Vision Quest English Expression II Hope	副教材	英語の構文 80 (美誠社) 英文法・語法 Engage (いっずな書店)	

1. 学習の目標

- ① 積極的に英語に触れ、四技能のうち特に『書く』ことに重点を置き、取り組むこと
- ② 論理の展開や表現の方法を工夫しながら、さらに英語で表現することができるようになること

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

実力アップには、まずなにより実際に英語を『書く』ことです。授業の前には、基本例文を暗記するように心がけ、文法・語法などの項目を確認しておいてください。それらを基本にして問題（英作など）を実際に自分で書いてみましょう。それを授業で確認し、自分の作った英文のどこがおかしいのかを確認していくことが大切です。不明な点は積極的に質問してください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度（英語を用いようとする積極性） プリント等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

自分が作る英文は、他の人とは違います。答えを写して覚えるだけといった勉強方法をしている人が多いですが、それでは実際の英作文の力にはつながりません。他のどの科目よりも自分で積極的に質問し英語を書き、表現能力を上げることが一番のカギです。

	A 1	A 2	A 2～B 1	B 1	B 1～B 2	B 2
C E F R (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、だれと知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくりははっきりと話して助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物。地元の地理、仕事など、直接的時間形がある領域に関しては、分野よく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。		仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC 4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞きわけることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはしっかり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報（名前・住所・家族など）を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック（家族や学校生活）について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄（趣味・家族・出来事など）について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をするができる。 身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年 間 授 業 計 画

		Vision Quest	構文ノート	Engage			自己評価
1学期	中間	担当者から連絡	担当者から連絡	担当者から連絡			
	期末						
2学期	中間						
	期末						
3学期	中間						
	期末						

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語長文特講	2	3年総合探求コース	脇田・並木
教科書	Cutting Edge 1 2023 (エミル出版)	副教材	Listening&Reading 2 LR (いいずな書店)	

1. 学習の目標

受験に必須の長文読解に関して、様々な問題演習に取り組むことで、入試における長文読解の苦手意識をなくし、入試を突破できる力を養うことを目標とします。その方策として、少し容易な速読演習にも取り組み、英文の長短に関わらず、要旨をとりながら的確に内容を読み取る力の習得を目指します。他に、表現力や語彙力の強化にも取り組み、英語全般のより深い理解も目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

目指すのは「早く正確に読む」です。教材はきちんと時間を決めて読み、問題を解く訓練を事前に（予習）することが大切です。読解力は『初見の文』にいかに対応できるかがカギとなるので、授業中に、決められた時間内で決められた量を読む速読演習を活用して力を養ってください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度（英語を用いようとする積極性） ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

「長文読解の苦手をなくす」のは、すぐにはできません。近道は、容易な文の速読を活用して、速読能力を鍛えることです。何事にも真摯に取り組むことが、入試突破への近道だと考えます。

C E F R (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	A 1	A 2	A 2～B 1	B 1	B 1～B 2	B 2
	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と言ひ返しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができる。どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単な日常の範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しない母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる。さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC 4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使うようにしましょう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしましょう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。 物語文をどんどん読める。 評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。 自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。 英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはしっかり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をすることができる。 身近な場面、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年 間 授 業 計 画 [科 目 名]

		Cutting Edge 1	L&R 2	テキスト3	テキスト4	テキスト5	自己評価
1学期	中間	Chapter 1～3	担当者の指示による				
	期末	Chapter 4～6					
2学期	中間	Chapter 7～10					
	期末	Chapter 11～14					
3学期	中間						
	期末	Chapter 15					

令和5年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	3年総合探究コース	脇田・今井・ 谷本・西川
教科書	Grove English Communication III (文英堂)	副教材	英単語・熟語BricksI(いづな書店)・英文法語法Engage(いづな書店)・Mileage Reader③(いづな書店)・Hyper listening Elementary(桐原書店)	

1. 学習の目標

- ① 一定の長さの英文を独力で読み、そこから情報や書き手の意向などを理解する。
- ② 一定の長さの英文を聴いて、そこから情報や話し手の意図を理解する。
- ③ 理解した内容に従って英語や日本語の質問に答える。
- ④ 上記の3つに必要な英語の構造・語彙・文法知識を復習・習得する。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

漫然と英文を読むのではなく、制限時間を設定するなど、少しでも読む速度を上げるよう意識すること。
予習・復習の仕方を工夫し、自分に最適な学習スタイルを確立すること。
定期試験は言うまでもなく、平常の小テストについても必ず準備をしておくこと。
初見問題にも対応できるように、授業の教材だけではなく常に新しい語彙を増やす努力をすること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況 ※授業内で指示
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ライティング課題等 ※授業内で指示
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等 ※授業内で指示
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等 ※授業内で指示

4. 担当者からのメッセージ

入試など進路を意識した学習になりがちな3年次ですが「進路が決まったら、英語の勉強も終わり」ではありません。仕事でも勉強でも生涯使える道具である英語を、使いたい時に自由に使えるよう、高校最後の1年で土台作りを仕上げましょう。

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常の表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができる。住んでいるところや、だれと知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくりはつきりと話して助けが得られるならば、簡単	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物。地元の地理、仕事など、直接的時間形がある領域に関しては、分野よく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。		仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。 物語文をどんどん読める。 評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。 自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。 英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い文または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話することができる。 身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画

		①教科書 Grove ECⅢ	②英単語・熟語 Bricks I	③英単語語法 Engage	④Mileage Reader③	⑤Hyper Listening	
1学期	中間	Lesson1-5	別途指示します	別途指示します	別途指示します	別途指示します	
	期末	Lesson5-10					
2学期	中間	Lesson11-16					
	期末	Lesson17-22					
3学期		Lesson23-25					
	期末						

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	3年環境理数コース	東／谷本
教科書	Revised LANDMARK English CommunicationⅢ(啓林館)	副教材	① ENGAGE(いっずな書店) ② 必携英単語LEAP(数研出版) ③ Mileage Reader4(いっずな書店) ④ Hyper Listening Pre-Intermediate(桐原書店) ⑤ スタディサプリ	

1. 学習の目標

(1) 少し難易度の高い英文を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を伸ばす。(2) この能力を活用して、積極的に英語でのコミュニケーションを図る態度を養う。(3) 英文読解の能力を高めるために、英文構造を理解し、後戻りしない読みができるようにさせる。(4) 同時に、語彙力、構文・文法の知識の復習も行わせる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

授業内の限られた時間の中で、読み切る意識を持つこと。自分の英語力に合わせて、課題を明らかにし、予習をしっかりとる、あるいは、復習に時間をかける、など、自分の学習スタイルを作ること。小テストについては、必ず準備をしてのぞむこと。定期考査の応用問題、英文初見問題に対応できるように、日頃から、幅広く英語でも、日本語でも、文章を読んでおくこと。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ノート等の提出状況 ※授業内で指示
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、ライティング課題等 ※授業内で指示
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等 ※授業内で指示
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等 ※授業内で指示

4. 担当者からのメッセージ

どの教科・科目の学習においても、継続することが大切です。受験が終わったら、終わりではなく、そのあとの学習に繋がる土台作りを目指してください。時間が限られている中で、できる限りの努力をし、将来の目標に向かって集中して取り組みましょう。

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、だれと知り合っているか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくりはっきりと話して助けが得られるならば、簡単なやり取り	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物。地元の地理、仕事など、直接的時間形がある領域に関しては、分野よく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。		仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。 物語文をどんどん読める。 評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。 自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。 英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い文または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をすることができる。 身近な場面、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画

		①教科書 MAINSTREAM	② ENGAGE	③ 英単語 LEAP	④ Mileage Reader 4	⑤ Hyper Listening Pre-Intermediate	⑥ スタディーサブリ
1学期	中間	Chapter1～2	担当者の指示による	担当者の指示による	担当者の指示による	担当者の指示による	担当者の指示による
	期末	Chapter3～4					
2学期	中間	Chapter5～6					
	期末	Chapter7～8					
3学期	期末	Chapter 9					

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語表現Ⅱ	2	3年英語人文・環境理数コース	脇田
教科書	Vision Quest English ExpressionII Hope	副教材	Vision Quest English Expression NEW WORKBOOK 英語の構文80（美誠社） Engage（いづな書店）スタディサプリ他	

1. 学習の目標

- ① 英語と日本語の語順の違いを認識し、表現したい内容を的確に英語に置き換えて表現できる。
- ② 一定の長さの英文を、英語のパラグラフ構成を用いて書ける。
- ③ 上記に必要な英語の構造・語彙・文法知識を復習・習得する。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

日本語の「字面」を逐語的に英語に置き換えるのではなく、表現したい「内容」を把握し、それに最適な英語の語彙や構文を使って表現できるよう、英語だけでなく日本語の知識も増やしましょう。学習方法を常に工夫し、最適な学習スタイルを確立すること。平常の小テストは必ず準備をしておくこと。初見問題にも対応できるように、授業の教材だけではなく常に新しい語彙や表現を増やす努力をすること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度（英語を用いようとする積極性） ワークシート等の提出状況 ※授業内で指示
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、プレゼンテーション ライティング課題等 ※授業内で指示
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等 ※授業内で指示
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等 ※授業内で指示

4. 担当者からのメッセージ

仕事でも勉強でも生涯使える道具である英語を、使いたい時に使えるよう、高校最後の1年で自信をつけましょう。
教材は当初、2年次のVisionQuestと英語の構文80その他を使い、その後、新しい教材を購入する予定です。

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができる。住んでいるところや、だれと知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくりはっきりと話して助けが得られるならば、簡単に	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元、地理、仕事など、直接的時間形がある領域に関しては、分野よく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。		仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないので普通にやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使うようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはっきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日・ち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をすることができる。身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画

		①教科書VisionQuest	②英語の構文80	③英文法・語法Engage	④Vision Quest WORKBOOK	⑤スタディサプリ	
1学期	中間	Part1 Lesson7	1～3	別途指示します	別途指示します	別途指示します	
	期末	Part1 Lesson8	4～7				
2学期	中間	Part2	8～10				
	期末		11～14				
3学期	期末	Part3	15～18				

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	3年 英語人文コース	ウッドワース
教科書	Revised LANDMARK English CommunicationⅢ(啓林館)	副教材	① ENGAGE(いっずな書店) ② 必携英単語LEAP(数研出版) ③ Mileage Reader4(いっずな書店) ④ Hyper Listening Pre-Intermediate(桐原書店) ⑤ スタディサプリ	

1. 学習の目標

① 少し難易度の高い英文を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を伸ばす。② この能力を活用して、積極的に英語でのコミュニケーションを図る態度を養う。③ 英文読解の能力を高めるために、英文構造を理解し、後戻りしない読みができるようにさせる。④ 同時に、語彙力、構文・文法の知識の復習も行わせる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

授業内の限られた時間の中で、読み切る意識を持つこと。自分の英語力に合わせて、課題を明らかにし、予習をしっかりとる、あるいは、復習に時間をかける、など、自分の学習スタイルを作ること。小テストについては、必ず準備をしてのぞむこと。定期考査の応用問題、英文初見問題に対応できるように、日頃から、幅広く英語でも、日本語でも、文章を読んでおくこと。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況 ※授業内で指示
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ライティング課題等 ※授業内で指示
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等 ※授業内で指示
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等 ※授業内で指示

4. 担当者からのメッセージ

どの教科・科目の学習においても、継続することが大切です。受験が終わったら、終わりではなく、そのあとの学習に繋がる土台作りを目指してください。時間が限られている中で、できる限りの努力をし、将来の目標に向かって集中して取り組みましょう。

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、だれと知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくりはっきりと話して助けが得られるならば、簡単なやり取り	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物。地元の地理、仕事など、直接的時間形がある領域に関しては、分野よく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。		仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。 物語文をどんどん読める。 評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。 自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。 英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い文または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をすることができる。 身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画

		①教科書 MAINSTREAM	② ENGAGE	③ 英単語 LEAP	④ Mileage Reader 4	⑤ Hyper Listening Pre-Intermediate	⑥ スタディーサブリ
1学期	中間	Chapter1～2	担当者の指示による	担当者の指示による	担当者の指示による	担当者の指示による	担当者の指示による
	期末	Chapter3～4					
2学期	中間	Chapter5～6					
	期末	Chapter7～8					
3学期	期末	Chapter 9～10					

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	リスニング特講	2	3年英語人文コース	ウットワース
教科書	HyperListening Intermediate	副教材	CNN Workbook Extended Course	

1. 学習の目標

大学受験、特にセンター試験でのリスニングテストに対応した英語を聞き取る力を高める。オーセンティックな音声を聞き、ストーリーや論の展開について中心的な事柄が理解できるようになる。そのために必要な語彙や文構造の習得、音声の変化についての理解と実践に努める。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習として、語彙をチェックし、意味を確認しておく。
復習では、語彙を定着させ、習った英文を暗唱できるレベルまで何度も音読(シャドウイング・オーバーラッピング等)する。滑らかに音読できるまで練習を繰り返す。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

正しいトレーニングをすれば、英語は必ず聞き取れるようになります。特に音声の特徴を理解し、実践するため音読活動やその他さまざまな活動に主体的に取り組んでください。ただし授業で取り組んだだけではリスニング力は伸びません。授業以外にどれだけ英語に触れるか、自宅で何度トレーニングを繰り返すかがカギになります。正しい方法で取り組めば必ず力は伸びます。頑張ってください。

年間学習計画

		A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠		具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合い、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に应付することができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者となり取りがでるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検		3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能(1280点)		～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)
		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をするることができる。身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画[科目名]

		HyperListening	CNN	テキスト3	テキスト4	テキスト5	自己評価
1学期	中間 期末	1,2,3,4,5,6,7,8	1,2,3,4,5,6,7,8				
2学期	中間 期末	9,10,11,12,13,14,15,16	9,10,11,12,13,14,15,16				
3学期	中間 期末	17,18,19,20	17,18,19,20				

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語長文演習	4	3年英語人文コース選択	松浦
教科書	SKYWARD 2nd Edition(桐原書店)	副教材	英語4技能型テストへのアプローチ2(数研出版)	

1. 学習の目標

英語の言語としての構造(構文、文法、語彙など)を理解し、長文を正確に読み取る力を伸ばすことを目指す。様々なテーマの英語長文に数多く接し、英文の論理 関係を把握する能力の育成を図り、長文入試問題に対応できる力を養成する。またリスニングを通して速読を目指す教材を用い、できるだけ速く英文の大筋を読み取る練習をする。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

辞書を使わず最初から最後まで読み進め、大意を取る。未知の単語や熟語、理解しにくい文の文法等を調べる。それでも理解できないところをチェックし、授業に臨み、疑問を解決する。復習において語彙文法の再確認を行い、音読により正しい発音とリズムをつかみ、読解力の定着を図る。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ノート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

英語の学習は、どれだけ「日常の当たり前」に落とし込めるかだと思います。毎日の地道な学習を、当たりのルーティーンとして、正しい方法で、積み重ねてください。確実に力は伸びると思います。頑張ってください。

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合い、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常的な事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者となり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる。さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使うようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。 英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはっきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりと論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日・場所・個人のトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をすることができる。 身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画

		SKYWARD	英語4技能型テストへのアプローチ			
1学期	中間	Unit 1 - Unit4	授業のなかで適宜担当より指示			
	期末	Unit 5 - Unit8	↓			
2学期	中間	Unit9 - Unit12	↓			
	期末	Unit13 - Unit16	↓			
3学期	中間		↓			
	期末	Unit17 - Unit20	↓			

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
家庭	フードデザイン	2	3年総合探求コース選択	玉岩・竹中
教科書	フードデザイン(実教出版)	副教材		

1. 学習の目標

食生活に関心を持ち、基本的な調理技術や食を科学的に理解する力を身につけ、食事を総合的にデザインできるようになる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

実習前や、実習後に自分ひとりで同じ物を作ることです。実習の要点もふまえながら作ると頭に入ります。2度体験したことは、そう簡単には忘れません。定期考査は大半がその確認作業。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題、レポート等の提出状況
②思考・判断 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、レポートの内容
③技能・表現 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	実験・実習の技能・表現
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、レポートの内容

4. 担当者からのメッセージ

食べることは生きること。人の営みを最低限保障しています。加えて共に作る喜び、共に食べる喜びを感じてください。美味しい料理は人を幸せにできると思います。

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
家庭	子どもの発達と保育	2	3年総合探求コース選択	竹中
教科書	子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う (教育図書)			

1. 学習の目標

乳幼児期の心身の発達、生活、児童文化、集団保育等について学び、乳幼児期の特性が理解できるようになる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

教科書やノートを使用した講義が半分と、あとはグループ学習や読み聞かせ実習、調理実習、保育園実習、NIE学習になります。講義はベースとなる基本的な知識を自分自身をふり返りながら身につけていきましょう。実習等は興味を持ち、積極的に参加することが必須です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講・実習態度、課題、レポート等の提出状況
②思考・判断 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、レポートの内容
③技能・表現 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	実験・実習の技能・表現
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、レポートの内容

4. 担当者からのメッセージ

保育の学習は、子どもの発達段階等の特徴を理解し、発展させていくだけではありません。保育環境に関わる社会情勢や仕組みにも目を向けていきます。「かわいい」だけでは子どもは守れません。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	第1章子どもの生活 1・子どもの食事 2・子どもの衣服 3・子どもの遊びと生活	・乳幼児の食事の重要性を、栄養面、食習慣から考え理解できる ・新生児の衣服の特徴と衛生面について理解し、実行できる。 ・乳幼児の衣服の安全性について理解している。 ・児童文化財の意義について理解している。 ・適切な児童文化財を選択し表現活動を行うことができる。	レポート提出 調理実習 沐浴実習 読み聞かせ実習 表現
2	第2章子どもの保育 1・保育の意義と目標 2・保育の方法 3・様々な保育の場(保育園実習)	・保育の意義と目標について理解できる。 ・発達過程に応じた保育の方法を理解している。 ・発達過程に応じた児童文化財を提供できる。 ・保育園で幼児と接し、適切に関わることができる。	課題提出 児童文化財製作 保育園実習
3	第3章子どもの福祉と子育て支援 1・子どもの福祉 2・子育て支援	・子どもの貧困等、子どもを取り巻く現状の課題について考える。 ・現代の子育てにおいて、社会的な支援の必要性について知る。	レポート提出 DVD視聴による課題提出

令和5年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な学習の時間	北稜探求Ⅲ	2	3年総合探求コース選択	玉岩・竹中
教科書				

1. 学習の目標

日常生活に関する様々なテーマを設定し、それについて自ら考え、表現する力を育成する。その中で自己のあり方・生き方について考える力を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

興味がないこと、日頃考えたことがないことを知ることから「生活総合」の学習は深まります。まずは、知ることに関心になりましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題、レポート等の提出状況
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	レポートの内容
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	意見発表
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	レポートの内容

4. 担当者からのメッセージ

生活総合を選択したので、とにかく生活に関する様々なことに興味、関心、疑問を持ってください。

年 間 学 習 計 画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動
1	1・自立してひとりで生活する	・求人票を読み取ることができる。 ・条件に合った適切な住居を選択することができる。 ・家計を試算することができる。 ・正社員とフリーターの違いを理解できる。	・課題提出
2、3	2・テーマに沿って考える テーマに沿って作成する	・テーマに沿って作業することができる。 ・テーマに沿って思考を深めることができる。 ・テーマに沿って意見を発表することができる。	・課題提出 ・意見発表 ・実習